

令和6年度 文部科学省委託事業
「各学校・課程・学科の垣根を超える高等学校改革推進事業における
指定ネットワークの伴走支援・研究委託」

中間報告書

認定NPO法人カタリバ

目次

1. 本事業の概要.....	3
1.1. 背景と目的.....	3
1.2. 実証地域の概要.....	3
1.3. 伴走支援および調査の概要.....	4
2. 遠隔授業に関する調査・伴走支援.....	8
2.1. 各地域の基本情報.....	8
2.2. 遠隔授業の質保証に関する調査.....	8
2.2.1. 予備調査概要.....	8
2.2.2. 本調査概要.....	9
2.2.3. 本調査項目.....	10
2.2.4. 生徒アンケート結果	14
2.2.5. 教員アンケート分析.....	22
2.2.6. クロス分析結果.....	39
2.2.7. 小括 - 遠隔授業の質保障に向けた課題.....	50
2.3. 遠隔授業における多様な受信体制の構築.....	51
2.4. 各地域における課題（遠隔授業）	52
3. 通信教育に関する調査・伴走支援.....	54
3.1. 各地域の基本情報 - 各地域における取り組みのポイント.....	54
3.2. 通信教育の活用に関する課題調査.....	57
4. 指定ネットワークに対する伴走支援.....	60
4.1. 指定ネットワークの担当者間ネットワーキング.....	60
4.2. 指定ネットワーク間の情報共有ツールの整備.....	61
5. 令和7年度以降に取り組むべき課題.....	62
5.1. 伴走支援・調査の方向性.....	62
6. 参考資料 - 授業に関する評価と授業満足度の関連（2.2.6 未掲載データ）	63

1. 本事業の概要

1.1. 背景と目的

高等学校は、進学率が約99%に達し、今日では中学校を卒業したほぼ全ての生徒が進学する教育機関となっている。高等学校には多様な背景を持つ生徒が在籍していることから、義務教育段階において育成された資質・能力を更に発展させながら、生徒の多様な能力・適性、興味・関心等に応じた学びを実現することが必要である。

しかし現状では、学校の立地、リソース等に伴う制約により、学校が生徒の多様な学習ニーズに対応しきれていない、若しくは潜在的なニーズを引き出せていないといった課題がある。このため、令和5年8月の高等学校教育の在り方ワーキンググループ中間まとめにおいては、こうした課題を解消するために、地理的状況や各学校・課程・学科の枠に関わらず、いずれの高等学校においても多様な学習ニーズに対応し、潜在的なニーズに応える柔軟で質の高い学びを実現し、全ての生徒の可能性を最大限引き出すことができるようにしていくべきであり、このための方策として、教科・科目充実型の遠隔授業や通信教育の活用、学校間連携等の促進等を一層進めていくことが重要とされている。

これらも踏まえ、遠隔授業や通信教育を活用した積極的な学校間連携等のネットワークを構築するための配信センターについて、その取組の伴走支援を行うとともに、学校間連携等に取り組む上で有効な制度等の調査研究を実施する。

1.2. 実証地域の概要

図表1-1 実証地域・構成校一覧

実証地域	構成校等
岩手県	葛巻高等学校／西和賀高等学校／花泉高等学校／山田高等学校／種市高等学校／伊保内高等学校
山形県	庄内配信ベースセンター(SSBC)／加茂水産高校／遊佐高校／庄内総合高校
静岡県	静岡県総合教育センター／静岡中央高校／伊豆総合高校土肥分校／伊豆総合高校／浜松湖北高校佐久間分校／浜松湖北高校／稲取高校／松崎高校／下田高校／下田高校南伊豆分校／熱海高校／川根高校／天竜高校／天竜高校春野校舎
名古屋市	菊里高校／向陽高校／桜台高校／北高校／緑高校／富田高校／山田高校／名東高校／西陵高校／名古屋商業高校／若宮商業高校／工業高校／工芸高校／中央高校
高知県	遠隔授業配信センター(高知県立岡豊高等学校教育センター分室)／室戸高校／中芸高校／嶺北高校／佐川高校／窪川高校／檮原高校／大方高校／清水高校
島根県	島根県教育センター／宍道高校／浜田高校／大東高校／横田高校／三刀屋高校掛合分校／飯南高校／隠岐高校／隠岐島前高校／島根中央高校／矢上高校／江津高校／吉賀高校／津和野高校／松江商業高校／出雲商業高校／松江農林高校／出雲農林高校
長崎県	長崎県遠隔教育センター／豊玉高校／宇久高校／奈留高校／北松西高校／中五島高校／平戸高校
熊本県	第一高校／小国高校／球磨中央高校／牛深高校
大分県	大分県立遠隔教育配信センター／国東高校／大分南高校／情報科学高校／中津南高校／日田高校／宇佐高校／高田高校／臼杵高校／佐伯鶴城高校／杵築高校／別府鶴見丘高校／竹田高校／玖珠美山高校／安心院高校／三重総合高校／久住高原農業高校／中津南高校耶馬溪校

宮崎県	宮崎県教育研修センター／五ヶ瀬中等教育学校／高千穂高等学校／延岡星雲高校／延岡高校／日向高校／高鍋高校／妻高校／宮崎北高校／宮崎大宮高校／宮崎南高等学校／宮崎西高校／宮崎海洋高校／小林高等学校／飯野高校／日南高校／福島高校／都城泉ヶ丘高校／都城西高校
鹿児島県	鹿児島県総合教育センター／大島北高等学校／古仁屋高等学校／喜界高等学校／与論高等学校

1.3. 伴走支援および調査の概要

令和6年度は、指定ネットワークの伴走支援および制度の在り方に関する調査研究として以下を実施した。

◆各指定ネットワークにおける検証ポイントの整理および進捗支援

- ・本事業における検証ポイントを整理し、3ヵ年を通じて明らかにすべき事項を整理
- ・各指定ネットワークの実施計画をとりまとめ、定期面談を通じて、各地域の検証事項（問い）を具体化

◆遠隔授業・通信教育の実施状況に関する調査

- ・各地域への現地訪問調査（第二次公募までで決定の9地域への訪問）
- ・各採択地域との定期面談を通じた状況把握・課題調査

◆遠隔授業の質保障に関する調査

①インタビュー調査を通じた質問紙設計

- ・遠隔授業に携わった教員へのインタビュー
- ・受信校生徒へのインタビュー

②質問紙調査の設計および実施

- ・遠隔授業の効果および効果的に行われる条件に関するアンケート

◆地域間の知見交流機会の設定

①各指定ネットワークの基本情報の収集・共有

- ・実施計画書の収集・共有 および 令和6年度遠隔授業一覧の作成

②情報交流掲示板の設置

- ・遠隔授業及び通信教育について、相互に情報交換する機能の作成
- ・各地域共通で作成する資料の収集・共有

③採択地域職員の横連携機会の創出

- ・指定ネットワークの行政担当者間の連携機会を創出（オンライン・対面）

1.3.1. 実施経過

図表1-2 実施経過

年月	内容
令和6年 5月	◆各県との第1回オンラインミーティングの開催： ・各県より実施計画について説明を受け、本事業に関するスケジュールを確認 実施自治体：岩手県・静岡県・高知県・長崎県・熊本県・宮崎県
6月	◆本事業における検証観点の一覧整理： ・遠隔授業・通信教育について、各県との共通認識をはかるため、本事業で検証すべき観点を整理しビジュアル資料を作成

7月	◆各県との第2回オンラインミーティングの開催： ・本事業において検証が望まれる観点を確認し、各県における検証事項を「問い」の形で整理 実施自治体：岩手県・静岡県・高知県・長崎県・熊本県・宮崎県
8月	◆各県との合同オンラインミーティングの開催： ・各県より検証事項（問い）を発表した上で、検証方法や取り組む上での課題等について意見交換 ◆二次公募で採択された2地域との初回面談 ・各県より実施計画について説明を受け、本事業に関するスケジュールを確認 実施自治体：大分県、鹿児島県
9月	◆各県との第3回オンラインミーティングの開催： ・各県の検証事項に沿い、令和6年度に取り組む検証内容について整理 ◆現地訪問視察： ○長崎県 ・長崎県遠隔教育センターにおける遠隔授業配信(化学)※補習 ・長崎県立豊玉高等学校における遠隔授業受信（情報）
10月	◆現地訪問視察： ○鹿児島県_鹿児島県教育委員会における意見交換会 ○宮崎県_宮崎県教育支援センター「コネクト」 ◆各県合同でのオンライン意見交換会： ・不登校生徒等への通信教育に関する情報共有会の開催 ◆ヒアリング調査： ・遠隔授業配信教員・受信立会教員・受講生徒へのヒアリングの実施
11月	◆現地訪問視察： ○高知県 ・高知県教育センターにおける遠隔授業配信(数学Ⅱ、論理・表現Ⅰ等) ・高知県立檮原高等学校における遠隔授業受信（数学Ⅲ） ・高知県立佐川高等学校における遠隔授業受信（論理・表現Ⅱ） ◆ヒアリング調査： ・遠隔授業配信教員・受信立会教員・受講生徒へのヒアリングの実施
12月	◆現地訪問視察： ○熊本県 ・熊本県立第一高等学校における遠隔授業配信（数学B） ・同行委員：東原委員 ○静岡県_静岡県立中央高等学校における通信教育活用に関する意見交換会 ◆各県合同でのオンライン意見交換会： ・遠隔授業に関する意見交換会(2回)の開催 ◆遠隔授業の調査に関する指導助言会： ・運営指導委員によるカタリバへの指導助言の実施（オンライン）
令和7年 1月	◆冬季合同ミーティング（対面参集）： ・各県が東京都内に参集し、遠隔授業・通信教育に関する取り組み、知見及び課題の共有を実施 ◆遠隔授業における質保証に関するアンケート調査：

	・各県の遠隔授業について、配信教員・生徒へのアンケートを依頼 ◆各県との第4回オンラインミーティングの開催： ・R7年度に取り組む検証内容および伴走支援内容について整理 ◆現地訪問視察： ○大分県 ・大分県配信センターにおける遠隔授業配信(数学・英語) 同行委員：北村委員
2月	◆遠隔授業における質保証に関するアンケート調査： ・各県の遠隔授業について、配信教員・生徒へのアンケート実施 ◆現地訪問視察： ○岩手県_岩手県配信センターにおける遠隔授業配信(地理探究) ○島根県_雲南市内高校における通信教育活用に関する打ち合わせ ◆各県との第4回オンラインミーティングの開催： ・R7年度に取り組む検証内容および伴走支援内容について整理

運営指導委員会について

本事業では運営指導委員会を設置し、年2回有識者からの指導・助言を受けた。委員会では、遠隔授業・通信教育の実施状況や課題、今後の展望について検討を行った。

図表1-3 運営指導委員

役職	氏名（敬称略）
千葉大学教育学部 教授	貞広 斎子
東北学院大学文学部 教授	稲垣 忠
国立教育政策研究所 教育政策・評価研究部 総括研究官	植田 みどり
北海道教育大学教職大学院 特任教授	北村 善春
信州大学 名誉教授	東原 義訓
鹿児島大学 法文学部 准教授	平田 祐太郎

図表1-4 令和6年度運営指導委員会実施日程

役職	実施日	議題
第1回	令和6年9月24日 (オンライン)	・令和6年度実施計画について ・各地域における進捗状況・課題について ・遠隔授業の状況調査アンケートについて
第2回	令和7年2月20日 (オンライン)	・令和6年度の各地域の進捗状況について ・令和7年度の伴走支援・調査計画について

1.3.2. 本事業の検証ポイント

本事業の実施にあたり、各県と共通認識を持って検証を進めるため、検証すべきポイントを整理し、図表化して共有を行った。この整理をもとに定期的な進捗確認や情報共有を実施した。

図表1-5 本事業における検証ポイント（遠隔授業・通信教育）



2. 遠隔授業に関する調査・伴走支援

本章では、令和6年度における遠隔授業の検証状況について報告する。

2.1. 各地域の基本情報

令和6年度に本事業内において単位認定を伴う遠隔授業を実施したのは、全11地域中、5地域であった。教科・科目は下記の通りである。

図表2-1 令和6年度単位認定を伴う遠隔授業実施地域および教科・科目

実施地域	センター配信型	学校間連携型 ※本校－分校間含む
岩手県	地理探究／地理総合／情報Ⅰ／物理	
静岡県		地理総合／世界史探究／生物基礎演習
高知県	数学Ⅰ／数学Ⅱ／数学Ⅲ／数学A／数学B／数学C／物理／生物英語コミュニケーションⅡ／英語コミュニケーションⅢ／論理・表現Ⅰ／論理・表現Ⅱ／論理・表現Ⅲ／情報Ⅰ	
長崎県	情報Ⅰ	地理探究／日本史探究
熊本県		数学B／数学C／マーケティング／発展英語

なお、単位認定を行わないものとして、各地域で次年度の本格運用を見据えた試行配信や長期休業中および放課後の特別講座、教師支援型のスポット型授業が実施された。

2.2. 遠隔授業の質保証に関する調査

2.2.1. 予備調査概要

年度末の本調査（アンケート）に先立ち、予備調査としてこれまでに遠隔授業に携わった経験のある配信者教職員・立会者教員および生徒への事前ヒアリングを実施した。

図表2-2 事前ヒアリング調査概要

調査期間	令和6年10月～11月
実施形態	オンライン面談（Zoom）
調査対象	生徒：令和5年度までに単位認定を伴う遠隔授業を受講した経験のある者 教職員：1～3年程度遠隔授業に携わった経験のある教職員
調査件数	生徒：11名 教員：15名（配信者9名、立会者5名、授業担当者1名）

予備調査では、習熟度別授業や選択科目など、少人数での遠隔授業を経験している生徒や教員において、遠隔授業への肯定的な評価が多く見られた。その背景には、コミュニケーション

の取りやすさや、生徒一人ひとりの様子を把握しやすいことなどが挙げられる。また、少人数同士をつなぐ複数校での合同授業では、「同級生が増えたような感覚」や「多様な意見・考え方に触れることができる」といった、遠隔授業ならではの学びの広がりも一部確認された。

一方で、近年増加傾向にある必修科目等の大人数クラスでは、教員・生徒双方から「集中の持続が難しい」「反応が乏しい」「学力差への対応が難しい」といった課題が指摘され、遠隔授業ならではの制約が浮き彫りになった。対面であれば可能な細やかな対応や教室全体の雰囲気把握が、遠隔では難しくなる傾向がある。

こうした現状を踏まえると、クラスの人数規模を問わず、すべての生徒に対して遠隔の特性を生かしながら主体的・対話的で協働的な学び、個別最適な学びの機会をいかに保障していくかが、今後の重要な課題であると考えられた。

2.2.2. 本調査概要

以上の結果を踏まえ、令和6度末に今後の2年間の実証を見据え、以下を目的として本調査（アンケート）を実施することとした。

図表2-3 遠隔授業の質保証に関するアンケート調査目的

遠隔授業の質のモニタリング	遠隔授業の効果・影響および授業評価、各種機会に関するデータを収集し、現時点での状況を把握する。今回の調査はモニタリングの1年目にあたるため、今後の変化を継続的に追っていくための基礎データの蓄積をする。
伴走支援への活用	遠隔授業における優れた実践を抽出・共有し、次年度以降の遠隔授業ガイドライン作成および各県への伴走支援検討にあたっての基礎資料として活用する。

調査の概要は、以下の通りである。

図表2-4 遠隔授業の質保証に関するアンケート調査概要

調査期間	令和7年2月1日～2月28日
実施形態	Webアンケート
調査対象	教育課程内で単位認定を伴う遠隔授業を実施した配信教員および受講生徒
アンケート種別および回答数	生徒アンケート 回答数：400人32クラス 教員アンケート 回答数：21人31クラス ※ただし立会者教員2名の回答を除く19人31クラスのデータを使用した

複数クラスに配信を行った教員については、最大3クラス分について回答を依頼した。一つの教科・科目について複数クラス教えている場合は、上述の調査目的を鑑み、最大人数クラスと最少人数クラスを優先して個別に指定した。なお生徒については、受講している全ての教科・科目についての回答を求めた。

2.2.3. 本調査項目

調査目的にあわせて、質問項目を作成した。回答者に関する項目以外について、以下にカテゴリおよび具体的な内容を示す。なお、質問項目は下記資料を参考に作成した。

- ベネッセ(2023) 小中高の学習指導に関する調査
- 文部科学省(2024) 「CORE ハイスクール・ネットワーク 構想における小規模高等学校ネットワークモデルに関する調査研究」 最終報告書

図表2-5 遠隔授業の質保証に関するアンケート調査項目（生徒）

①学校・回答者に関する項目	
学校に関する項目	学校のある都道府県を教えてください（選択肢）
	学校名を教えてください（自由記述）
回答者に関する項目	あなたの学年を教えてください（選択肢）
	あなたのクラスを教えてください（自由記述）
	あなたの出席番号を教えてください（自由記述）
	今年度、あなたが受講した遠隔授業の教科・科目名を教えてください（選択肢）
②授業評価：あなたは、遠隔授業で受講した教科・科目について、どのように思っていますか。	
興味関心	その教科・科目に対する興味関心がある（4件法）
苦手の程度	その教科・科目は苦手である（4件法）
将来性	その教科・科目の勉強は、将来、社会に出たときに役に立つと思う（4件法）
授業体験	この授業のスピードは、自分にとってちょうどよいと思う（4件法）
	私は、この授業に集中して取り組むことができたと思う（4件法）
	私は、この授業に引き込まれていたと思う（4件法）
	この授業について、先生の指示や説明の仕方は分かりやすいと思う（4件法）
	この授業の先生は、生徒一人ひとりのことをよく理解しようとしていると思う（4件法）
	この授業の先生から、授業をよりよくしようとする熱意が伝わってくる（4件法）
	この授業では、先生やクラスメイトに自分の意見や考えを言えたと思う（4件法）
	この授業では、先生やクラスメイトに自分の意見や考えを聞いてもらえたと思う（4件法）
通信環境	この授業では、通信環境が悪いことで授業へ支障が出ることがあったと思う（4件法）
立会者	この授業では、立会者の先生が通信機器に関してサポートしてくれたと思う（4件法）
	この授業では、立会者の先生が通信機器以外でサポートしてくれたと思う（4件法）
	この授業について、改善してほしい点があれば教えてください。（自由記述）
③授業での機会：遠隔授業で受講した教科・科目では、次のような機会はどれくらいありましたか。	
主体的な学びの機会	自分の力で考える機会（4件法）
	自分の力で調べる機会（4件法）

	考えたことや感じたことを振り返る機会（4件法）
個別最適な学びの機会	自分の習熟度や進度にあった学習方法を選ぶ機会（4件法）
質問をする機会	授業中、困ったり分からなかったりするときに、先生へ口頭で質問する機会（4件法）
	授業中、困ったり分からなかったりするときに、先生へチャットなどを介して質問する機会（4件法）
	授業時間以外で、困ったり分からなかったりするときに、先生へ質問する機会（4件法）
協働的・対話的な学びの機会	教室内のクラスメイトの考えを把握する機会（4件法）
	教室内のクラスメイトと一緒に活動する（グループやペア）機会（4件法）
	他校のクラスメイトの考えを把握する機会（4件法） ※この質問は他校の生徒と一緒に授業を受けている場合のみ答えてください
	他校のクラスメイトと一緒に活動する（グループやペア）機会（4件法） ※この質問は他校の生徒と一緒に授業を受けている場合のみ答えてください
④授業の効果・影響：あなたは、遠隔授業で受講した教科・科目について、どのように思っていますか。	
興味関心	この授業を受けて、この教科・科目に興味関心が深まったと思う（4件法）
学習理解	この授業を受けて、学習内容を理解できたと思う（4件法）
満足度	この授業について、どの程度満足していますか（4件法）
	一つ前の質問「この授業について、どの程度満足していますか」について、「とても満足している」「やや満足している」「あまり満足していない」「まったく満足していない」のいずれかを選択した理由を教えてください（自由記述）
⑤遠隔授業全般へ総合所感	
対面授業との比較に関する項目	対面授業と比べて、良かった点があれば教えてください（自由記述）
	対面授業と比べて、困った点があれば教えてください（自由記述）

図表2-6 遠隔授業の質保証に関するアンケート調査項目（教員）

①配信授業・回答者に関する質問	
回答者に関する項目	学校のある都道府県を教えてください（選択肢）
	所属先を教えてください（自由記述）
	あなたのお名前を教えてください（自由記述）
	今年度末までの、あなたの教員歴（臨時的任用、非常勤講師などの期間を含む）を教えてください（選択肢）
	今年度末までの、あなたの遠隔授業配信の経験年数を教えてください（選択肢） ※ 累積経験年数をお答えください
配信した遠隔授業に関する項目	今年度、あなたが配信した遠隔授業の教科・科目名を教えてください（選択肢） ※2つ以上ある場合は、まず1つの教科・科目名を教えてください。 ※同じ教科でも複数校（複数クラス）に別々に配信している場合は、まず、1クラス目について教えてください。2クラス目については、後ほど出てくる2教科・科目目の回答欄へお答えください。
	この遠隔授業について対象学年を教えてください（選択肢）
	この遠隔授業について、受信校の位置づけとしてあてはまるものを一つ選んでください（選択肢）

	この授業を遠隔授業として実施する理由について、あてはまるものをすべて選んでください（選択肢）
②授業評価：あなたは、ご自身が実施したこの遠隔授業について、どのように思っていますか。	
生徒の集中	この授業に、生徒は集中して取り組んでいたと思う（4件法）
	生徒を授業に引き込むために、授業者として行っている工夫があれば教えてください（自由記述）
	生徒を授業に引き込むために、授業者として課題と考えていることがあれば教えてください（自由記述）
見取り	この授業で、生徒の様子をよく見取ることができたと思う（4件法）
	この授業での生徒の見取りについて、授業者として行っている工夫があれば教えてください（自由記述）
	この授業での生徒の見取りについて、授業者として感じている課題があれば教えてください（自由記述）
通信環境	この授業では、通信環境が悪いことで授業へ支障が出ることがどのくらいの頻度でありましたか（選択肢）
	この授業での通信環境の課題について、授業者として行っている工夫があれば教えてください（自由記述）
立会者	この授業での、授業中の立会者の先生の役割として当てはまるものを選んでください（選択肢）
	この授業での授業前後の立会者の先生の業務として当てはまるものを選んでください（選択肢）
	この授業の実施に当たって、立会者の先生とよく連携がとれましたか（授業時間以外も含む）（4件法）
対面授業	この授業で対面授業を行った年間の回数を教えてください（自由記述） ※ 複数校に配信している場合は、一校あたりの回数をお書きください
	対面授業で行ったこととして当てはまるものを選んでください（選択肢）
③授業での機会：この遠隔授業で、生徒にとって次のような機会はどれくらいありましたか。	
主体的な学びの機会	自分の力で考える機会（4件法）
	自分の力で調べる機会（4件法）
	そのような機会にどのような方法で自分で調べさせたり考えさせたりしましたか。使用したICTツールも含め、具体的に教えてください。（自由記述）
	考えたことや感じたことを振り返る機会（4件法）
	そのような機会にどのような方法で考えたことや感じたことの振り返りをさせましたか。使用したICTツールも含め、具体的に教えてください。（自由記述）
個別最適な学びの機会	自分の習熟度や進度にあった方法を選ぶ機会（4件法）
	そのような機会にどのような方法で習熟度や進度に合った方法を選ばせましたか。使用したICTツールも含め、具体的に教えてください。（自由記述）
質問をする機会	授業中、困ったり分からなかったりするときに、先生へ口頭で質問する機会（4件法）
	授業中、困ったり分からなかったりするときに、先生へチャットなどを介して質問する機会（4件法）
	授業時間以外で、困ったり分からなかったりするときに、先生へ質問する機会（4件法）
	生徒が質問をしやすくするために工夫したことがあれば、使用したICTツールも含め、具体的に教えてください。（自由記述）
対話的・協働的な学びの機会	教室内のクラスメイトの考えを把握する機会（4件法）
	そのような機会にどのような方法で把握させましたか。使用したICTツールも含め、具体的に教えてください。（自由記述）

	教室内のクラスメイトと一緒に活動する（グループやペア）機会（4件法）
	そのような機会にどのような活動をしましたか。使用したICTツールも含め、具体的に教えてください。（自由記述）
	（複数校連携の場合）他校のクラスメイトの考えを把握する機会（4件法）
	そのような機会にどのような方法で把握させましたか。使用したICTツールも含め、具体的に教えてください。（自由記述）
	（複数校連携の場合）他校のクラスメイトと一緒に活動する（グループやペア）機会（4件法）
	そのような機会にどのような活動をしましたか。使用したICTツールも含め、具体的に教えてください。（自由記述）
④授業の効果・影響：あなたは、この遠隔授業についてどのように思っていますか。	
興味関心	この授業では、この教科・科目に対する生徒の興味関心が深まったと思う（4件法）
学習理解	この授業では、生徒の学習理解が図れたと思う（4件法）
満足度	この授業について、どの程度満足していますか（4件法）
	上の科目・教科以外に、配信した遠隔授業について教えてください。
	あなたは、今年度、上の科目・教科以外に、遠隔授業を配信しましたか（選択肢） ※今年度、遠隔授業を2教科・科目以上、配信している場合は、「はい」を選択してください ※同じ教科でも2校（2クラス）以上に、別々に配信している場合は、「はい」を選択してください
⑤遠隔授業全般への考え方：遠隔授業全般について、あなたの考えを教えてください。	
困りごと	遠隔授業を実施するにあたって、困っていることや悩んでいることがあれば教えてください（自由記述）
必要なサポート	遠隔授業を実施するにあたって、必要だと思うサポートがあれば教えてください（自由記述）
授業の工夫	これまでに教えていただいたものの以外で、授業するにあたっての工夫やこだわりがあれば、教えてください（自由記述）
挑戦したい授業	今後の遠隔授業で新たに挑戦してみたい授業実践のアイデアがあれば教えてください（自由記述）
立会者の必要性	授業中の立会者について、常に受信側の教室にいる必要があると思いますか（巡回する形でも問題ないと思いますか。）（自由記述）

アンケートで得られた回答のうち、4件法で尋ねたものについては数値に置き換えて間隔尺度とした。具体的には、「4：そう思う」、「3：どちらかといえばそう思う」、「2：あまりそう思わない」、「1：そう思わない」などである。

また上記質問項目と合わせて、各地域の教育委員会より各クラスの受講人数について情報提供を受け、アンケートデータと統合して分析した。各クラスの受講人数については、「小：8人以下のクラス」、「中：9人以上18人以下のクラス」、「大：19人以上のクラス」の3つに分類した。それぞれのクラス規模に含まれている教科・科目の一覧を下記の図表に示す。なお、規模が不明なクラスの回答は、クラス規模とのクロス集計の算出からは除外した。

図表2-7 クラス規模と教科・科目の一覧（教員・生徒）

	生徒	教員
小 (1～8名)	地理総合 地理探究（3クラス） 日本史探究 世界史探究 マーケティング 情報Ⅰ（2クラス） 物理 生物 数学A／B／C	地理探究（2クラス） 地理総合 日本史探究 世界史探究 物理（3クラス） 生物 情報Ⅰ（2クラス） 数学A／数学B 数学C（2クラス） 数学Ⅱ／Ⅲ 発展英語 論理・表現Ⅰ／Ⅱ／Ⅲ 英語コミュニケーションⅡ 英語コミュニケーションⅢ（2クラス）
中 (9～18名)	地理探究（2クラス） 情報Ⅰ（4クラス）	地理総合 情報Ⅰ（3クラス）
大 (19名以上)	地理総合 地理探究 情報Ⅰ（9クラス）	地理総合 地理探究 情報Ⅰ（3クラス）

2.2.4. 生徒アンケート結果

2.2.4.1. 基本情報

本アンケートに回答した生徒の基本情報は以下のとおりである。必修科目であり、クラス人数の多い「情報Ⅰ」を受講している生徒が1年生に集中しているため、回答者の学年及び受講科目に偏りが見られる。

図表2-8 学年

	度数	構成比(%)
1年生	327	81.75
2年生	37	9.25
3年生	36	9
合計	400	100

図表2-9 受講科目

	度数	構成比(%)
地理探究	54	13.5
地理総合	31	7.75
世界史探究	1	0.25
日本史探究	1	0.25
マーケティング	5	1.25

数学A	4	1
数学B	1	0.25
数学C	1	0.25
生物	3	0.75
物理	1	0.25
情報 I	298	74.5
合計	400	100

2.2.4.2. 教科・科目に対する授業前の印象

遠隔授業で受講した教科・科目に対する授業前の印象を尋ねた。

図表2-10 授業前の教科・科目に対する印象

	そう思う	どちらかといえば、 そう思う	どちらかといえば そう思わない	そう思わない	肯定的回答率 (%)	尺度平均
その教科・科目に対する興味関心がある	89	175	108	28	66.00	2.81
その教科・科目は苦手である	101	149	113	37	62.50	2.79
その教科・科目の勉強は、将来、社会に出たときに役に立つと思う	196	177	22	5	93.25	3.41

「その教科・科目の勉強は、将来、社会に出たときに役に立つと思う」について、肯定的回答率が93.25%と非常に高く、生徒が当該教科・科目に対して将来性を感じている様子がうかがえた。一方で、「その教科・科目は苦手である」は肯定的回答率62.5%とやや高めであり、一定数の生徒が苦手意識を持っていたと考えられる。

2.2.4.3. 遠隔授業の効果・影響

次に、遠隔授業を1年間受講した段階での効果・影響について以下に、自由記述のまとめとあわせて示す。

図表2-11 遠隔授業の効果・影響

	そう思う	どちらかといえば、 そう思う	どちらかといえば そう思わない	そう思わない	肯定的回答率 (%)	尺度平均
この授業を受けて、この教科・科目に興味関心が深まったと思う	128	184	70	18	78.00	3.06
この授業を受けて、学習内容を理解できたと思う	120	219	54	7	84.75	3.13
	とても満足している	やや満足している	あまり満足していない	全く満足していない	肯定的回答率(%)	尺度平均
この授業について、どの程度満足していますか	140	197	54	9	84.25	3.17

図表2-12 遠隔授業の効果・影響（アンケート自由記述）

前の質問「この授業について、どの程度満足していますか」について、「とても満足している」「やや満足している」「あまり満足していない」「まったく満足していない」のいずれかを選択した理由を教えてください。

■ とても満足している

学習理解	● 多くの知識をつけられた ● 授業内容をとても良く理解でき、進学後の学習につなげることができた ● その授業に関する理解度が深まっていると感じることがあった
授業の楽しさ	● 活動が多かったので楽しみながら授業を受けることができた ● これまでになかった授業方法を受けることができたからとても満足している ● 分かりやすい授業で楽しくできたから満足している
将来・専門性	● 社会に出て役に立つようなことが学べる ● 自分が将来就きたい仕事について深く知れる ● 専門の先生から学ぶことで知見を深められたと思うから ● 専門の先生が自分たちの学校にいなくても、専門的な授業が受けれるから
授業構成（機会提供）	● 自分で考える機会やグループワークがあったり、実習が多いから普通に先生の分かりやすい説明が良いのと困ったら先生が教えてくれる ● グループディスカッションも行っていたから ● 班活動が多くて、グループ内の意見を何度も共有できた
授業構成（ICT活用）	● 皆に見えるような授業をしているから大事なところは赤ペンで書いたり色分けをしているからテスト前に見返したらどこが重要なところかすぐに分かるから ● たくさん資料や動画を見せてもらえてとても勉強になったから
興味関心の深まり	● 遠隔授業が始まる前より、受講教科に対する興味が強くなった ● 他の教科でも習う範囲に似ている部分がありさらに興味が深まった
先生の対応	● 先生の声が聞こえやすいし、はっきりと勉強の内容が見えた ● 先生の対応もよく、不満もないため

■ やや満足している

満足している理由とともに改善点に関する回答もあった。満足している理由は、「とても満足している」で見られた回答と類似していたためここでは省略し、下記では改善点に関する回答をまとめた。

通信環境等	● 通信環境が悪い時に授業の進行が止まってしまったりすること以外は、教え方や接し方がとても良い授業だと思ったから。 ● 内容がわかりやすく丁寧だったけど通信環境に作用されてしまって授業スピードが遅くなる時があった ● 機材トラブルで自分だけがみんなと同じことをすることができずにその日の授業が終わったことがあるから
-------	---

授業構成（機会提供）	● 座学のとき先生と話したり質問する機会が少ない以外は満足だと思った ● 遠隔授業と対面授業と変わらなかったから
学習理解	● 全体的に内容が難しくついていくので精一杯だったから ● 理解があんまりできていないから ● 理解出来ていないまま進んでしまうこともあったから

■あまり満足していない／満足していない

授業展開の速さ	● 1度置いていかれてしまうと、ついて行くことが出来なくなってしまったから ● 理解できる部分はあったが通信環境や授業のスピードについていけず、理解できなかったり、最後まで作業できずに終わってしまったことがあったから ● 難しいところとかがあってそういうときに自分は打ったりするのが遅くて置いていかれるところがときどきあったから
学習理解	● 自分が理解できてなくて満足していない ● あまり理解できていないことがあったりしたから
通信不良等	● 遠隔なので授業中に先生が見せてくれる動画などのカクつきや、たまにある音声の不具合などが不便だったから ● 音声が聞こえにくく、何を言ってるか分からない時があるから ● 声が聞こえにくかったり通信障害？の関係でteamsが開けないことがあり授業に集中出来ないことがあったから

遠隔授業の効果・影響については、「この授業を受けて、学習内容を理解できたと思う」が肯定的回答率84.75%、「この授業に興味関心が深まったと思う」も78.00%と比較的高い値を示した。また、授業満足度も肯定的回答率84.25%と高く、生徒の多くが遠隔授業に対して肯定的な評価をしていることが分かる。

自由記述の分析からも、「とても満足している」生徒の声としては、学習理解の深化や授業内容の楽しさ、将来につながる学びの実感、ICT活用による視覚的な分かりやすさなどが挙げられた。特に、グループ活動やディスカッションの機会を通じて、生徒の主体的な学びを促している点が評価されていた。

一方で、「やや満足している」「あまり満足していない」層からは、通信環境の不安定さや、授業スピード、理解不足への不安などが課題として挙げられた。特に通信障害や音声の不具合は、授業の集中度や理解度に直接影響している可能性がある。また、座学中心の場面で発言の機会が少ない、対面授業と変わらないという指摘もあり、遠隔授業ならではのICTを用いた双方向性が十分に発揮されていない場面も存在していたことがうかがえる。

2.2.4.4. 遠隔授業の評価

続いて、遠隔授業の評価について以下に示す。

図表2-13 遠隔授業の評価（授業体験）

	そう思う	どちらかといえば、 そう思う	どちらかといえばそう 思わない	そう思わ ない	肯定的回答 率(%)	尺度平均
この授業のスピードは、自分にとって ちょうどよいと思う	146	191	56	7	84.25	3.19
私は、この授業に集中して取り組むこ とができたと思う	135	193	63	9	82.00	3.14
私は、この授業に引き込まれていたと 思う	69	158	131	42	56.75	2.64
この授業について、先生の指示や説明 の仕方は分かりやすいと思う	148	171	72	9	79.75	3.15
この授業の先生は、生徒一人ひとりの ことをよく理解しようとしていると思 う	144	193	53	10	84.25	3.18
この授業の先生から、授業をよりよく しようとする熱意が伝わってくる	173	177	47	3	87.50	3.30
この授業では、先生やクラスメイトに 自分の意見や考えを言えたと思う	131	189	67	13	80.00	3.10
この授業では、先生やクラスメイトに 自分の意見や考えを聞いてもらえたと思 う	144	205	41	10	87.25	3.21

授業体験に関する評価では、「授業のスピードがちょうどよいと思う」「集中して取り組めたと思う」などが肯定的回答率8割を超え、学習環境においておおむねポジティブな評価が得られている。特に、「先生の熱意が伝わってきた」「先生やクラスメイトに意見が言えた・聞いてもらえた」といった項目からは、配信教員の指導姿勢や授業構成の工夫が、生徒から一定の評価を得ていることが読み取れる。

一方で、「この授業に引き込まれていたと思う」の項目は、肯定的回答率56.75%と比較的低く、授業に対する積極的な没入感とは他の項目と比べて弱い傾向が見られた。

図表2-14 遠隔授業の評価（通信環境）

	そう思う	どちらかとい えば、 そう思う	どちらかとい えばそう思わ ない	そう思わ ない	肯定的回 答率(%)	尺度平均
この授業では、通信環境が悪いことで 授業へ支障が出るがあったと思う	141	170	60	29	77.75	3.06

図表2-15 遠隔授業の評価（立会者）

	そう思う	どちらかといえば、 そう思う	どちらかといえば そう思わない	そう思わない	肯定的回答率(%)	尺度平均
この授業では、立会者の先生が通信機器に関してサポートしてくれたと思う	189	188	19	4	94.25	3.41
この授業では、立会者の先生が通信機器以外でサポートしてくれたと思う	174	194	30	2	92.00	3.35

通信環境に関する評価では、「授業に支障が出たと思う」が肯定的回答率77.75%と、一定の割合で影響があったことが示された。ただし、「立会者のサポート」に関しては非常に高い評価（94.25%）が得られており、現場でのフォロー体制が通信環境の不安定さをある程度補完していたことが推察される。

2.2.4.5. 遠隔授業における各種機会

続いて「主体的な学び」「個別最適な学び」「質問をする機会」「協働的・対話的な学び」の4つの観点から、生徒の視点でそれぞれの機会がどの程度担保されていたかについて示す。

図表2-16 主体的な学びの機会

	よくあった	ときどきあった	ほとんどなかった	全くなかった	肯定的回答率(%)	尺度平均
自分の力で考える機会	217	167	16	0	96.00	3.50
自分の力で調べる機会	184	183	30	3	91.75	3.37
考えたことや感じたことを振り返る機会	164	193	41	2	89.25	3.30

主体的な学びの機会については、「自分の力で考える機会」が肯定的回答率96.00%、と非常に高く、生徒が能動的に思考する場面が多く用意されていたことがわかる。「自分の力で調べる機会」（91.75%）、「考えたことや感じたことを振り返る機会」（89.25%）についても高評価であり、全体として生徒の主体性を引き出す授業設計がなされていたと考えられる。

図表2-17 個別最適な学びの機会

	よくあった	ときどきあった	ほとんどなかった	全くなかった	肯定的回答率(%)	尺度平均
自分の習熟度や進度にあった学習方法を選ぶ機会	98	183	95	24	70.25	2.89

「自分の習熟度や進度にあった学習方法を選ぶ機会」は肯定的回答率が70.25%と他の項目よりもやや低めの評価にとどまった。今後はICTを活用しつつ、生徒一人ひとりの理解度に応じた分岐的な課題提示や支援の工夫が求められる。

図表2-18 質問をする機会

	よくあった	ときどきあった	ほとんどなかった	全くなかった	肯定的回答率(%)	尺度平均
授業中、困ったり分からなかったりするときに、先生へ口頭で質問する機会	118	183	81	18	75.25	3.00
授業中、困ったり分からなかったりするときに、先生へチャットなどを介して質問する機会	87	114	116	83	50.25	2.51
授業時間以外で、困ったり分からなかったりするときに、先生へ質問する機会	85	144	104	67	57.25	2.62

質問をする機会に関しては、「授業中に先生へ口頭で質問する機会」が75.25%と比較的高かったものの、「チャットなどを介して質問する機会」（50.25%）や「授業時間以外での質問機会」（57.25%）は低い傾向にあった。非対面環境における質問のしやすさやサポート体制の整備が、今後の課題として挙げられる。

図表2-19 協働的・対話的な学びの機会

	よくあった	ときどきあった	ほとんどなかった	全くなかった	肯定的回答率(%)	尺度平均
教室内のクラスメイトの考えを把握する機会	131	201	54	14	83.00	3.12
教室内のクラスメイトと一緒に活動する（グループやペア）機会	172	171	44	13	86.75	3.26
他校のクラスメイトの考えを把握する機会 他校の生徒と一緒に授業を受けている場合のみ	0	1	2	2	16.25	1.80
他校のクラスメイトと一緒に活動する（グループやペア）機会 他校の生徒と一緒に授業を受けている場合のみ	0	0	2	3	13.00	1.40

※なお受講人数が1人の場合、その機会を提供し得ないことから、協働的な学びの機会に関する項目の回答集計は除外した。

協働的・対話的な学びの機会では、「教室内のクラスメイトと一緒に活動する機会」（86.75%）や「クラスメイトの考えを把握する機会」（83.00%）において高い評価が得られており、各授業において遠隔環境でも協働的な学びの場を設ける工夫がなされていたことがうかがえる。

一方「他校のクラスメイトとの交流」に関する項目は、回答者の少なさも考慮に入れなければならないが、いずれも肯定的回答率20%未満、尺度平均1点台と低く、機会そのものがほとんどなかったことが明らかとなった。これは授業の実施条件によるものと考えられるが、今後の展開として、複数校での同時配信を行う場合には、そのメリットを意識した授業設計も検討されるべきであろう。

2.2.4.6. 対面授業と比較しての総合所感

最後に、対面授業と比較した際の、遠隔授業に対する生徒の総合所感をまとめる。

図表2-20 遠隔授業の良い点（自由記述）

対面授業と比べて、良かった点を教えてください。

場所や時間に縛られない学習	● 高校に訪問しなくてもいいので授業の頻度が多い所 ● 一人の先生がいろんな学校で教えられる ● 気候により中々来るのが難しいため遠隔で授業ができるのはとても良い
ICTスキルの向上	● コンピュータの使い方が分かった ● インターネットの使い方などを知ることができた ● これからの社会で遠隔による作業があるかもしれないので、これまでの授業で慣れたように感じたのでよかった
ICT機器の活用	● スライドがあり授業内容が板書よりもわかりやすい ● スライドの大画面と操作している画面が同時に映し出されるがわかりやすかった ● スライドを使って詳しく説明してくれること ● 動画や画像などをたくさんみることができる点 ● 先生の画面を見ながらノートを書いたりできるのでわかりやすい ● 先生の画面が私たちの画面に映されるからとてもわかりやすいこと ● 資料の管理が簡単だった ● 資料などを一斉配布できるって機能やクラスノートブックなどに授業の振り返りなどを書けるというのは良い点だよなと思った ● チャットなどを使用して先生にすぐに質問ができる ● わからないところをチャットなどで即座にきくことができる ● 喋るのが苦手な子でも質問がいつでもできる
協働的な学習の促進	● 他校の生徒と意見を共有できる、会話ができる ● 他校の生徒と交流ができる ● 対面授業とは違うペアワーク時の雰囲気などがよかった ● 対面授業の時よりも遠隔授業は他の班とも距離が近いので他の班の意見も聞きやすくなる ● 同じ教室の人と話し合いながら授業を受けることが出来た点
録画機能の活用	● 大会で休んでいた時に、録画をしてくれて授業に遅れを取らなかったこと ● 録画をしていることで、後から見直すことができるため復習しやすい点

図表2-21 遠隔授業について困った点（自由記述）

対面授業と比べて、困った点を教えてください。

満足度に関する自由記述（図表○）と同様に、通信環境の不安定さや授業進行の速さへの対応の困難が多く挙げられた。ここでは、それ以外の困難について抜粋する。

ICT機器・操作のトラブル	● たまに機材トラブルが見られた。また、授業のテンポが遅くなりがちだった ● 機器トラブルなどがあって授業の進度が遅れたりすることがあった ● 考えて何かを作るとき、先生がチャットで心配してくれてこれに返信したら先生とだけやり取りできるよ～って言ってくれたけど、チャットのやり方が分からなかった ● タブレットを忘れるなどしたら先生に借りたりしないとミートが見れない ● 全員のパソコンの通信環境が悪い時は、授業をとめてくれるけど、少数の人の通信環境が悪い時は、待たずに進められるから、追いつけなくなる
コミュニケーションの課題	● その場に先生がいなくて、わからない所を聞きたい時に聞きにくい ● 先生に意見が通りづらい所 ● 通信が悪いのか生徒が答えた事と違うことを言っていることがよくある ● 直接聞くことができない点 ● 分からない時に、すぐに聞けない
視覚的な負担	● 画面を見過ぎて目が疲れる ● 視力的な問題で見えにくい ● 座る場所によって画面が見づらいときがあった
その他	● 後日視聴を家で個人で行うため、他の優先したい教科の学習時間が減ってしまう点 ● 向こうとの時間が合わないときがあって授業が伸びたりした ● ほかの学校の生徒と関わりがなかったり少なかったりするため、対面授業と比べると意見などを言いにくい点

遠隔授業の良い点としては、「場所や時間に縛られずに学べる」「ICTスキルが向上する」「資料や映像を使ったわかりやすい授業」「チャット機能による質問のしやすさ」「他校との交流による学び合い」「心理的安全性の高さ」「録画による復習のしやすさ」など、多岐にわたる利点が挙げられた。特に、物理的な距離や天候などの制約を超えて学びを継続できる点や、ICT機器を活用した視覚的で分かりやすい授業スタイルへの評価が多く見られた。また、他校生との意見交換や、対面よりも発言しやすい環境が、学習の意欲や理解の深まりに寄与していることがうかがえる。

一方で、困った点としては「機器や操作のトラブル」「集中のしづらさ」「コミュニケーションの難しさ」「画面を見ることによる目の負担」などが挙げられた。中でも、通信環境の不安定さやICT機器の扱いに不慣れなことによる不安は、生徒のストレス要因となっている。また、先生が画面越しにすることで、質問や意思疎通がしづらいつと感じる生徒も一定数いることが分かった。

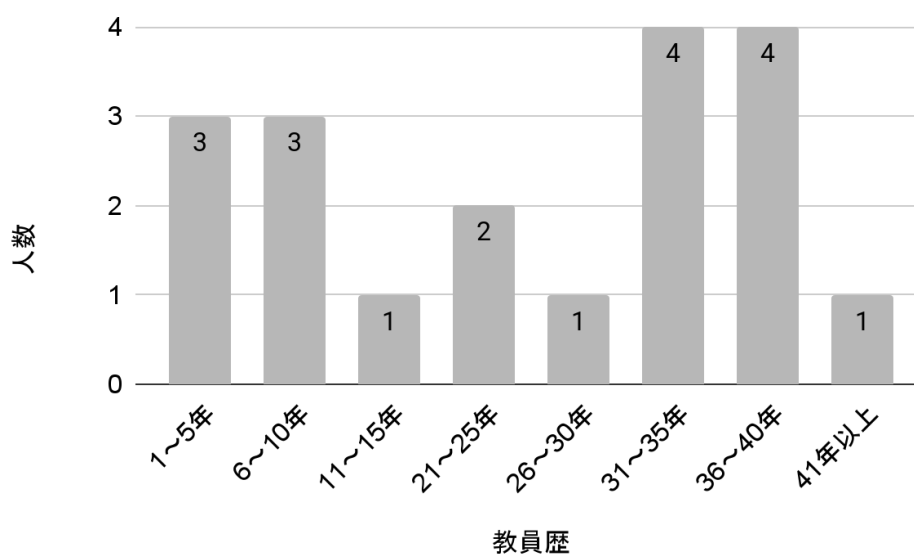
これらのことから、遠隔授業においては、対面授業以上に学習環境やコミュニケーションの工夫が不可欠であることが示唆される。今後は、操作支援や学習ルールの整備、双方向の関わりを高める設計などを通じて、遠隔授業の質をより高めていく必要がある。

2.2.5. 教員アンケート分析

2.2.5.1. 教員の基本情報

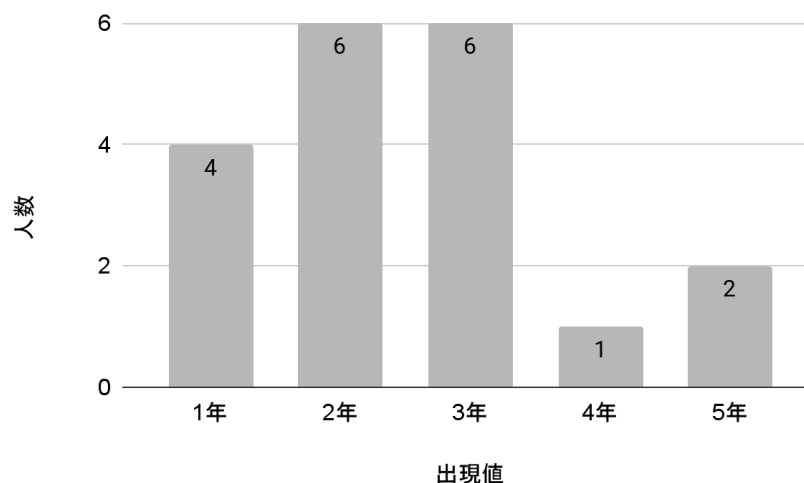
本アンケートに回答した配信教員の基本情報を以下に示す。

図表2-22 教員歴の分布



教員歴31~40年のベテラン教員が最も多いが、一方で10年以下の教員も一定数含まれていることが分かる。

図表2-23 遠隔授業配信の経験年数の分布



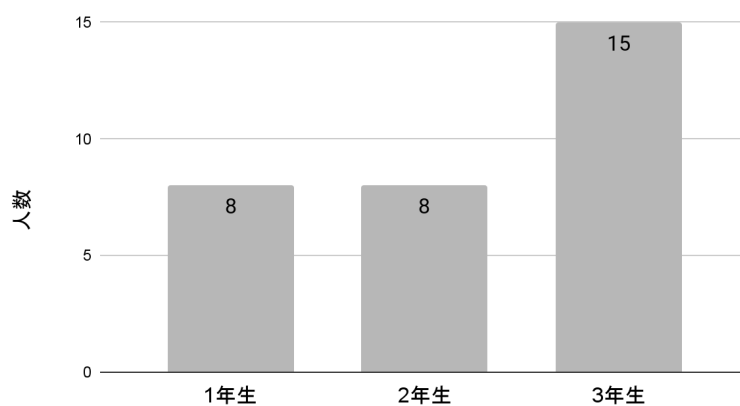
遠隔授業の配信歴は、2~3年の者が最も多い。

2.2.5.2. クラスの基本情報

本アンケートに回答した教員が教科・科目を配信したクラスについて概要を以下に示す。

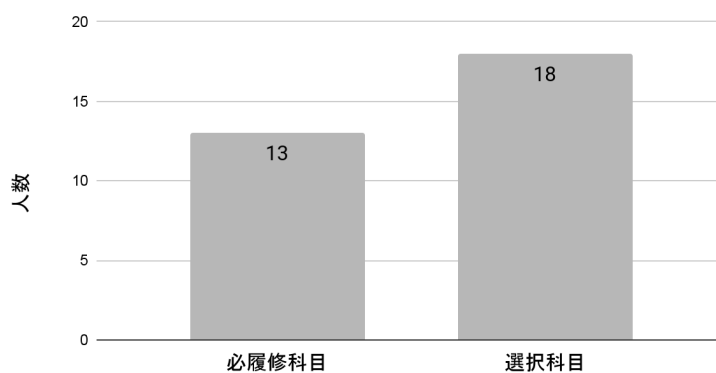
図表2-24 配信した対象学年

この遠隔授業について対象学年を教えてください



図表2-25 教科・科目の位置づけ

この遠隔授業について、受信校の位置づけとしてあてはまるものを一つ選んでください



図表2-26 教科・科目ごとの配信教員数

教科・科目名	人数
地理探究	3
地理総合	2
世界史探究	1
日本史探究	1
数学A	1
数学B	1
数学C	2

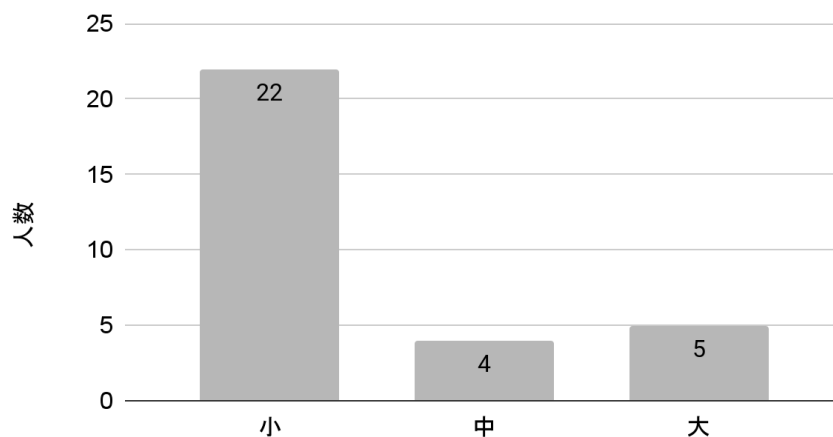
数学Ⅱ	1
数学Ⅲ	1
生物	1
物理	3
情報Ⅰ	8
英語コミュニケーションⅡ	1
英語コミュニケーションⅢ	2
論理・表現Ⅰ	1
論理・表現Ⅱ	1
論理・表現Ⅲ	1

図表2-27 開講理由

理科・地理歴史・公民等、幅広い分野の科目で構成される教科について、より専門性を持った教員から指導できるようにするため	10
受信校に教員が不足しているため実施できなかった習熟度別指導を実現できるようにするため（その他の回答にあった「習熟度別対応」も含む）	11
受信校に教員が不足しているために開講できなかった教科・科目を開講できるようにするため	10
免許外教科担任制度によって専門外の教員が指導していた教科・科目を、その教科を専門とする教員が指導できるようにするため	4

最後に、アンケートにて回答された各クラスについて、受講生徒人数を各地域の教育委員会より聞き取り、その後「小：8人以下のクラス」「中：9人以上18人以下のクラス」「大：19人以上のクラス」の3つに分類した。

図表2-28 クラス規模



2.2.5.3. 遠隔授業の効果・影響

遠隔授業の効果・影響について、教員の回答を以下に示す。

図表2-29 遠隔授業の効果・影響

	そう思う	どちらかといえば、 そう思う	どちらかといえばそう 思わない	そう思わない	肯定的回答 率(%)	尺度平均
この授業では、この教科・科目に対する生徒の興味関心が深まったと思う	6	19	4	2	80.65	2.94
この授業では、生徒の学習理解が図れたと思う	5	20	4	2	80.65	2.90
	とても満足している	やや満足している	あまり満足していない	全く満足していない	肯定的回答率(%)	尺度平均
この授業について、どの程度満足していますか	4	20	5	2	77.42	2.84

教員の回答からは、遠隔授業が生徒の興味・関心の向上や学習理解の促進に一定の効果をもたらしていることが読み取れる。特に「興味関心の深化」と「学習理解」の項目では、いずれも肯定的回答率が80%を超えている。また、授業全体に対する満足度も概ね高く、77.42%の教員が肯定的に評価していることから、遠隔授業の運営や内容に対する手応えを感じている教員が多いことがうかがえる。

2.2.5.4. 遠隔授業の評価

生徒の集中や見取り、通信環境、立会者に関する授業評価およびそれぞれについての工夫・課題点を以下に示す。

図表2-30 遠隔授業の評価（生徒の集中）

	そう思う	どちらかといえば、 そう思う	どちらかといえばそう 思わない	そう思わない	肯定的回答 率(%)	尺度平均
この授業に、生徒は集中して取り組んでいたと思う	15	13	2	1	90.32	3.36

図表2-31 引き込む際の工夫（自由記述）※カッコ内は講座の受講人数規模

生徒を授業に引き込むために、授業者として行っている工夫があれば教えてください

数学	- 授業内容に沿ったプリント作成を作成し、モニター越しの授業で聞き取り辛くても、画像が乱れても、集中しやすいように準備をした（小） - 生徒が1人の講座なので、共同編集できる電子黒板に問題を提示し、質問や支援をしながら、生徒に計算式や図形等の回答をかかせる（小）
外国語	（言語活動で）トピックは日常生活のこと、本人の趣味に関する話などを話させるようにした。また、質問を英文で答えることができない場合は、yes-no questionに変更するなどした（小） - 様々な形で生徒が外国語を話す機会を増やす（小） - ALTとのやりとりを増やす（小）

	生徒が考え、活動できる時間を多く取る（小）
地理歴史	- 生徒への問いかけをたくさん行う（小） - パワーポイントでの画像提示、自作やYouTube等からダウンロードした動画を流す、可能な限り全員を指名して答えさせる（大） - カメラの位置を調整し、教員と生徒が目が合っているように感じるように設定しています。また、質問の精選を行い、簡単な問いかけはジェスチャーで意思疎通を行うようにすることで、テンポよく授業ができるように心がけています。（小）
情報	- 生徒が楽しんでできる授業計画を立てること（大） - 授業導入部分の話題と生徒が端末を操作する時間の確保（中） - 生徒が端末操作する時間の確保（中） - 実習については、可能な限り分かりやすく興味関心がもてるものを実施する（大） - 地理歴史や生活の中で利用されている技術や事例を題材として取り上げた。2進数の計算やプログラミングの単元で、繰り返し視聴できるオンデマンド動画教材を作成した。（大）
理科	- 配信にICTを用いているのでそれを生かし、写真や映像教材などを積極的に用いるようにしている（小） - 実験や現象の動画、写真、スライドのアニメーション、画面越しの演示実験、生徒が自宅で行った課題や実験の映像や写真の投稿（提出）、パワーポイントを用いた共同作業によるリアルタイムな見取り等を活用し、生徒が興味関心を持てるようにしている（大）

図表2-32 引き込む際の課題（自由記述）

生徒を授業に引き込むために、授業者として課題と考えていることがあれば教えてください

数学	一番気になるのは、音声途切れたり、画像がコマ送りのようになっていたりすることで、集中力や意欲が落ちることである。（小）
外国語	- 学習者によって楽しいと感じられること、外国語の授業でやりたいと思っていることは違っている。生徒の外国語学習に対する要望、姿勢、到達度をできるだけ早くつかむ。（小） - 共通テストなど目先のことに注力している生徒への対応（小） - 双方の音声聞き取りにくいこと（小）
地理歴史	- 主体的な学習をどう取り入れていくか試行錯誤してきた。なかなか難しいと感じた。（小） - グループ学習を希望する生徒が数名いたが、人数が多いことや4単位で教科書を終わることを考えるとなかなか踏み切れなかった、本来はやるべきかとも思う（大） - どうしても、生徒のいる空間（その場）にいないために、やや緊張感が薄れてしまうことを感じています。（小）
情報	- 遠隔授業でも将来のために、授業を受けたいと生徒の意思があれば、ある程度授業者の力量でどうにかなる問題だと思うが、教員数が確保できない大人の事情に巻き込まれ、強制的に遠隔授業を受けさせられている生徒はやる気もなく、態度も悪い。教員の工夫でどうにかなる問題ではないと思います。（中） - 生徒の目の前で授業をしていないため、緊張感が徐々になくなり集中力が続かなくなる。（中）

	音声コミュニケーションに課題がある（特に生徒のつぶやきはほとんど拾えない）非言語情報を十分に感じることができない（表情、目線、仕草など）（小）
理科	生徒の活動状況（ノート書き込みの様子や問題演習の進捗状況など）をもっと詳細に把握できないか。また、遠隔授業は、対面授業に比べ、授業の進度が遅くなると感じている。限られた単位の中で、教科書を終わらせることも必要となり、生徒に授業の面白さを伝え、興味関心を引き出すために要する時間的な制約を感じている。（小）

教員の回答からは、遠隔授業においても生徒が高い集中を保って取り組んでいたとの評価が多く、肯定的回答率は90%を超えている。自由記述からは、教員が生徒の興味・関心を引き出すためにICT教材の活用や生徒参加型の工夫を凝らしている様子がうかがえる。一方で、通信環境の不安定さや非言語情報の不足、生徒の学習意欲の個人差といった課題も挙げられており、遠隔授業の可能性を最大限に引き出すためには、技術的な整備だけでなく、生徒一人ひとりの状況に応じた柔軟な対応が求められていることが明らかとなった。

図表2-33 遠隔授業の評価（生徒の見取り）

	そう思う	どちらか といえ ば、 そう思う	どちらか といえ ば そう思わ ない	そう思わ ない	肯定的回 答率(%)	尺度平均
この授業で、生徒の様子をよく見取ることができたと思う	5	17	8	1	70.97	2.84

図表2-34 見取りの工夫（自由記述）

この授業での生徒の見取りについて、授業者として行っている工夫があれば教えてください

小規模クラス	4人と少人数のため、授業について来れているかはある程度分かるが、細かいつまづきは分からないため、毎時間の宿題を提出させるようにしている。すぐに提出しない生徒がおり、それは課題である。（数学） - 電子黒板上にかかれた生徒の回答や、説明内容をもとに見取る（数学） - 特にないが、通常の授業のように、各レッスンで音読テストや課題の提出などを行っている。（外国語） - Google Forms や Google スライドを使って生徒に問題を解かせたり、英作文をさせたりしている（外国語） - 一画面に生徒全員が移るように席に座ってもらった（地理歴史） - 課題をGoogle formで配信し、生徒がどのような解答をしているのかリアルタイムで把握している。生徒が授業内容をどれだけ理解しているか把握し、指導内容を適宜修正しながら授業している（理科）
中規模クラス	- 現場の先生方に任せている（情報Ⅰ） - チエル社のICCを利用している（情報Ⅰ）
大規模クラス	- サポート教員と連携して机間巡視等を行ってもらう（地理歴史） - 授業で利用するワークシートへの記述内容を撮影し、チャットで送信させた。（情報Ⅰ）

図表2-35 見取りの課題（自由記述）

この授業での生徒の見取りについて、授業者として感じている課題があれば教えてください

小規模クラス	● コミュニケーションが苦手な生徒で声が小さいので、聞き返さなければならない場面があり、返答に時間がかかるので、待ってはいるが、つい促しやヒントなどのこちらの発言と生徒の解答などがかぶり、状況が悪くなることもある。（外国語・小） ● ペア活動の聞き取りが4名になると難しい。音声に関していえば、対面ほど聞き取れないため全ての外国語の授業には課題がある。生徒のつぶやきの良い発言なども聞き逃している可能性が大きい。（外国語・小） ● 生徒がどのように考えているかを把握するための方法が課題である。Google formで把握できるのは生徒の解答のみであり、解答を導くための過程を把握することはできない。（理科・小） ● 生徒の細かい表情の変化を見取ることが困難である（外国語・小） ● 電子黒板の複数同時記入ができないため、多少時間がかかる（数学・小） ● 毎年生徒の雰囲気が変わるため、その年によって生徒の活動の様子がわかりやすい場合と、そうではない場合がある。コミュニケーションを深め、生徒が発言しやすい、反応しやすい雰囲気を作るために、さらなる工夫が必要と考える。（理科・小） ● 工夫により、生徒の取り組みの途中経過を見ることができてもありますが、完了した後のものを見ることが多く、解いている途中の表情や手の動きなどを見取ることが難しく、授業中の即効的な指導は対面時よりも遅れる印象があります。（地理歴史・小）
中規模クラス	● 手元が見とれず、活動内容がまったく分からないので授業中は満足な評価をつけることができない。（情報Ⅰ・中） ● 15人程度という人数で端末で課題をさせるときに個別指導には限界を感じた（情報Ⅰ・中） ● 授業中に支援の先生の動きがほとんどないため授業者一人で見取るには限界を感じました（情報Ⅰ・中） ● 遠隔先の教室の空気感がわからない（地理歴史・中）
大規模クラス	● 大人数（20名超）なので個々の生徒の見取りが難しい、通信状況がよくない（モザイク状態）ことが多いので個々の生徒がぼやけて表情がはっきり見えないことが多い、自分自身が机間巡視するような感覚でサポート教員が巡視するわけにはいかない（贅沢な悩みかもしれないが自分の分身のような動きにはならない）（地理歴史・大） ● チャット等で成果物を回収する際、余計な時間がかかってしまう。（情報Ⅰ・大）

生徒の様子の見取りに関しては、「ある程度できた」とする肯定的回答が約7割にとどまり、他項目と比べてやや低い傾向が見られた。自由記述では、生徒の発言や課題提出、画面越しの観察などを通じて工夫を凝らす教員の姿がある一方で、「細かい表情やつぶやきが把握できない」「途中経過が見えにくい」など、遠隔授業特有の限界が浮き彫りとなった。また、クラスの規模や生徒の個性により見取りの難易度が変わるという指摘もあり、ICTの活用とともに、支援体制の整備や一層の工夫が求められている。

図表2-36 遠隔授業の評価（通信環境）

	ほぼ毎回 あった	月1回 あった	学期に1 回あった	ほとんど なかった	尺度平均
この授業では、通信環境が悪いことで授業へ支障が出ることがどのくらいの頻度でありましたか	6	10	10	5	2.55

図表2-37 通信環境の課題への工夫（自由記述）

この授業での通信環境の課題について、授業者として行っている工夫があれば教えてください

- 音声の途切れを少なくするため、ワイヤレスマイクの使用（数学・小）
- 電子黒板に文字を入力して、全体指示（情報Ⅰ・大）
- できるだけ明瞭に話すようにしているが、他にはない。いざと言うときはMeetを使う等の準備はしている（外国語・小）
- できる限り最低限のアクセス台数で行うこと、立会者の先生に予備用として通信に入ってくださいと、使用するツールを欲張らず、かつ参加者が使用するツールのすみわけを行うこと（Aというアプリは全員が開く、Bというアプリは配信教員のみが開き、会議システムで共有するなど）を意識しております。（地理歴史・小）
- ピンマイクを使用する（外国語・小）
- 事前に「通信環境が悪い時は、GoogleクラスルームのMeetに繋ぐように」と指示しておく（数学・小）
- チームズを一度退出しての入り直し、大画面不調の場合各自のタブレットでチームに入らせる（地理歴史・大）

通信環境の不具合については、「ほとんどなかった」とする回答が約2割にとどまり、半数以上の授業で何らかの支障があったとされており、遠隔授業における大きな課題の一つであることがうかがえる。自由記述からは、ピンマイクやワイヤレスマイクの使用、明瞭な話し方、ツールの使い分けなど、授業者による多様な工夫が見られた。また、通信トラブル時の代替手段として、他の会議ツールへの切り替えや予備機器の準備を行うなど、事前の備えを意識している様子もうかがえる。こうした工夫は一定の効果を上げているものの、安定した通信環境の整備は依然として重要な課題である。

図表2-38 遠隔授業の評価（立会者）

	そう思う	どちらか といえば そう思う	どちらか といえば そう思わ ない	そう思わ ない	肯定的回 答率(%)	尺度平均
この授業の実施に当たって、立会者の先生とよく連携がとれましたか（授業時間以外も含む）	13	12	4	0	87.10	3.36

図表2-39 立会者の役割（授業中）

項目	回答数
機器トラブル対応	29
カメラアングル調整	23
出欠の確認	26

紙資料の配布・回収	29
机間巡視	12
授業者からの指示に対するサポート	16
生徒と授業者とのコミュニケーションのサポート	10
落ち着かない生徒や集中力の切れた生徒への対応	10
支援が必要な生徒に対する学習支援	7
配信側教員が不在時の授業の進行	7
生徒の習熟度に応じた指導や支援	1
その他	0

図表2-40 立会者の役割（授業前後）

項目	回答数
遠隔システムの準備・接続・片付け	30
紙資料の印刷	23
生徒理解のための配信教員との情報共有	20
教材・教具の準備・片付け	18
日程調整・学校行事等の連絡	17
課題の回収	13
欠席者への連絡	9
授業における生徒の状況の共有	8
生徒の見取り・評価補助	5
授業の予習や振り返りにかかわる生徒への指導や支援	2
テストの採点	0
その他	0

遠隔授業の実施において、立会者との連携については87.10%の教員が肯定的に評価しており、授業中・授業外の両面において、機器トラブル対応や紙資料の配布・回収、出欠確認など、教室運営を支える多様な支援が行われていることがうかがえる。一方で、授業中の机間巡視や学習支援、生徒理解の補助といった教育的な支援については一部にとどまり、教科やクラス規模によっては見取りや個別支援が十分に行き届いていない可能性も示唆される。特に大規模クラスでは、立会者の教育的な役割の強化が今後の質の向上につながると考えられる。

2.2.5.5. 対面授業の実施

対面授業に関しては、各クラスにつき年間平均して3.92回行われた。対面授業の内容は以下のとおりである。

図表2-41 対面授業の実施内容

項目	回答数
授業ガイダンス（授業の進め方、使用アプリケーションの確認、使い方の指導等）	16
テストの問題の解説や確認	16

教員・生徒の自己紹介	14
テスト返却	10
生徒の進路希望のヒアリング	8
シラバスの説明	7
授業に対する要望のヒアリング	7
実験器具の準備や調整	3
その他 実験 問題演習・解説 PCによる実習（プログラミングなど） 実習を伴う授業及び補習 実習の授業及び補習	9

対面授業では、授業ガイダンスやテストの解説・返却、自己紹介や進路希望のヒアリングなどが中心に行われた。遠隔では難しい実験・実習や個別支援にも活用されており、生徒理解や学習定着を補完する機会となっている。

2.2.5.6. 遠隔授業における各種機会

続いて「主体的な学び」「個別最適な学び」「質問をする機会」「協働的・対話的な学び」の四つの観点から、教員の視点でそれぞれの機会をどの程度担保しているかについて示す。

図表2-42 主体的な学びの機会（自分の力で考える・調べる）

	よくあった	ときどきあった	ほとんどなかった	全くなかった	肯定的回答率(%)	尺度平均
自分の力で考える機会	16	15	0	0	100.00	3.52
自分の力で調べる機会	9	16	5	1	80.65	3.07

図表2-43 主体的な学びの機会（自分の力で考える・調べる／自由記述）

そのような機会にどのような方法で自分で調べさせたり考えさせたりしましたか。
使用したICTツールも含め、具体的に教えてください。

- 電子黒板上に記載。1人1台端末Chromebookにより（数学・小）
- 単元のまとめや定期的におこなう調べ学習、ジグソー学習など。iPadを使用した。アプリはメタ文字など（地理歴史・小）
- 一人一台タブレットの中で、検索エンジンやAIとの対話を活用しました。また、配信者のカメラをOFFにした状態で、生徒間での対話の環境をつくり、議論をする場面を設けました。（地理歴史・小）
- 単語の検索から、writing課題の内容に関するリサーチ。google classroom、google meet（プレゼンの時などの提示を含む）（外国語・小）
- Writingやspeakingの際にはインターネットを利用して語彙や発表内容に関する情報を調べていた。生徒によってはChatGT等も使用していたようだが、ある程度自力で判断できるレベルの外国語力をもった生徒であったので特に指導はしなかった。（外国語・小）
- Google Slides にSDGsについて考えたことや調べたことを記入する（外国語・小）
- Google Classroom で送られた発展的な課題に取り組ませたり、調べたことを祖協で発表させる活動を行った（外国語・小）
- teams内でパワーポイントのスライドを用いて共同作業を行い、作図や計算を行った。自

然現象や様々な事象、用語、人物等の検索を、生徒個々が使用している端末を使って行った。（理科・小）

- 地形や気候をまとめる際、パワーポイント（Googleスライド）を用いてまとめさせた。（地理歴史・中）
- 長期休業中のレポート、チームズに説明を入れ各自でレポート作成し紙媒体で提出（地理歴史・大）
- 毎時間の授業で使用するワークシート教材に取り組む際に、教科書、学習者用端末、インターネット検索を使って調べさせたり、ペア活動による対話を通じて考えさせたりした。（地理歴史・大）

図表2-44 主体的な学びの機会（振り返る）

	よくあった	ときどきあった	ほとんどなかった	全くなかった	肯定的回答率(%)	尺度平均
考えたことや感じたことを振り返る機会	9	17	5	0	83.37	3.13

図表2-45 主体的な学びの機会（振り返る／自由記述）

そのような機会にどのような方法で考えたことや感じたことの振り返りをさせましたか。
使用したICTツールも含め、具体的に教えてください。

よくあった	● 例題解説動画を視聴して感じたこと分らなかったことを、教員との共同編集設定済みのGoogleドキュメントに入力させ、教員が返信や補足を加筆（数学・小） ● （１）アプリ上のワークシートに入力させる（２）プリントに書いたものを口頭で発表するの２つを大きな枠組みとして振り返りを行いました。（１）では、作業途中から生徒間で共有したい場合はエクセルやパワーポイントを、自力で考えたものを開きあう場合はMetaMojiを使用しました。（地理歴史・小） ● 単元の終末に、振り返りの観点を複数提示し、振り返りシートを作成させた。（情報Ⅰ・大） ● Google Forms を使った授業振り返り、リテリング振り返りのアンケート（外国語・小）
ときどきあった	● Google classroomを活用した学習記録への入力（数学・小） ● 授業内容の振り返りや問題演習による確認を、Formsやパワーポイントのスライドを用いて行った。（理科・小） ● Googleクラスルームで課題や振り返りを出した。（地理歴史・中） ● フォームズを利用したアンケート形式（地理歴史・大）

図表2-46 個別最適な学びの機会

	よくあった	ときどきあった	ほとんどなかった	全くなかった	肯定的回答率(%)	尺度平均
自分の習熟度や進度にあった学習方法を選ぶ機会	2	13	11	5	48.39	2.39

図表2-47 個別最適な学びの機会（自由記述）

そのような機会にどのような方法で習熟度や進度に合った方法を選ばせましたか。
使用したICTツールも含め、具体的に教えてください。

よくあった	- 理解度の高い生徒は高難度の問題に挑戦（物理・小） - 可能な限り実習教材により選択できるように（情報Ⅰ・大）
ときどきあった	- 確認テストや定期試験の点検から学習内容の理解や学習状況の確認（数学・小） - Classroom上に問題や読み物、聞く課題において、自由課題とした。（外国語・小） - Google Forms で重点的に学びたいユニットを回答させたり、演習問題の解答方法について選ばせた（外国語・小） 2人という少人数のため、配信者と定期的に行う面談の中で話し合う時間を設け、選択しました。（地理歴史・小） - プログラミングの授業において、自作のオンデマンド解説動画をYouTubeにアップロードし、必要に応じて学習者用端末で視聴させた。（情報Ⅰ・大）

図表2-48 質問をする機会

	よくあった	ときどきあった	ほとんどなかった	全くなかった	肯定的回答率(%)	尺度平均
授業中、困ったり分からなかったりするときに、先生へ口頭で質問する機会	6	19	5	1	80.65	2.97
授業中、困ったり分からなかったりするときに、先生へチャットなどを介して質問する機会	1	8	6	16	29.03	1.81
授業時間以外で、困ったり分からなかったりするときに、先生へ質問する機会	1	12	14	4	41.94	2.32

図表2-49 質問をする機会（自由記述）

生徒が質問をしやすくするために工夫したことがあれば、使用したICTツールも含め、具体的に教えてください。

- Google Forms で自由記述の欄を設けた（外国語・小） - 共用のエクセルシートに匿名で質問や疑問点を入力できるようにしたこと、チャットでの質問を推進したこと、考査前の授業は質問受付や意見交換の時間にしたこと。（地理歴史・小） - ICCのチャット機能やGoogleClassroomの限定公開コメント（情報Ⅰ・中） - 授業中であれば、コメントスクリーン、授業外であればジャムボードおよびクラスルーム（地理歴史・中） - サポート担当との連携により生徒からの発言を促してもらった（情報Ⅰ・大）

図表2-50 協働的・対話的な学びの機会（教室内のクラスメイトの考えを把握する）

	よくあった	ときどきあった	ほとんどなかった	全くなかった	肯定的回答率(%)	尺度平均
教室内のクラスメイトの考えを把握する機会	8	13	8	2	67.74	2.87

図表2-51 協働的・対話的な学びの機会（教室内のクラスメイトの考えを把握する／自由記述）
 そのような機会にどのような方法で把握させましたか。使用したICTツールも含め、具体的に教えてください。

よくあった	- 互いのワークシートを突き合わせて共有した（情報Ⅰ・小） - Google Forms での振り返りの共有や、Google Slides での各生徒の英作文を共有（外国語・小）
ときどきあった	- 問題演習の解答を相互に解説することで理解を深める（数学・小） - 生徒個々に意見・考えを発言させる（理科・小） - プレゼンテーションやディベートなど実際の授業で。発表はmeetでグラフや写真などを提示させた。（外国語・小） - Googleスライドやスプレッドシート（情報・中） - Teamsチームへの投稿（共有スペース）に考えを入力させ、全員に共有した（情報Ⅰ・大）

図表2-52 協働的・対話的な学びの機会（教室内のクラスメイトと一緒に活動する）

	よくあった	ときどきあった	ほとんどなかった	全くなかった	肯定的回答率(%)	尺度平均
教室内のクラスメイトと一緒に活動する（グループやペア）機会	9	16	4	2	80.65	3.03

図表2-53 協働的・対話的な学びの機会（教室内のクラスメイトと一緒に活動する／自由記述）
 そのような機会にどのような活動をしましたか。使用したICTツールも含め、具体的に教えてください。

よくあった	- 音読確認、プレゼン、ロールプレー、会話（電子黒板で教科書の場面などは提示）（外国語・小） - ペア活動により協力して課題に取り組んだ。（情報Ⅰ・小） 4～6人を班としたグループ活動により、協力しながら課題に取り組んだ。（情報Ⅰ・大）
ときどきあった	- 主に問題演習での相互解説（数学・小） - 現象や事象の説明をグループワークで考えさせる。問題の解答を、隣人と共有し理解を深める。（理科・小） - 目的に向けた実験方法を考える活動。配布したプリントに書かれた情報をもとに、グループで会話しながら活動していた。（理科・小） - ジグソー学習などメタ文字のアプリを使ってプリントを配信し、行った。（地理歴史・小） - Googleスライドやドキュメント（情報Ⅰ・中） - こちらで準備した実習教材を活用して行った（情報Ⅰ・大）

図表2-54 協働的・対話的な学びの機会（他校のクラスメイトの考えを把握する・一緒に活動する）

	よくあった	ときどきあった	ほとんどなかった	全くなかった	肯定的回答率(%)	尺度平均
他校のクラスメイトの考えを把握する機会	1	3	1	6	36.36	1.91
他校のクラスメイトと一緒に活動する（グループやペア）機会	1	2	2	6	27.27	1.82

図表2-55 協働的・対話的な学びの機会

(他校のクラスメイトの考えを把握する・一緒に活動する／自由記述)

そのような機会にどのような方法で把握させましたか。使用したICTツールも含め、具体的に教えてください。

よくあった	会議システム（Teams）を用いた対話を中心に行いました。テーマを与え、フリートーク形式で論じるようにしました。配信教員は、書記役として生徒の考えを書き起こす役に回り、生徒が会話することに集中できるようにしました。（地理歴史・小）
ときどきあった	- アイスブレイクルーム（情報Ⅰ・大） - 各生徒の意見を聞く（理科・小）

以上から、ICTを活用した「主体的な学び」は全体的に高く担保されており、生徒が自ら調べたり振り返ったりする場面を各教員が多く設けようとしていたことが確認された。一方で、「個別最適な学び」については、学習内容の選択や進度調整の機会が限られており、今後の工夫が求められる。また、「質問する機会」においては対面での質問は比較的確保されていたが、ICTを介した質問や授業外のサポート体制には課題が残る。さらに「協働的・対話的な学び」は教室内では一定の実践が見られたものの、他校との連携による学びはまだ限定的であり、ネットワーク型学習の可能性を今後広げていくことが重要である。なおこの結果は、上述の生徒アンケートとも重なるものである。

2.2.5.7. 遠隔授業に対する総合所感

以下、教員の遠隔授業に対する困り感、必要なサポート、今後に向けたアイデアをまとめる。

図表2-56 遠隔授業実施にあたっての困り感

遠隔授業を実施するにあたって、困っていることや悩んでいることがあれば教えてください。

通信環境・機器等	- 音声の途切れ、画像の乱れ。機器の不具合。（数学） - 良い発言を小さな声で言っているにもかかわらずひろってあげることができない。音声がクリアになることが外国語という教科にとっては最も重要な課題です。（外国語） - 複数ペアでそれぞれがやり取りをしている内容がほとんど聞き取れないことに困っている（外国語） - 通信環境不良に起因すると思われる映像や音声の不調による正味の授業時間の削られること（数学） - 不安定な通信状況になった場合、授業がストップしてしまう。（数学） - 通信状況がよくない時がある（地理歴史） - 通信環境の改善・配信環境の整備・教材等の充実（地理歴史） - ネットワークの遅延が頻発しており、生徒の状況確認ができない場合がある（情報Ⅰ） - 生徒の見取りのための環境整備（情報Ⅰ） - 音声によるコミュニケーションには、まだまだ課題が多い。俯瞰カメラ及び単一マイクによる授業形式の場合、マイクの性能、生徒の声の大きさ、遠隔システムの性能、通信回線の不調など、影響を与える変数が多く、授業者・生徒ともにストレスの原因になっていると感じる。（情報Ⅰ）
----------	--

生徒とのコミュニケーション・見取り	● 生徒がどのように考えているかを把握する方法に悩んでいる。対面授業では生徒のプリントへの記入などを直接見ることができるが、遠隔授業でそれをどのように実現するか、あるいはほかの方法で生徒の考えを把握できるのか、考えている。（理科） ● 生徒や現場教員と関係性を築けないこと（情報Ⅰ） ● 微妙なタイムラグや、教室の空気感がわからない（情報Ⅰ） ● 生徒に授業規律などは授業開きの際に共有はするが、生徒は遠隔授業に対して徐々に緊張感がなくなっていくため、現地の支援の先生も一緒になって生徒の授業規律やコントロールをしていかないといけないと思いました。（情報Ⅰ） ● 大人数では生徒の見取りが難しい（地理歴史） ● 集中力を欠いたり居眠りしたりする生徒を直接指導できない（地理歴史）
評価の難しさ	● 観点別の評価がしにくい（地理歴史）
授業構成の問題	● 主体的な学習の実施方法（地理歴史）
授業準備の負担	● 配信担当者の負担感が大きい（地理歴史）
教員の授業スキル	● 授業者自身の機器等に対するスキルが残念ながらいまひとつ（地理歴史）
教員・学校間の連携	● 同時配信の場合、各学校の行事や定期試験期間がずれることで、片方のみになると授業が進められず進度が遅れてしまうこと。（数学） ● 学校行事に伴う授業短縮、生徒の情報共有不足、学校の遠隔授業への期待と理解（理科） ● 実施する場合の生徒数の調整等（情報Ⅰ） ● 見取りの先生が交代することでその都度説明や合意形成を行う必要があることが少し課題であると感じております。また、自分の異動後も実施するには引継ぎを行わないといけません、教科の配置が1名で、交代する形になりますので、実質的に自力でしていただかないといけないのが実情です。（地理歴史）

図表2-57 遠隔授業実施にあたって必要だと思うサポート

遠隔授業を実施するにあたって、必要だと思うサポートがあれば教えてください。

通信環境・機器の整備	● 機器の定期的な更新やメンテナンス。遠隔システムの機器は高額であり、今後予算がどれだけ取れるかが心配。（数学） ● 通信環境を改善すること（外国語） ● 安定的な通信環境を確保する予算への支援。人口減ゆえに遠隔授業を取り入れている中山間地域では、そもそも1Gbpsや5Gサービスがない場合があり、通信環境不良が解消できない。（数学） ● 不安定な通信環境の改善を早急をお願いしたい（数学） ● 高音質のマイク、スピーカ（外国語） ● 通信環境の改善、大人数で一気にチームズに入ると全員つながるまで時間がかかる（地理歴史） ● 機材やエドテックの導入（地理歴史） ● 生徒全員がヘッドセットを着用し、WEB会議に参加できる環境の実現（やや高スペックな学習者用端末、個人用ヘッドセット、生徒全員が参加しても影響がない通信帯域&WEB会議の性能）（情報Ⅰ）
------------	---

生徒とのコミュニケーション・見取り	● 特性がある生徒へのサポートや指導（情報Ⅰ） ● 支援が必要な生徒に対しての体制（情報Ⅰ） ● 生徒の普段の様子を知っている者が授業中も見取りを行うこと（地理歴史）
受信校との連携	● 受信校側の理解と協力（外国語） ● 配信先学校の遠隔授業担当とサポート教員の業務内容について更なる相互理解と情報共有（数学） ● サポート教員との綿密な連携。生徒の中に入って自分も授業を受講しているつもりでサポートに入ってほしい（地理歴史） ● 受信側で成績を入力するシステムへのアクセスと入力、時間割の調整（地理歴史）
配信者同士の連携	● 他県と同教科の先生方とのネットワーク（理科）

図表2-58 遠隔授業実施にあたっての工夫やこだわり

これまでに教えていただいたもの以外で、授業するにあたっての工夫やこだわりがあれば、教えてください。

環境の工夫	● 対面時に近い教室環境をつくること（カメラ・ディスプレイの位置、マイク・スピーカーの種類など）と、できる限りシンプルに行うこと（ツールを絞る、フランクに話すなど）がミスやトラブルも少なく重要であると考えます。（地理歴史）
教材の工夫	● 情報Ⅰの多くは1年生で開講されている所が多いため、3年次の共通テスト対策の一つとして教科書解説の動画教材を年間を通じて定期的に配信をした。（情報Ⅰ） ● 授業内容の板書が取りやすくなるように、授業プリントの作成など（数学）
学習方法の工夫	● 生徒の進路希望が叶うように、授業内容の精選や授業計画を立てている（数学） ● 個別最適化と協働的な学びの機会を作ること（外国語） ● 答えをいいすぎない（地理歴史）

図表2-59 遠隔授業実施にあたっての新たなアイデア

今後の遠隔授業で新たに挑戦してみたい授業実践のアイデアがあれば教えてください。

AIの活用	● 生成AIを用いた課題解決（プログラミング、データ分析など） ● 生徒の支援は現場の教員がするため、ただ教科書をまとめて解説、指示をするだけであれば、AIやオンデマンドで授業実践ができると考える。AIで授業が成り立つか実践してみたい。
他校や受信校との連携	● 受信校に教材等を準備してもらい、遠隔で実験を行う ● 他校との合同授業

学習方法の工夫	- ディベート形式での授業 - グループ学習や生徒に発表させる機会を増やしたい - 反転学習スタイルで教科書の内容は事前に予習をしてきた状態で授業進行をしていくことでさらに内容を深めていくことができるのではないかと考えている。 - 生徒がどのように思考しているのか、Googleスライドなどを用いて発表させるなどしてみたい。
その他	授業評価の研究（相互理解によるカウンセリングなど）

2.2.6. クロス分析結果

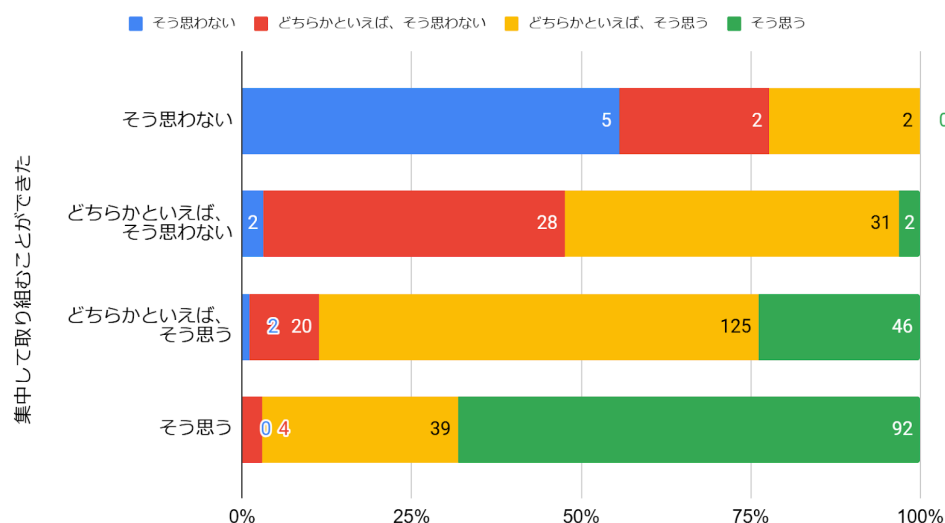
アンケート結果を元に、さまざまな観点からクロス集計を行った。なお、本章に掲載しきれなかった図表および具体的な数値については、添付資料を参照されたい。

2.2.6.1. 授業に関する評価と授業満足度の関連

まず生徒の授業評価のうち、授業体験に関する8項目と授業満足度についての関連を調べた。

図表2-60 「授業への集中」（生徒）×「授業の満足度」（生徒）

この授業について、どの程度満足していますか

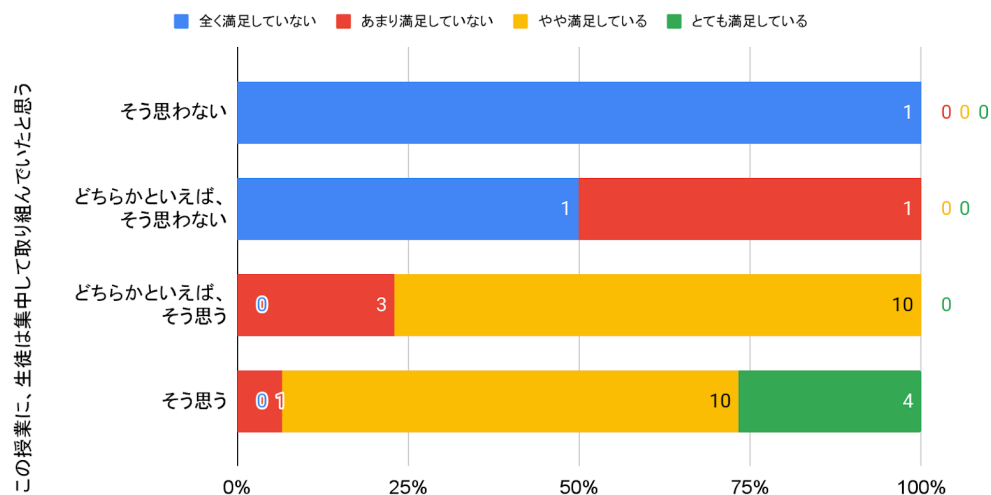


授業体験に関する各項目において「そう思う」と回答した場合、それ以外に比べて授業満足度が高くなることがわかった。例えば上記以下に示す通り、生徒が授業に集中して取り組むことができたと感じている場合、授業満足度の肯定的回答率は97.04%に上り、それ以外に比べて顕著に高かった。この他の項目についても、同様の傾向であることが確認された。

次に、教員の授業評価（生徒の集中・見取り・立会者との連携）と授業満足度について調べた。

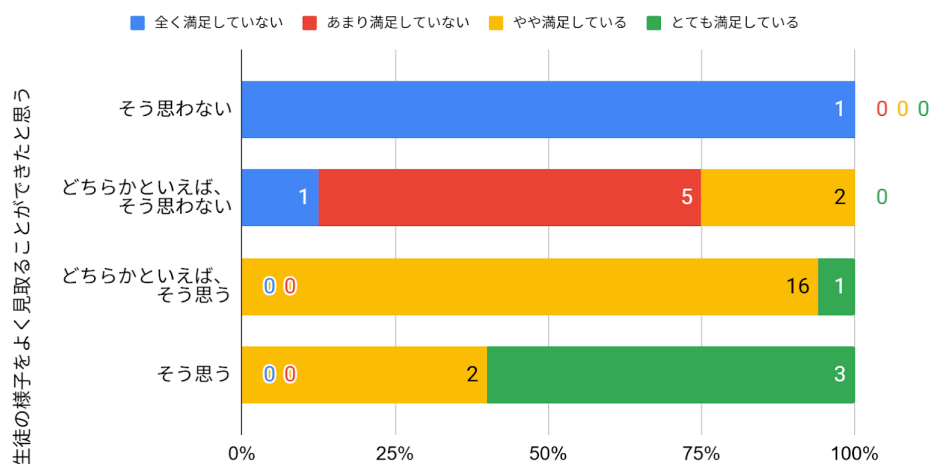
図表2-61 「生徒の集中」(教員)×「授業の満足度」(教員)

この授業について、どの程度満足していますか



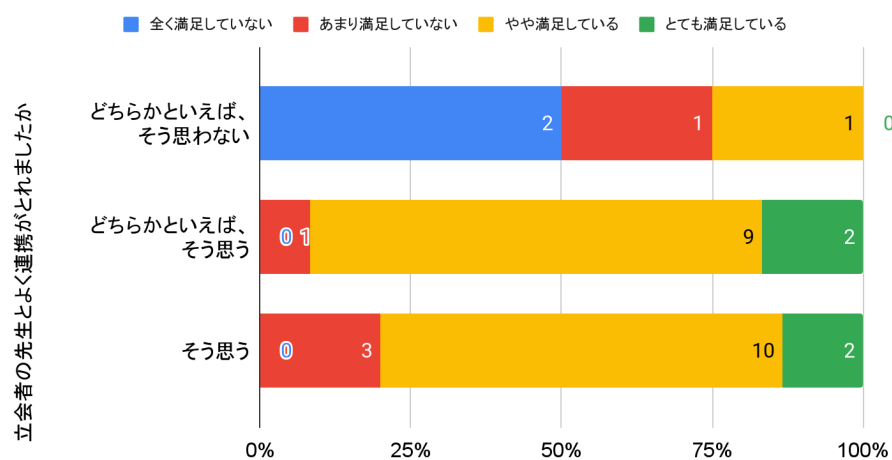
図表2-62 「見取り」(教員)×「授業の満足度」(教員)

この授業について、どの程度満足していますか



図表2-63 「立会者との連携」(教員)×「授業の満足度」(教員)

この授業について、どの程度満足していますか



教員の授業評価（生徒の集中・見取り・立会者との連携）と授業満足度についても、各項目において「そう思う」「どちらかと言えばそう思う」と回答した場合、それ以外に比べて授業満足度が高くなることがわかった。例えば生徒が集中して取り組んでいると感じている場合、教員の授業満足度の肯定的回答率は93.34%、よく見取ることができたと感じている場合は100.00%と高い値を示した。

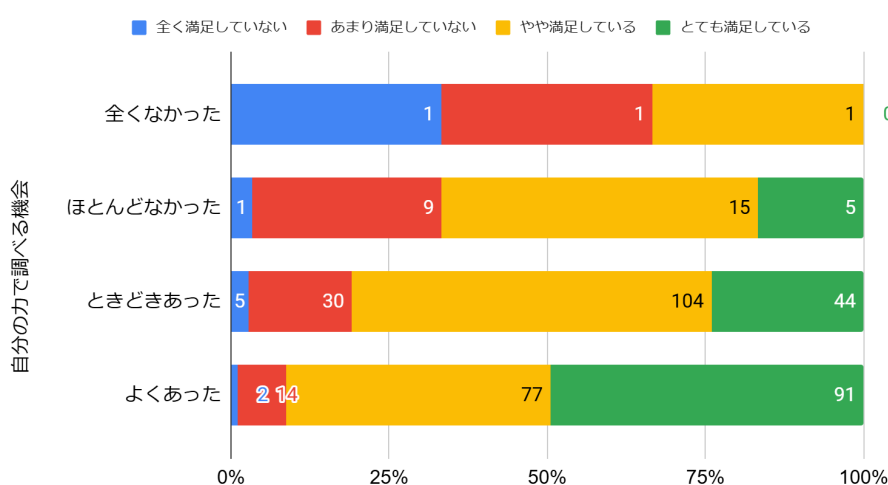
2.2.6.2. 授業における機会と授業満足度の関連

続いて「主体的な学び」「個別最適な学び」「質問をする機会」「協働的・対話的な学び」それぞれの機会と生徒の授業満足度の関連について分析した。

最初に、主体的な学びの機会と授業満足度についてクロス表を算出した。

図表2-64 「自分の力で調べる機会」（生徒）×「授業の満足度」（生徒）

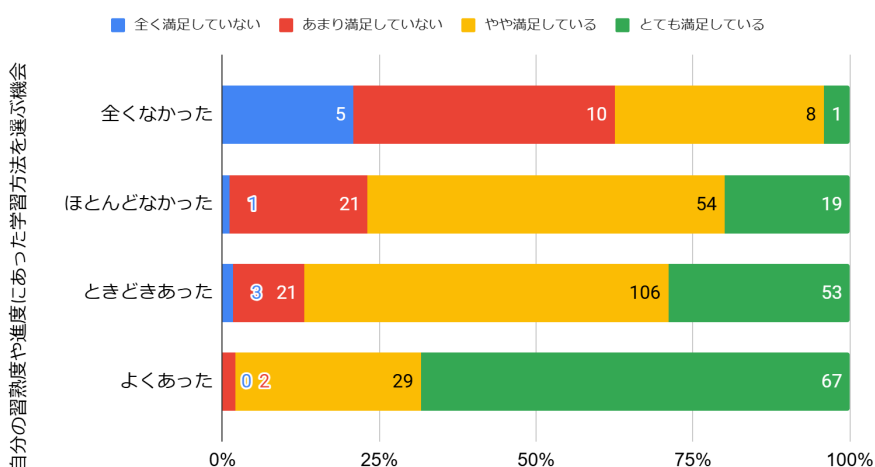
この授業について、どの程度満足していますか



自分の力で調べる機会が「よくあった」と回答した生徒の授業満足度における肯定的回答率は91.30%であったのに対して、「ほとんどなかった」場合と「全くなかった」場合はそれぞれ66.67%と33.33%にとどまった。他の項目についても同様に、機会が多いと感じているほど、満足度が高くなる傾向が見られた。

図表2-65 「習熟度や進度にあった学習方法を選ぶ機会」（生徒）×「授業の満足度」（生徒）

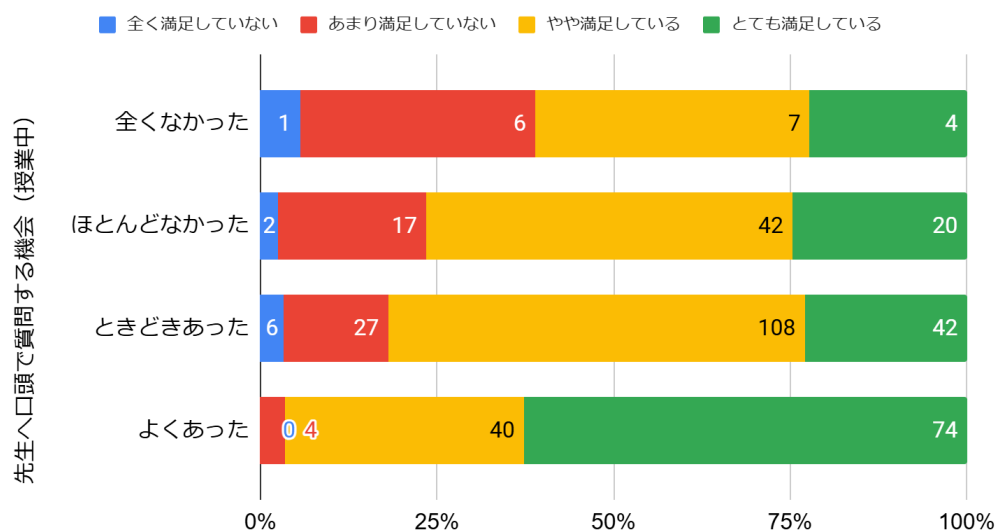
この授業について、どの程度満足していますか



個別最適な学習の機会についても、自分の習熟度や進度にあった学習方法を選ぶ機会が「よくあった」「ときどきあった」場合、満足度の肯定的回答率はそれぞれ97.96%、86.88%に上る一方で、「全くなかった」場合は37.50%にとどまった。

図表2-66 「授業中に口頭で質問する機会」(生徒) × 「授業の満足度」(生徒)

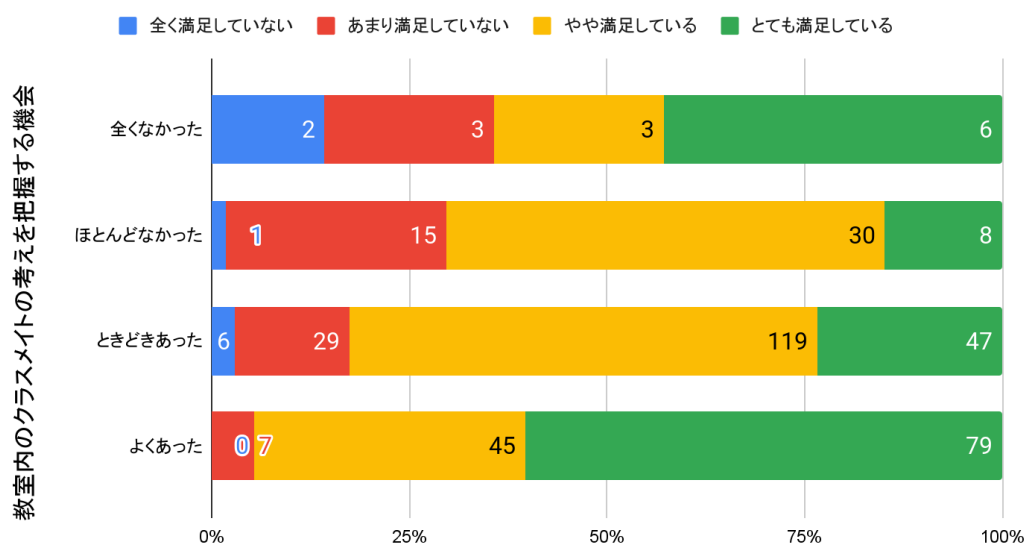
この授業について、どの程度満足していますか



質問する機会について、授業中先生へ口頭で質問する機会が「よくあった」場合、満足度の肯定的回答率は96.61%に上るのに対し、「全くなかった」場合は61.11%であった。チャットで質問する機会や、授業外で質問する機会についても同様の傾向であることが確認された。

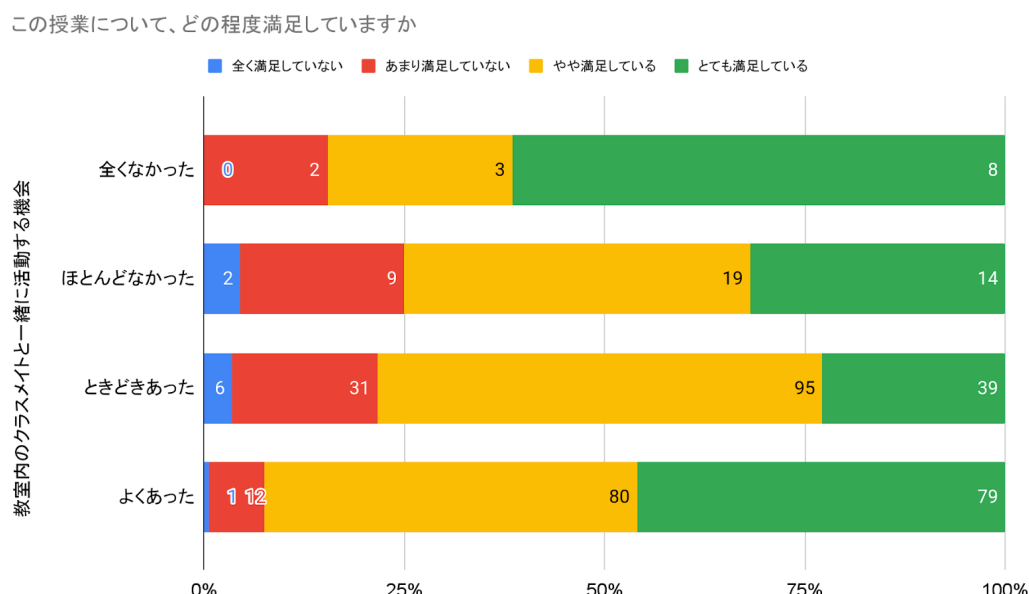
図表2-67 「教室内のクラスメイトの考えを把握する機会」(生徒) × 「授業の満足度」(生徒)

この授業について、どの程度満足していますか



協働的・対話的な学びの機会についても、教室内のクラスメイトの考えを把握する機会が「よくあった」場合、満足度の肯定的回答率は94.66%、「ほとんどなかった」場合と「全くなかった」場合はそれぞれ70.37%と64.29%にとどまった。

図表2-68 「教室内のクラスメイトと一緒に活動する機会」（生徒）×「授業の満足度」（生徒）



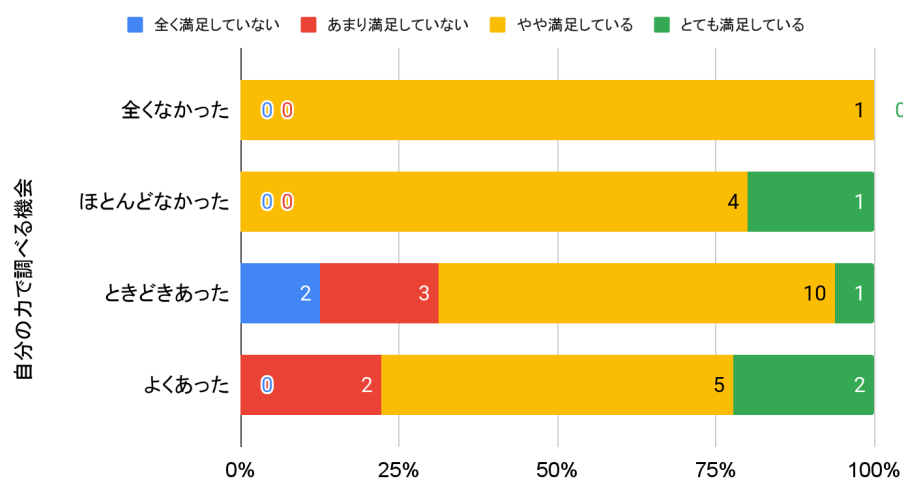
「教室内のクラスメイトと一緒に活動する機会」については、「よくあった」と回答した生徒の92.44%は授業の満足度が高いことが示された。一方、「全くなかった」と回答した生徒の84.62%も授業満足度が高いことが示された。このことから、授業の満足度については、「教室内のクラスメイトと一緒に活動する機会」の有無以外にも影響する要因があることが想起された。については、次年度以降新たな観点をクロスさせた分析を行う必要性があると考えられる。

以上のことから、「主体的な学び」「個別最適な学び」「質問」「協働的・対話的な学び」といった学びの機会が多いほど、生徒の授業満足度が高くなる傾向が全体として見られた。特に「主体的な学び」や「個別最適な学び」は、他の項目と比べても満足度との関連が顕著であった。

なお、教員アンケートについても図表2-69の通り同様のクロス集計を行ったが、生徒アンケートとは異なり、いずれの学びの機会においても授業満足度との関連は明確には確認されなかった。これにはサンプル数の少なさが関係している可能性もあるため、今後検討していきたい。

図表2-69 「自分の力で調べる機会」(教員) × 「授業の満足度」(教員)

この授業について、どの程度満足していますか

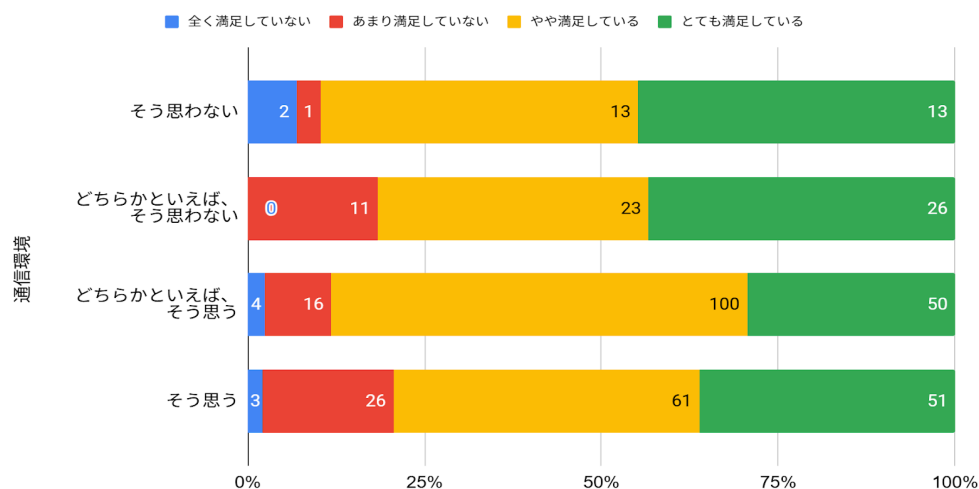


2.2.6.3. 通信環境と授業満足度の関連

次に、通信環境による授業への影響と生徒の授業満足度の関連を調べた。

図表2-70 「通信環境が悪いことで授業へ支障が出ることがあった」(生徒) × 「授業の満足度」(生徒)

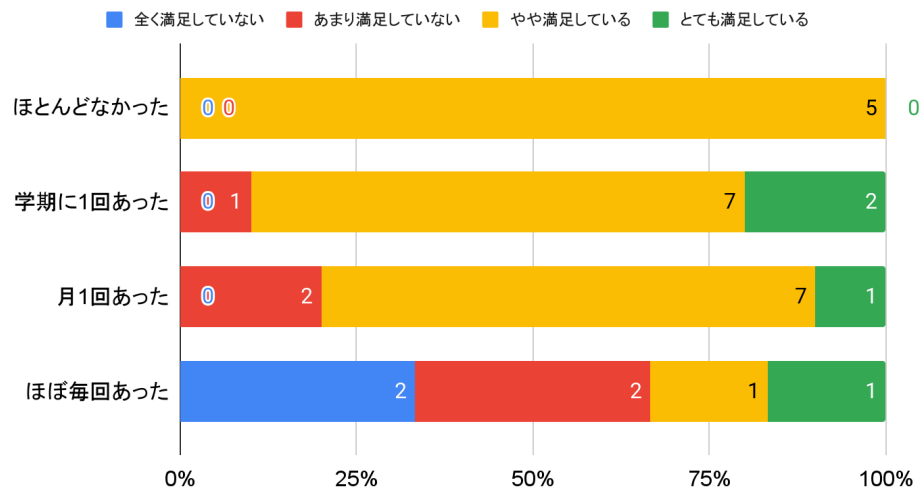
この授業について、どの程度満足していますか



「この授業では、通信環境が悪いことで授業へ支障が出ることがあったと思う」に対して「そう思う」「どちらかといえば、そう思う」と回答した場合でも、満足度の肯定的回答率はそれぞれ79.43%、88.23%と高水準にとどまり、「そう思わない」「どちらかといえば、そう思わない」と回答した生徒との間に大きな差はみられなかった。

図表2-71 「通信環境が悪いことで授業へ支障が出る頻度」（教員）
×「授業の満足度」（教員）

この授業について、どの程度満足していますか



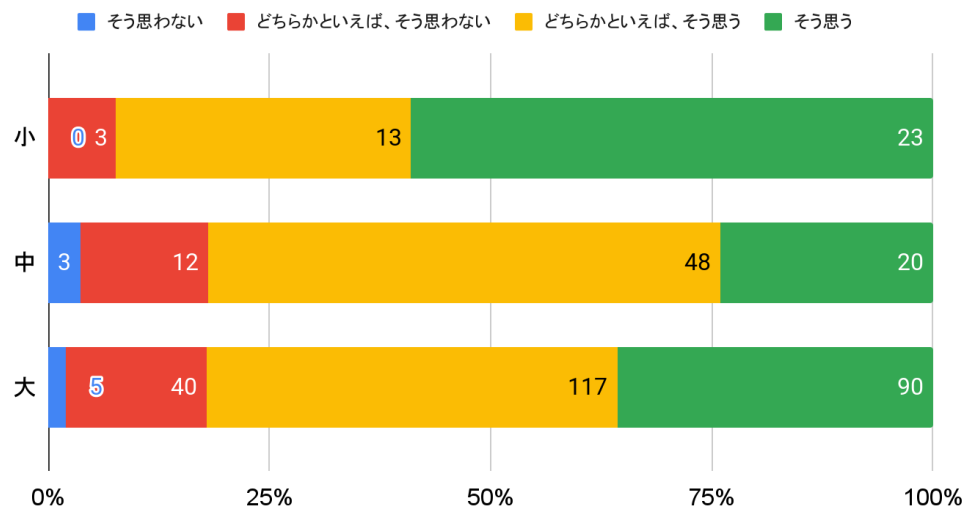
一方で教員は、通信環境により授業への支障が出る頻度が多いほど、授業満足度が下がる傾向が顕著に見られた。例えば支障が「月1回」程度の場合は満足度の肯定的回答率が80.00%であるのに対し、支障が「ほぼ毎回」の場合には33.34%と低い水準となった。

2.2.6.4. クラス規模による傾向

最後に、クラス規模と各指標の関連を調べた。

図表2-72 「授業への集中」（生徒）×「クラス規模」

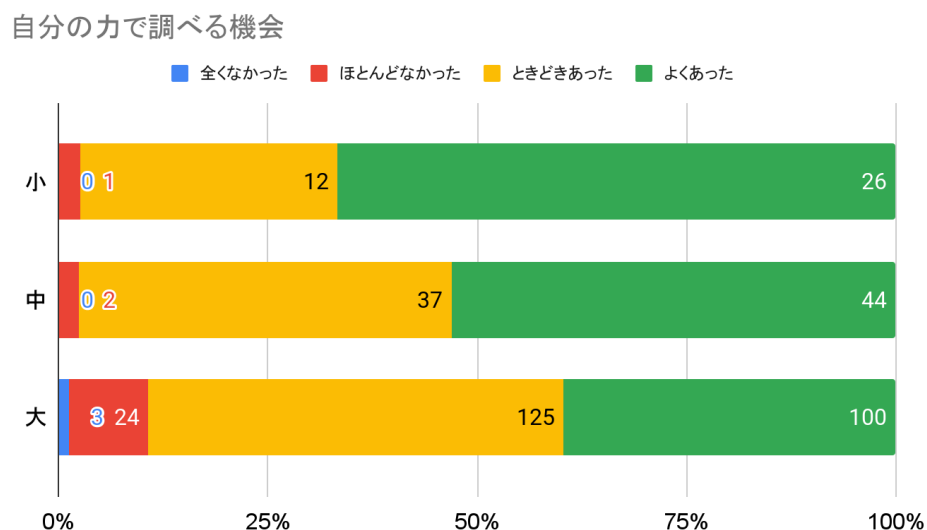
私は、この授業に集中して取り組むことができたと思う



まず生徒の授業評価のうち、授業体験に関する8項目とクラス規模についてクロス集計表を算出した結果、クラス規模が小さい場合、授業体験への肯定的回答率が高いことが分かった。例えば、クラス規模が8人以下の場合、97.44%が授業に集中して取り組むことができたと感じて

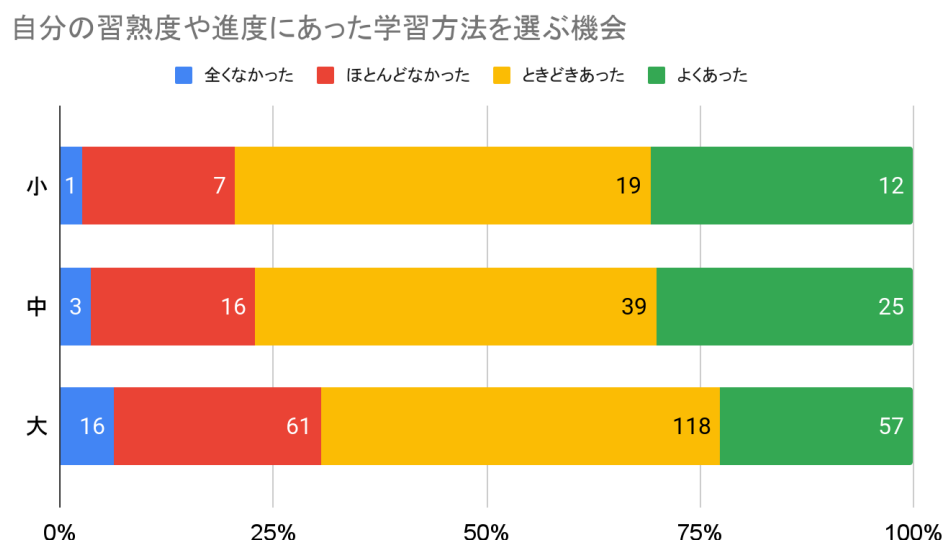
いたが、それ以上の規模のクラスでは、クラス規模が小さい場合と比較して肯定的回答率は下がった。授業への集中以外の項目についても、同様の傾向が見られた。

図表2-73 「自分の力で調べる機会」（生徒）×「クラス規模」



続いて「主体的な学び」「個別最適な学び」「質問をする機会」「協働的・対話的な学び」それぞれの機会とクラス規模の関連について分析した。主体的な学びは、自分の力で調べる機会について大規模クラスにおいても肯定的回答率が89.28%あり、小規模クラスと大きな差はなかった。それ以外の項目でも同様の傾向が見られ、クラス規模に関わらず、多くの生徒が主体的な学びの機会が提供されていると感じていることが示唆された。

図表2-74 「習熟度や進度にあった学習方法を選ぶ機会」（生徒）×「クラス規模」

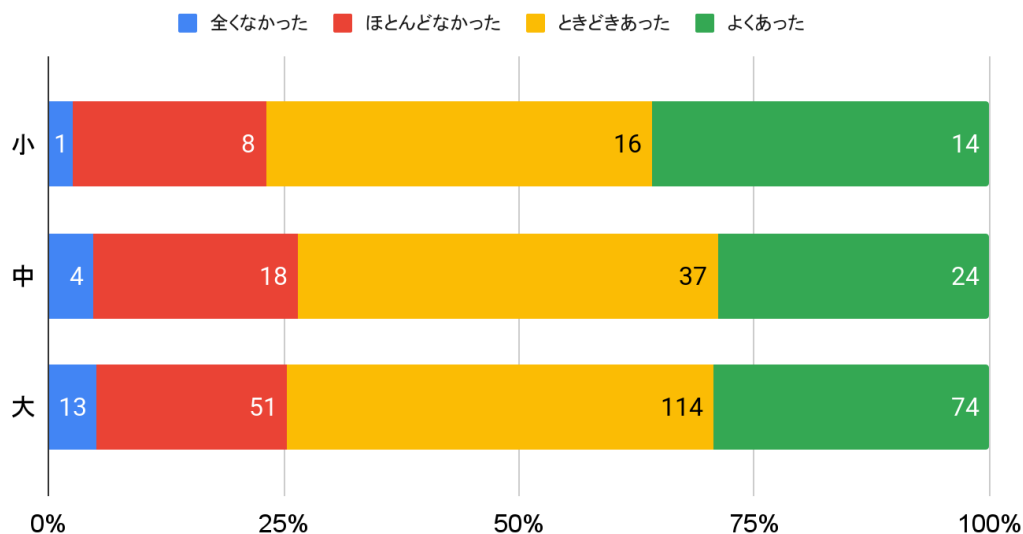


一方、個別最適な学習の機会は、自分の習熟度や進度にあった学習方法を選ぶ機会が、小規模クラスは肯定的回答率が79.49%であるのに対し、大規模クラスでは69.45%にとどまった。

個別最適な学習の機会については、クラス規模が大きくなるにつれて肯定的回答率が下がることが示された。

図表2-75 「授業中口頭で質問する機会」(生徒)×「クラス規模」

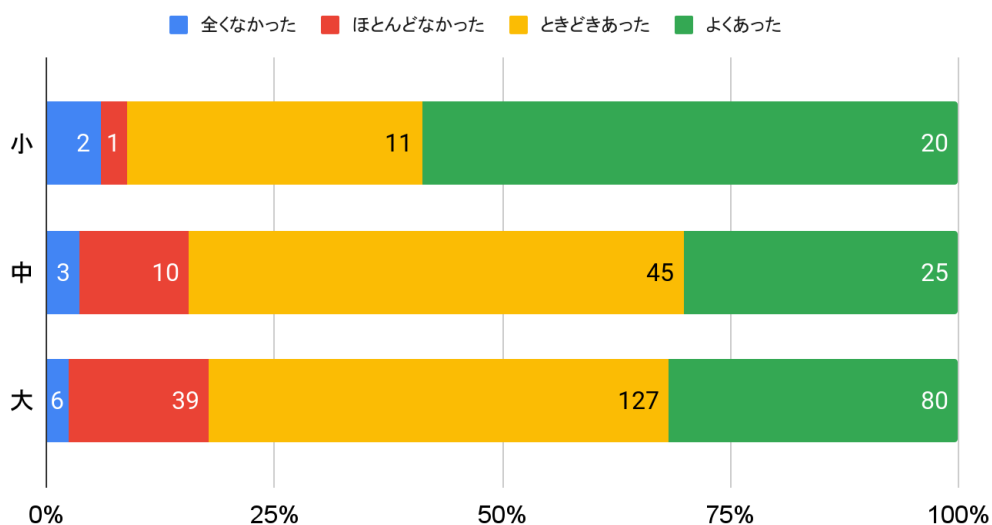
授業中、困ったり分からなかったりするときに、先生へ口頭で質問する機会



続いて、授業中口頭で質問する機会があったかどうかについての肯定的回答率は小規模クラスで76.93%、中規模で73.50%、大規模で74.61%であり、クラス規模によってそれほど差がないことがわかった。チャットを介して質問する機会や、授業外で質問する機会も同様の傾向であった。

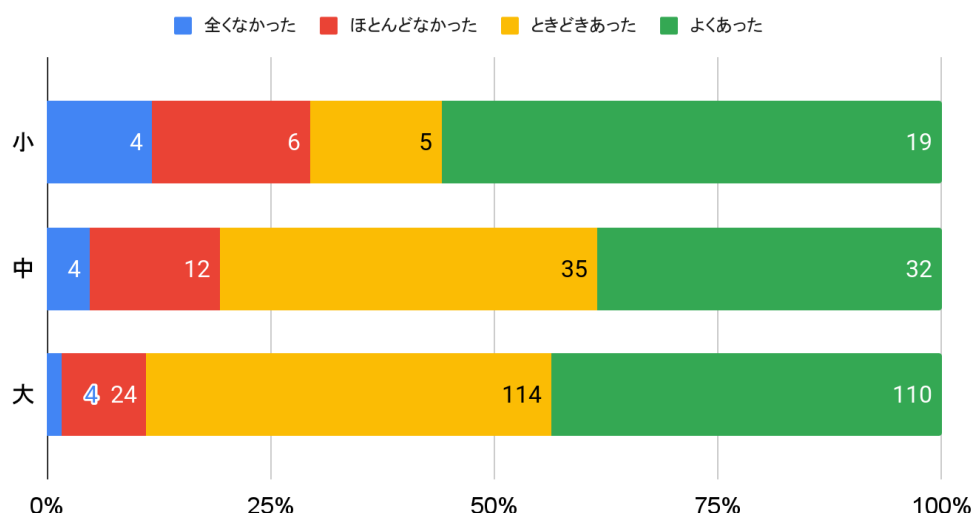
図表2-76 「教室内のクラスメイトの考えを把握する機会」(生徒)×「クラス規模」

教室内のクラスメイトの考えを把握する機会



図表2-77 「教室内のクラスメイトと一緒に活動する機会」(生徒)×「クラス規模」

教室内のクラスメイトと一緒に活動する(グループやペア)機会



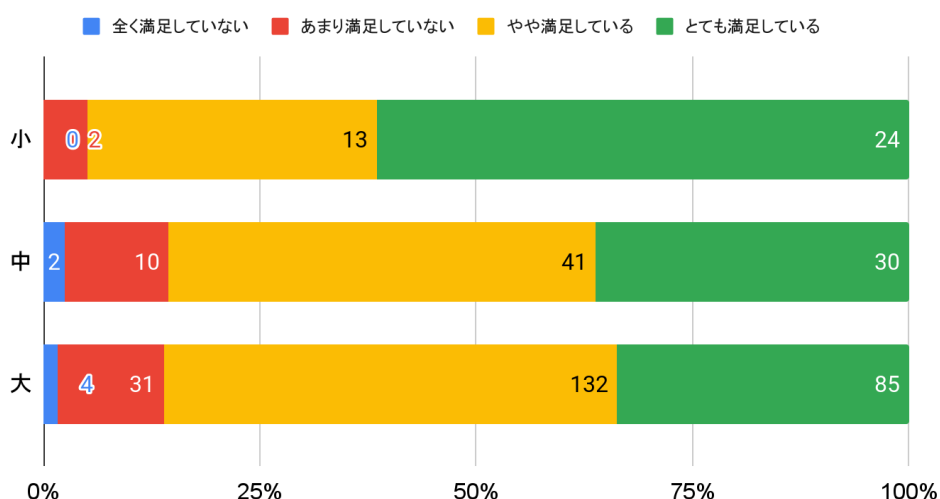
協働的・対話的な学びについては、「教室内のクラスメイトの考えを把握する機会」の肯定的回答率は、小規模クラス79.49%、中規模クラス84.34%、大規模クラス82.15%となり、クラス規模でそれほど大きな差は認められなかった。

しかしながら「教室内クラスメイトと一緒に活動する機会」については、肯定的回答率が小規模クラス61.54%、中規模クラス80.72%、大規模クラス88.89%となり、クラス規模が大きくなるにつれて機会が増えていく傾向にあることがわかった。

最後に、クラス規模と授業満足度について、クロス集計表を算出した。小規模クラスの肯定的回答率94.87%、中規模クラス85.54%、大規模クラス86.11%となった。小規模クラスに比べるとやや低い傾向にはあるが、中規模以上のクラスにおいても一定の満足度が保たれている結果となった。

図表2-78 「授業満足度」(生徒)×「クラス規模」

この授業について、どの程度満足していますか



以上のことから、クラス規模によって影響を受ける項目と、影響を受けにくい項目が明らかとなった。まず、集中をはじめとする授業体験への評価や「個別最適な学びの機会」については、小規模クラスの方が肯定的回答率が高く、クラス規模が大きくなるにつれて低下する傾向が見られた。これらはクラス規模によって差が出やすい項目であり、特に大規模クラスにおける工夫の必要性が示唆される。対して「協働的・対話的学びの機会」については、大規模クラスの方が頻度が高まる傾向にあり、多くの生徒が参加していることの利点が見られた。

また「主体的な学びの機会」「質問機会」については、前者と比較してクラス規模による差は小さく、クラス規模によらず授業設計次第で一定程度の機会が確保しやすいことが示唆された。なお「質問機会」に関しては全体として他の機会よりも評価が下回っており、クラス規模問わず今後の改善が求められるところであろう。

授業満足度については、小規模クラスが最も高い肯定的回答率を示し、中規模・大規模クラスではやや低下したが、いずれも80%を超えており、規模が大きくても工夫次第で高い満足度が維持されることが示された。

（参考）授業満足度の高い大規模クラスの特徴

ここまでの分析を通じて、クラス規模が授業体験や学びの機会に与える影響を明らかにしてきたが、今後のクラス規模の増加を見据えると、特に大規模クラスにおける授業満足度や学びの質に関して、さらに詳細な分析が必要であると考えられる。そこで大規模クラスに分類された11クラス中、授業満足度を含む遠隔授業の効果・影響に関する3項目すべてについて、全クラス平均を上回ったクラスを5つ抽出した。この5クラスについて、生徒の全ての質問項目を平均値と比較したところ、下記の項目について他クラスよりも値が高いことがわかった。

図表2-79 授業満足度の高い大規模クラスで値の高かった項目

授業体験に関する評価

- この授業について、先生の指示や説明の仕方は分かりやすいと思う
- この授業の先生から、授業をよりよくしようとする熱意が伝わってくる
- この授業では、先生やクラスメイトに自分の意見や考えを聞いてもらえたと思う
- この授業では、立会者の先生が通信機器以外でサポートしてくれたと思う

授業における機会

- 考えたことや感じたことを振り返る機会
- 教室内のクラスメイトの考えを把握する機会
- 教室内のクラスメイトと一緒に活動する（グループやペア）機会

これらの結果から、説明の明瞭さや、教員の熱意が何らかの形で生徒に伝わること、通信機器にとどまらない立会者のサポートや、他者と関わりながら学びを深めるための機会の確保が、大人数クラスでの遠隔授業における効果・影響に寄与している可能性が示唆された。

2.2.7. 小括 - 遠隔授業の質保障に向けた課題

今回のアンケート調査では、生徒・配信教員の双方から、遠隔授業の有効性に関して一定の肯定的評価が得られた。特に、「学習内容の理解促進」や「興味関心の深まり」「授業への満足度」といった項目では高い評価が見られ、また、主体的・対話的な学びを支える授業設計に対する評価も概ね良好であった。

一方で、授業への「引き込み」の課題や、「個別最適な学び」「チャット等による質問のしやすさ」の機会の少なさなど、遠隔授業の特徴を理解した上で更なる工夫が必要であることも明らかとなった。通信環境や機器トラブル、立会者の支援のあり方といった実施体制面での課題も依然として存在している。

また、近年増加傾向にある大規模クラスに関しては、小規模クラスと比較して生徒の授業体験に一定の差が見られることがわかった。これは教員の見取りが十分に行き届かないことや、必修科目のため多様な生徒が一斉に受講していることが一因であると考えられるが、一方で大人数であっても授業の効果・影響が平均を上回るクラスも存在することがわかった。そうしたクラスには、指示の明確さや立会者の授業支援の手厚さ、主体的・対話的な学びが十分に保障されているといった特徴が見られた。

これらの実践は、今後の伴走支援や遠隔授業の効果的な実施方法を整理する段階において、重点的に共有・展開していく価値があると考えられる。次年度以降、各地の遠隔授業の継続的なモニタリングを行い、授業設計や支援体制の改善がどのように影響するかを調査していきたい。

2.3. 遠隔授業における多様な受信体制の構築

2.3.1. 巡回型の実証

令和6年度においては、巡回型遠隔授業の本格実施に向けた準備段階として、複数の県において取り組みの趣旨説明が行われた。本年度は現場の理解促進や体制整備に時間を要したことから、同年度内での巡回型の試行実施には至らなかった。今後、巡回型の実証を進めるにあたっては、現場教職員の不安や懸念に丁寧に向き合いながら、遠隔授業の運用形態に対する意識づけを図ることが重要である。

2.3.2. 巡回型の実施に関する教員の意識

遠隔授業のアンケートにおいて、巡回型の実施に関する教員の意識を聴取した。

立会者の配置に関する意見では、「常時必要」とする声が一定数ある一方で、「巡回型でも問題ない」とする意見も見られた。ただし、後者においても、「1人だけ、あるいは大人数で受講している場合には常時必要」「生徒の自立度や安全面によって対応が異なる」など、条件付きでの柔軟な対応が求められることが示唆されている。実際、これまでに授業中の急病等の緊急対応が求められた事例もあり、安全面での備えは不可欠である。

こうしたことから、今後は教科特性、クラス規模、生徒の人数や特性に応じた立会者の配置方針を明確化するとともに、立会者が担う教育的支援の範囲についても整理し、必要に応じた研修等を通じて質の高い遠隔授業の実現を図ることが求められる。

図表2-80 立会者に関する意見（教員）

授業中の立会者について、常に受信側の教室にいる必要があると思いますか。

（巡回する形で問題ないと思いますか。）

条件による	現在は、生徒に問題もなく、機器のトラブルもそれほど多くないため、ずっといて頂く必要はないように思うこともありますが、災害や急病など何かあった場合を考えると、遠隔授業を受けている生徒が1人の場合もあり心配で、立会者がいてくれると安心である。
-------	---

	● 生徒の状況にもよるが2～5人程度なら問題ない。1人は万一倒れたときの対応が課題。また6人程度以上ならば、死角ができやすく授業に集中しない生徒が出る可能性が高くなるため ● 機材トラブルがなく、生徒たちが自立して学習できるのであれば巡回で問題ないと思います。 ● 少人数の場合は、常時いる必要はないが、大人数の場合は、配信校の環境にもよるが複数人いることも必要な場合がある。
巡回型でも問題ない	● 緊急事態への対応が必要だと思うので、巡回でも問題ないかもしれないが頻度は高くなければいけないと思う。 ● 巡回でも問題ない。 ● 1コマの間に常にいる必要はない（冒頭・終了に最低限いてほしい）と思いますが、学期を通しては同一の方に担っていただきたいと考えます。授業者として求めるのは、生徒が見せる授業中の態度や取り組み、考査に現れる点数などが通常の生活、他教科の成績状況などと一致するものなのかという画面上・点数上に現れない補助的情報であることからです。
立会者は常時必要	● 地震津波の心配があるので、天災が起きたことを考えると常にいる必要があると思う。 ● 機器の不具合やプリントをすぐに配付してほしい時や地震等の可能性などがあり、支援員は必要であると思う。巡回では頻度が多くないといけないと思うが、入退室が多いとかえって授業の妨げになることもあると思う。別の業務を教室でやってもらっていたほうが助かる。遠隔を受ける生徒がどういう生徒かということによっても変わってくると思う。 ● 機器トラブルがあればこちらからまともな授業ができないため、自習対応をしてもらうためにも必要。 ● 現状の機器トラブルの頻度を考えると常に居ていただいた方が安心します。 ● 現在の状況ではサポート担当は必ず必要である

2.4. 各地域における課題（遠隔授業）

令和6年度における各地域の進捗状況から、遠隔授業の普及および質保障について課題となる事項を抽出・整理した。

図表2-81 遠隔授業に関する課題

項目	遠隔授業に関する課題
①配信拠点の体制・環境整備	○遠隔授業を通じた目的・目標の具体化
	・遠隔授業の普及において、幅広い進路保障を目指すか、ハイレベルな進路達成を目指すか等について、検証の軸が複線的になっている場合がある
	○遠隔授業の普及に向けたロードマップの明確化
	・遠隔授業の普及に具体的方策（拡大範囲・拡大時期等）の検討について
	○遠隔授業の供給量を増やすためのリソース確保
	・遠隔授業者を増やしたいが、教員配置をしたくても予算が難しい
	・配信スタジオの部屋数が足りず、供給量の隘路になっている場合がある

②遠隔授業の効果的実施方法	○配信授業者同士のノウハウ共有の必要性 ・同じ教科の配信授業者が県の中におらず、教科ごとに遠隔授業について情報交換することが難しい ・遠隔授業の効果的実施方法について、多くが教員個々人の経験や暗黙知にもとづいており、共有可能な形式知になっていない ○遠隔授業を通じた「協働的学び」を実現する方策 ・複数校同時配信や学校間連携型の配信であっても、異なる学校の生徒が協働的に学習を行う機会は多くなく、実践手法として開発の余地がある ○大人数を対象とする遠隔授業の質保障のための方策 ・「選択科目×少人数」ではなく、「必修科目×大人数」という条件で行われる遠隔授業（情報Ⅰ等）における授業の質保障
③受信側体制	○巡回型の試行に対する現場の懸念 ・立会者がいない状態での遠隔授業実施に対する不安感 ・巡回型が成立した場合の教員配置数への影響に対する懸念 ○立会者の確保に向けた課題 ・多様な立会者の受け入れを行うための予算確保（市町村等との連携）
④関係者の合意	○遠隔授業推進・拡大に対する合意形成 ・担当課内で遠隔授業の拡大に対して懐疑的な声があり、施策の必要性についての合意形成に苦慮している地域がある ・設置者としてはハイレベル型の習熟度別遠隔授業に取り組みたいが、各学校の先生は「上位層の生徒は自校で指導したい」という思いがある

令和6年度は、遠隔授業の本格実施に向け、多くの地域で配信センターの立ち上げ準備が進められた年となった。各地域では、機器の整備や行政内の体制構築が図られた。また、複数の地域において試行配信が行われ、実際の運用を想定した検証が進められた。試行を通じて、技術的な課題や運営上の留意点が明らかになり、今後の改善に向けた知見が蓄積された。

遠隔授業の普及と質の保障を本格的に進めるためには、各地域で遠隔授業の目的や目標を整理し、施策の評価基準を明確にすることが重要である。あわせて、段階的な普及に向けたロードマップを策定し、教員配置や配信環境の整備に必要なリソースを、安定的に確保する方策を検討する必要がある。さらに、配信教員同士が知見を共有できるネットワークづくりや、効果的な指導法の形式知化を進め、遠隔授業の質を全体として底上げしていく取組が求められる。

協働的な学びを促す授業モデルの開発や、大人数を対象とした授業の質を支える支援体制の整備に関すること本事業における遠隔授業の質向上のポイントになると思われる。

3. 通信教育に関する調査・伴走支援

本章では、令和6年度における通信教育の検証状況について報告する。

3.1. 各地域の基本情報 - 各地域における取り組みのポイント

生徒のより柔軟で質の高い学びの実現に向けて、各地域の文脈に応じて、通信教育は活用されている。各採択地域での位置づけを整理すると、①不登校・病気療養等の多様な背景を有する生徒の学習機会保障、②大学進学支援という2つに大別できる。

3.1.1. 不登校生徒への学習機会保障としての通信教育の活用

島根県・高知県・宮崎県等の地域において、全日制課程に在籍する不登校生徒に対して、通信教育等が学習方法として機能するかを検証している。詳細について、「3.2.2. 実践事例」において述べる。

3.1.2. 大学進学支援としての通信教育の活用

長崎県・大分県・鹿児島県等の地域において、離島・中山間地域の高校に在籍する生徒に対して、教育課程外における通信教育を活用した大学進学支援という位置づけで通信教育の活用を検討している。

3.1.3. 各地域において設定した問い

各地域は通信教育に関する検証ポイント（問い）を設定し、その検証に向けて取り組みを進めた。各地域の問いを以下の表に示す。

図表3-1 各地域における検証ポイント

	通信教育の効果的実施方法, 履修・単位認定の在り方	オンデマンド教材等による学習の質担保
岩手県	・不登校等多様な背景を有する生徒に対する通信教育のニーズの掘り起こし方法について ・通信教育を円滑に実施するための準備や手順として必要と考えられることは何か ・在籍校と中心拠点の連携体制として必要なことは何か	・添削指導等において、オンデマンド教材を活用する実証研究を行い、知見を蓄積できたか
山形県	・通信制課程との連携及び協力体制等をどうしていくのか ・全日・定時制の生徒が通信教育を実施する場合の通信制高校の負担はどうか ・在籍校で通信教育を実施する場合の業務分担及び教員数はどうか ・単位の認定におけるガイドラインをどのように整備するか	・通信教育に対する生徒ならびに教員のニーズは何か ・オンデマンド教材を活用することで生徒の学びがどう変わるのか
静岡県	・不登校生徒、病気療養中の生徒が自校に	・配信センターからの配信授業をオンデ

	在籍しながら通信制課程を併修して卒業を目指すとなった場合、障壁となるものは何か	マンド教材化することは可能か
名古屋市	・名古屋市立高校に必要な通信教育のしくみを「学びの改革推進センター」を拠点としてどう構築するか ・通信教育／遠隔授業のそれぞれの特性を効果的に生かしながら、学びの多様化をどう推進していくか	・オンデマンド教材等に対する学習ニーズは何か ・オンデマンド教材等による効果的な学習方法は ・オンデマンド教材等を学校の学習補完としてどのように活用できるか
島根県	・対象生徒在籍校の担当教員に、添削指導・面接指導のノウハウが共有され、適切に指導がされているか ・モデルとなる添削課題等の教材は、汎用性のあるものになっているか。教材（教科書）の違いに対し、各校でどのように対応することが可能か ・学期中における履修方法の切り替え、単位認定について適切なあり方（基準等）でなされているか	・面接指導に一部代替するオンデマンド教材の活用をどのように行うことができるか
高知県	・不登校生徒を含め、対象となる生徒をどのように決定するか ・不登校生徒を含め、対象となる生徒の学習ニーズに応じた開講科目や履修スタイルをどのように決定するか ・現状の遠隔システムを活用した効果的な通信教育をどのように展開するか	—
長崎県	・配信拠点と全日制高校（構成校）の連携体制の整備 ・学習状況の進捗や理解の状況の把握と効果的な支援の方法 ・全日制課程における、通信教育等を活用した単位認定までの検討すべき事項の検証	・EdTechサービス等を活用した、通信教育に活用可能な教材開発及び検証体制の整備
熊本県	・通信教育のニーズを調査するためには、どのような方法が適しているのか ・課程を超えた通信教育にはどのようなパターンがあるのか	・オンデマンド教材を整備していくために、どのような準備が必要か
大分県	・配信センターから実施する生徒進学支援オプション（SOP）の具体的な実施方法及び効果検証はどのように行うか	・動画教材配信（オンデマンド教材）の具体的な仕組みと生徒の利用効果は、どのようなものか ・生徒の取組状況や活用頻度等をどのように配信側が把握するか。 ・生徒個人の通信教育におけるポートフォリオの構築の具体的な方法はあるか

宮崎県	・不登校支援における通信教育の活用において、どのような支援の手立てが必要か ・通信教育を活用した単位認定におけるガイドラインをどのように整備するか	・オンデマンド教材に求めている単元やテーマ、活用したい場面はどのようなものか
鹿児島県	・通信教育を効果的に実施する上で、適切な学習計画、フィードバック及びインセンティブ設計とは	・知識・技能に関する課題と思考力・判断力・表現力に関する課題では、どちらの学習効果が高いか

3.1.4. 各地域の進捗事項

各地域の取り組みについて、令和6年度における進捗事項を以下の表に示す。

表中の項目は本事業における実証観点にあわせ、進捗事項はそれぞれ一部地域における事例を抽出した。

図表3-2 各地域における進捗事項（令和6年度）

項目	進捗事項（それぞれ一部地域における事例）
①通信教育の環境整備・体制構築	○学校間連携による通信教育活用の検討 ・全日制在籍生徒の具体的なケースに基づいて、公立通信制高校におけるスクーリング受け入れの可否について検討会議を実施
②通信教育の効果的な実施方法の検討	○添削課題のリスト化・面接指導方法の検討 ・通信制高校から提供できる添削課題のリスト化 ・面接指導を生徒個別の状況に応じ、各在籍校で実施する方式に変更 ○動画教材の開発・活用 ・長期休業中の補習授業および入試問題解説の動画教材を作成 ・学びのコンテンツ（動画教材）のデモ作成 ・オンデマンド教材を活用した課程外学習の夏期・冬期トライアル実施 ○動画教材に関する著作権の課題調査・対応 ・教育課程外の教材利用における著作権の取り扱いに関する調査を実施 ・オンデマンド教材制作にあたり、教材会社への著作物利用許可申請を実施
③不登校生徒等を対象とした履修・単位認定の在り方	○通信教育を活用した不登校支援の検討 ・不登校生徒の履修・単位認定を想定したガイドライン案を作成・共有 ○教務内規の改訂に関すること ・不登校生徒の履修・単位認定のため、教務内規の現状把握および改定に着手
④学習支援の多様化・補助施策の導入	○学習支援の多様化・補助施策の導入 ・オンラインを活用した個別面談・外部講演会・課題配信の仕組みを検討 ○学習継続支援の効果検証 ・夏期・冬期のトライアルを実施し、オンデマンド学習の活用を促す方策検討

3.2. 通信教育の活用に関する課題調査

3.2.1. 各地域へのヒアリング調査

3.2.1.1. 指定ネットワーク担当者へのヒアリング

各地域の教育行政担当(指導主事等)と2か月に1回程度の面談を行い、通信教育の活用に向けた取り組み状況及び課題を確認した。また、進捗状況や推進上の課題を集約する様式を配布し、各地域からの回答を収集した。

3.2.1.2. 通信制高校へのヒアリング

全日制在籍生徒が通信教育を活用する場合の課題を調査するため、公立通信制高校1校の管理職へのヒアリングを実施した。不登校等の理由により、全日制在籍生徒が通信制課程の授業を履修し、単位を修得する上で以下の2点の課題が挙げられた。

1つ目は、通信教育を活用した取得単位数には上限がある上、通信制高校の授業が在籍校のすべての教育課程を満たすことが難しい場合があるため、全日制高校に戻ることを想定したフォローアップが必要となる点である。2つ目は、通信制高校のスクーリングにおけるキャパシティには上限があり、現在の設備・人員体制のままでは希望者全員を受け入れることが難しいという点である。

なお、当該通信高校は定時制・通信制併置校であり、定時制在籍生徒が通信制を併修し、定時制において取り損なった単位を通信制の授業を用いて取得した事例がある。

3.2.1.3. 全日制高校へのヒアリング

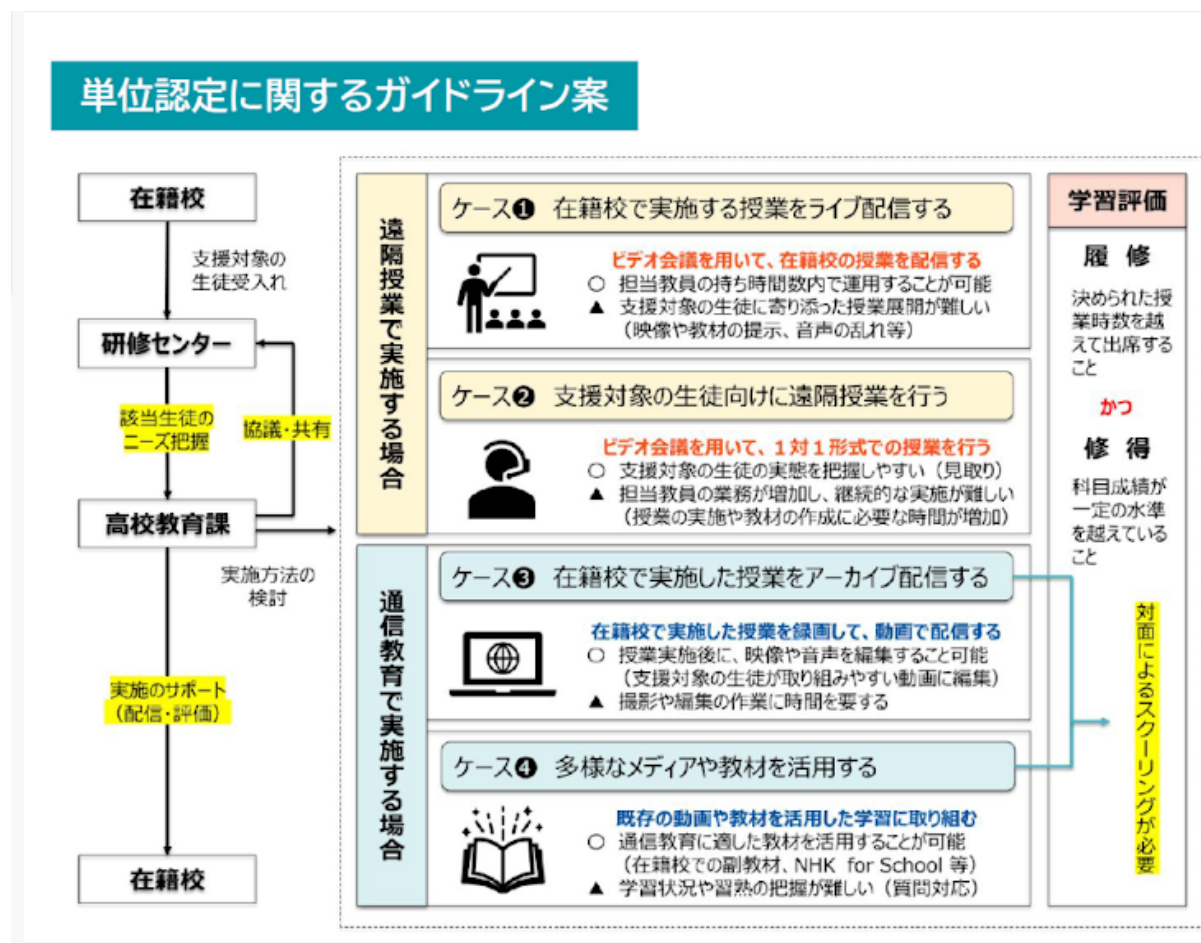
全日制在籍生徒が通信教育を活用する場合の課題を調査するため、全日制高校2校の管理職へのヒアリングを実施した。ヒアリング対象校では、中学校段階までに不登校を経験した生徒も在籍し、通信教育を活用した単位修得は学習機会の拡充として肯定的に評価された。単位認定にあたっての懸念事項として、不登校生徒がスクーリングやテストのために、登校することが可能かという意見が得られた。また、不登校に関する生徒の状況は多様かつ変化し続けるため、一律の対応方法を定めることは難しいという点も言及された。

3.2.2. 実践事例

複数の採択地域内において、学習機会保障のために遠隔授業及び通信教育を用いた単位修得ガイドラインを各地域の高校に周知する事例が生まれた。学習を継続する意欲がある不登校生徒に対して、各校における授業をライブ配信し、生徒が別室から受信することが推奨されている。それに加えて、通信教育も選択肢として挙げられ、県内すべての全日制課程・定時制課程の高校において単位修得を見据え、通信教育を利用可能とするガイドラインが令和6年度に整備された。

ガイドライン検討にあたって、採択地域である宮崎県教育委員会が遠隔授業及び通信教育を活用した単位修得の流れについて整理した資料を以下の図に示す。なお、令和6年度末までに採択地域において通信教育を用いて単位修得した事例は生まれておらず、県立高校教員への周知を継続するとともに、通信教育を利用開始する基準や学習支援体制のあり方について、引き続き検討する予定である。

図表3-3 遠隔授業及び通信教育を活用した単位修得フロー



3.2.3. 通信教育の活用に向けた課題

「3.2.1. 各地域へのヒアリング調査」を通じて得られた通信教育の活用に関する課題について、以下の表に示す。

図表3-4 各地域における通信教育に関する課題

項目	通信教育に関する課題
①拠点センター校及び構成校の体制構築と検証	○対象となる生徒選定及び適時的なニーズ把握の難しさ ・不登校にも多様な実態があるが、どのような状態・段階の生徒に通信教育という選択肢が最適であるか明らかになっていない ・不登校生徒への対応（原籍校での対応や通信制高校との連携等）を準備している間に生徒の状況が変わってしまい、必要としているタイミングで支援が届きづらい ○通信制高校側の連携にかかる負担 ・学校間連携においては通信制高校側で年度途中からの受け入れが難しく、とくにスクリーニング等の対応に負担がある ・通信制高校側のキャパシティに上限があるため、学校間連携による通信教育を利用希望する生徒が増加した場合、受け皿が不足する可能性がある
②通信教育の効果	○汎用性ある教材の作成の難しさ

的实施方法の検討	・学校ごとに教材(教科書)が異なるため、拠点センター校で作成する添削課題等が、生徒の資質・能力の育成や学習評価に適したものかどうか、在籍校での活用状況等から検証し、より汎用性のある添削課題の作成を図る必要がある
③不登校生徒等を対象とした履修・単位認定の在り方	○通信教育による単位認定に対する心理的／制度的ハードル ・教室以外の場所で行われる学習活動による学びの質への不安・懸念 ・通信教育による単位認定をするために、内規の考え方等の整理が必要
④教員の意識	○通信教育の活用に対する不平等感 ・不登校生徒が在籍する全日制高校において、通信教育を活用した単位取得と全日制高校の授業を用いた単位取得を比べて、平等でないとの認識が生じる可能性がある

通信教育を活用した支援を効果的に進めるためには、対象となる生徒の選定基準を明確化し、適時的にニーズを把握する体制の構築が求められる。不登校生徒の実態は多様であり、どの段階で通信教育が最適となるかを見極める指針の整備が不可欠である。

また、通信制高校側でのスクーリング受入れには負担が大きく、キャパシティにも限界があるため、年度途中での柔軟な受け入れ体制や代替手段の検討が必要となる。教材面においては、在籍校間での教科書の違いを踏まえ、より汎用性の高い添削課題や学習支援教材を開発し、学びの質を担保する工夫が求められる。

さらに、通信教育による単位認定に対する心理的・制度的ハードルを低減するため、学びの成果に対する共通理解の醸成と、認定に係る内規の整理・統一が重要である。あわせて、通信教育と全日制の授業との間に不平等感が生じないよう、制度設計や周知の在り方にも十分配慮する必要がある。

4. 指定ネットワークに対する伴走支援

本章では、令和6年度における指定ネットワーク（各管理機関）に対する伴走支援について報告する。

4.1. 指定ネットワークの担当者間ネットワーキング

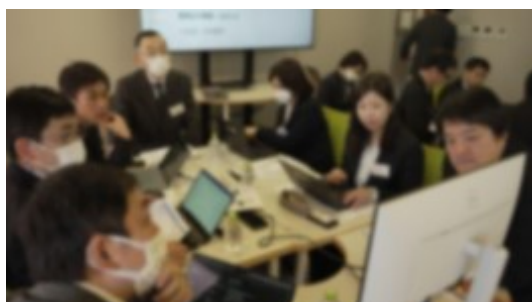
本事業は多様な検証観点をもつことから、各地の知見を相互共有することが重要であると考え、各管理機関の担当職員がつながり、情報交換する機会を複数回設けた。

4.1.1. 夏季合同ミーティング

各地域が設定した目指す姿や検証事項について相互に共有し、今後の取り組みを明確化するために、夏季合同ミーティングを令和6年8月にオンラインで開催し、9地域が参加した。参加者からの感想として、「小グループでの対話を通じて、各地域の取り組み状況を知ることができた」、「他県の担当者と繋がることができたので、ミーティング後も継続的な情報交換ができるようになってありがたかった」等の声が得られた。

4.1.2. 冬季合同ミーティング

各地域が令和6年度の取り組みを共有し、令和7年度の事業推進における課題について解決の糸口を得るために、冬季合同ミーティングを令和7年1月に対面（東京都）で開催し、8地域が参加した。当日は3つの分科会に分かれ、各地域が相互に知見及び課題感を共有するとともに、本事業の運営指導委員等からのアドバイスを通じて、今後の事業推進のヒントを得た。参加者からの感想として、「各地域の実施計画書からでは見えない背景を直接聞き、深掘りすることができたので、本県の事業展開に活かしていけると感じた」、「垣根を超えるという本事業の趣旨を再確認し、単に遠隔や通信の活用という手法だけの実証にとどまることなく、学びや教育の在り方を再定義するような取組にチャレンジしていく必要があることに改めて気付かされた」等の声が得られた。



4.1.3. テーマ別勉強会の開催

4.1.3.1. 行政担当者向け勉強会①「遠隔授業の推進・普及」

遠隔授業の推進・普及に関する意見交換会を令和6年12月にオンラインで実施し、7地域より23名が参加した。「遠隔配信教員の確保及び支援方策」、「立会者の確保方策」、「受信校との授業時間の円滑な調整」、「遠隔授業の効果検証方法」並びに「著作権の許諾」等のテーマについて、活発な意見交換が行われた。

4.1.3.2. 行政担当者向け勉強会②「不登校生徒等の学習機会保障としての通信教育」

「3.2.2. 実践事例」において紹介した島根県の取り組みについて、情報共有・意見交換会を令和6年10月にオンラインで実施し、7地域より20名が参加した。島根県からの事例共有に対し、各地域より「実施要項の作成に至った経緯」、「各高校からの反応」並びに「添削課題の具体的な内容」等について質疑応答が行われた。

（参考）横連携機会を通じた所感・意見抜粋（冬季合同ミーティング事後アンケートより）

- 制度設計の面で、あらためて県によって様々な違いがあることを把握できた。本県で検討している各事項についても、唯一の正解がある訳ではないという認識を持てたことは収穫だった。
- 「垣根を超える」という本事業の趣旨を再確認し、単に遠隔や通信の活用という手法だけの実証にとどまることなく、学びや教育の在り方を再定義するような取組にチャレンジしていく必要があることに改めて気付かされた会でした。
- 遠隔授業のねらい・目的（行政としての思惑・学校としてのメリット）等をきちんと整理する必要があると感じた。通信教育は試行錯誤が始まったばかりであり、不登校の生徒に何が必要で、学校が支援可能あるいは、本事業で支援が可能になることなどメニューをしっかりと吟味して広く周知（まずは教員・生徒・保護者）していくことが必要だと考える。
- 他県の先生方との対話を通じて、対面授業と遠隔授業の形式に関わらず、生徒の対話的、主体的な学びを引き出すことが重要であり、学びの本質は変わらないと改めて気づくことができました。また、同じ志を持ち、共通の課題に向き合っている方々と意見を交わす機会を得られたことが何よりも収穫でした。
- 最後の各県からの発表時にも述べましたが、結局どの県も抱えている困りや課題は共通部分が多いという点です。であるからこそ、今回のような機会はありがたいと感じました。
- 指導主事プラス授業配信者（教諭）という形で参集して合同ミーティングができれば、遠隔授業の在り方とその行政のサポートについて、双方の立場からの意見を拾えるのではないか。

4.1.3.3. 遠隔授業配信教員向け勉強会

令和7年度に遠隔授業配信を開始する指定ネットワークが複数あったことから、遠隔授業を始めるにあたっての課題解消のため、令和7年3月にオンライン座談会を実施し、9地域より17名が参加した。外国語(英語)及び数学の2教科について、教科ごとに開催し、評価方法、見取りや主体的に学習に取り組む態度を養う指導方法について意見交換が行われた。参加者からの感想として、「同一教科(数学)の視点で目線合わせしながら対話をするので良かった」、「評価において、受信校の教務内規に合わせることや、目標とスクールポリシーとのリンクが改めて大切だと感じられた」等の声が得られた。

4.2. 指定ネットワーク間の情報共有ツールの整備

4.2.1. 採択地域ポータルサイト (Notion)

指定ネットワーク間の情報共有を図るため、各地域が作成したドキュメントや弊団体が集約した情報を参照できるWebサイトをNotionを用いて構築した。令和6年度の各地域の実施計画や遠隔授業一覧を共有するとともに、弊団体が開催した全体会や勉強会に係る配布資料等も掲載した。

5. 令和7年度以降に取り組むべき課題

5.1. 伴走支援・調査の方向性

令和6年度の取り組みは各県の取り組みに関する状況把握や課題の整理が中心となったため、令和7年度は、各地で実装される各種取り組みの質向上に資する伴走支援に注力していく。

(1) 遠隔授業

取り組みの質向上に向けたナレッジシェア

- ・遠隔授業を担当する配信教員に対して直接支援を行い、遠隔授業の質向上に向けた授業づくりや知見共有を促していく。とくに各地域で担当者の人数が少なく孤立しやすい配信授業者間を繋ぎ、質の高い遠隔授業に向けた実践の創出を目指す。
- ・各地域の配信授業者の工夫を抽出・可視化し展開する支援に注力していく。

多様な受信体制に関する検証および調査

- ・巡回型の試行に取り組む地域の事例を調査し、運用面で具体的に生じる課題や解決の方策を整理する。
- ・不登校生徒に対する遠隔授業（通常授業のライブ配信形式を含む）について、単位認定に至る事例の調査や運用上の課題および解決の方策を整理する。

(2) 通信教育

通信教育による単位認定事例の立ち上げ支援

①不登校の生徒に対する通信教育

- ・特定地域・学校等との連携を強化し、事業趣旨に沿ったネットワーク活用事例を促す。
- ・事例創出に向けて、関係者（学校・行政等）の推進方策を具体化する支援に取り組む。

②地域留学生の学び継続に向けた通信教育

- ・各地の構成校において地域留学を行っている生徒を対象として、取得が難しくなる単位やフォローアップ方策に関する現状および課題を調査する。

学校間連携を円滑にする要件の調査

○単位制への移行に関する状況調査

- ・本事業で目指す学校間連携を実現するにあたり、単位制への移行がどのような利点を持つかについて調査する。各地域の現状を整理した上で、単位制に移行する上でのハードルや支援の方策について聞き取り調査を行う。

(3) 採択地域に対する伴走支援

提供範囲拡大に向けた中期計画策定支援

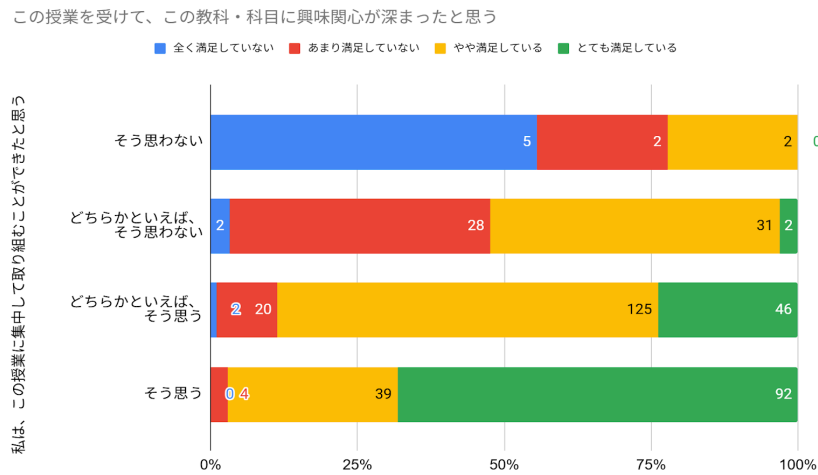
- ・各管理機関において、本事業における検証の普及・発展に向けた中期計画の作成スケジュールおよび準備項目を整理するための支援に取り組む。

採択地域間のネットワーク支援

- ・引き続き横連携の機会を設定し、各地域における進捗状況や行政としての推進上のポイントを共有する

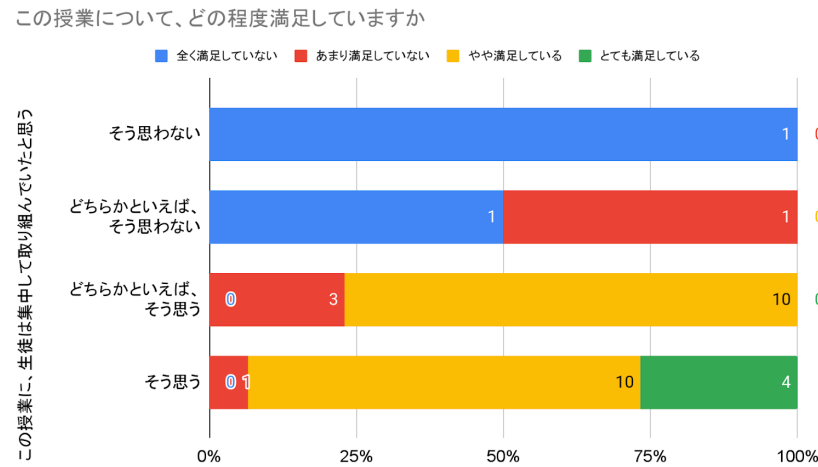
6. 参考資料 - 授業に関する評価と授業満足度の関連（2.2.6 未掲載データ）

図表6-1 集中（生徒）×「授業の満足度」（生徒）



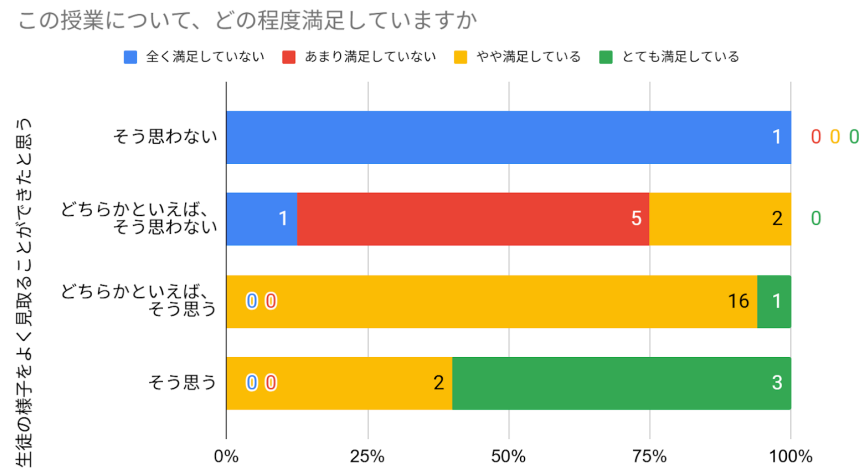
	全く満足していない	あまり満足していない	やや満足している	とても満足している	合計
そう思わない	55.56	22.22	22.22	0	100
どちらかといえば、 そう思わない	3.17	44.44	49.21	3.17	100
どちらかといえば、 そう思う	1.04	10.36	64.77	23.83	100
そう思う	0	2.96	28.89	68.15	100

図表6-2 集中（教員）×「授業の満足度」（教員）



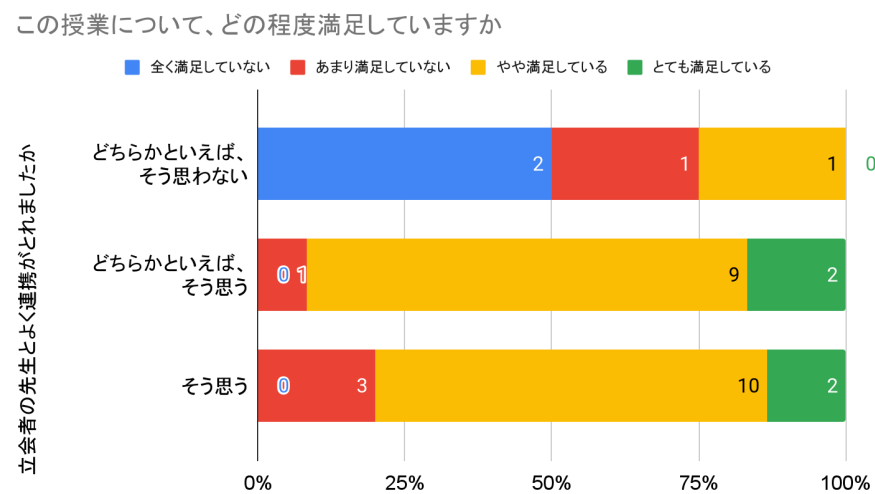
	全く満足していない	あまり満足していない	やや満足している	とても満足している	合計
そう思わない	100	0	0	0	100
どちらかといえば、 そう思わない	50	50	0	0	100
どちらかといえば、 そう思う	0	23.08	76.92	0	100
そう思う	0	6.67	66.67	26.67	100

図表6-3 見取り（教員）×「授業の満足度」（教員）



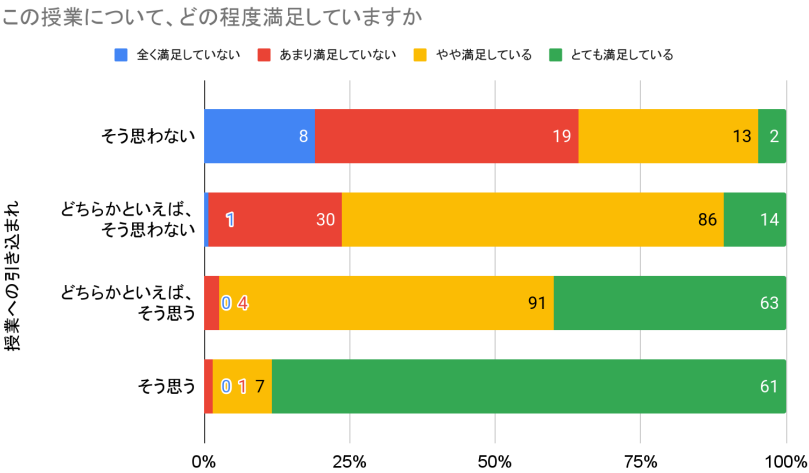
	全く満足していない	あまり満足していない	やや満足している	とても満足している	合計
そう思わない	100	0	0	0	100
どちらかといえば、 そう思わない	12.5	62.5	25	0	100
どちらかといえば、 そう思う	0	0	93.75	6.25	100
そう思う	0	0	40	60	100

図表6-4 立会者との連携（教員）×「授業の満足度」（教員）



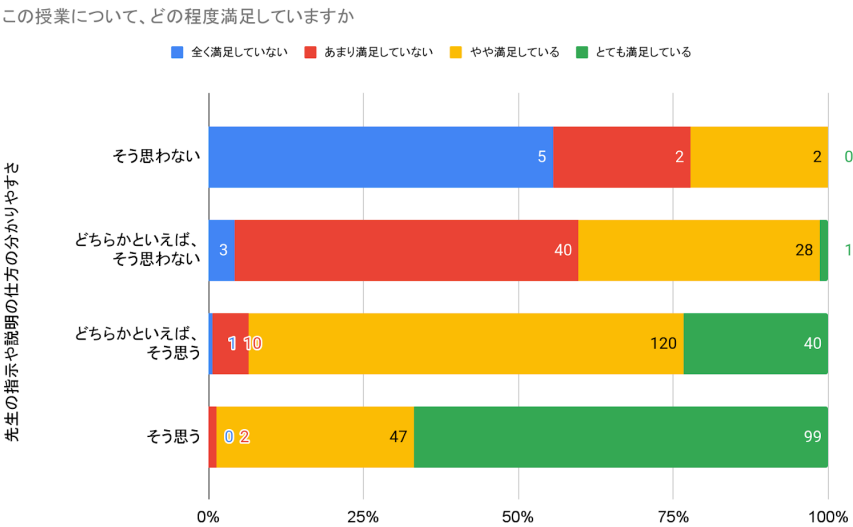
	全く満足していない	あまり満足していない	やや満足している	とても満足している	合計
どちらかといえば、 そう思わない	50	25	25	0	100
どちらかといえば、 そう思う	0	9.09	72.73	18.18	100
そう思う	0	20	66.67	13.33	100

図表6-5 「私は、この授業に引き込まれていたと思う」（生徒）×「授業の満足度」（生徒）



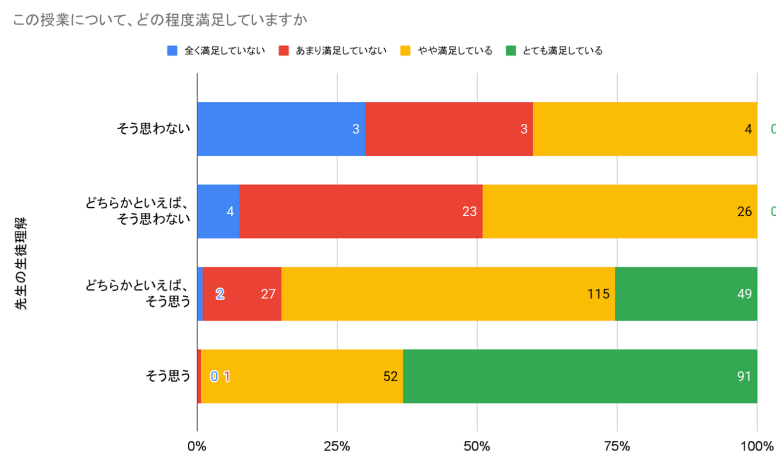
	全く満足していない	あまり満足していない	やや満足している	とても満足している	合計
そう思わない	19.05	45.24	30.95	4.76	100
どちらかといえば、 そう思わない	0.76	22.9	65.65	10.69	100
どちらかといえば、 そう思う	0	2.53	57.59	39.87	100
そう思う	0	1.45	10.14	88.41	100

図表6-6 「この授業について、先生の指示や説明の仕方は分かりやすいと思う」（生徒）×「授業の満足度」（生徒）



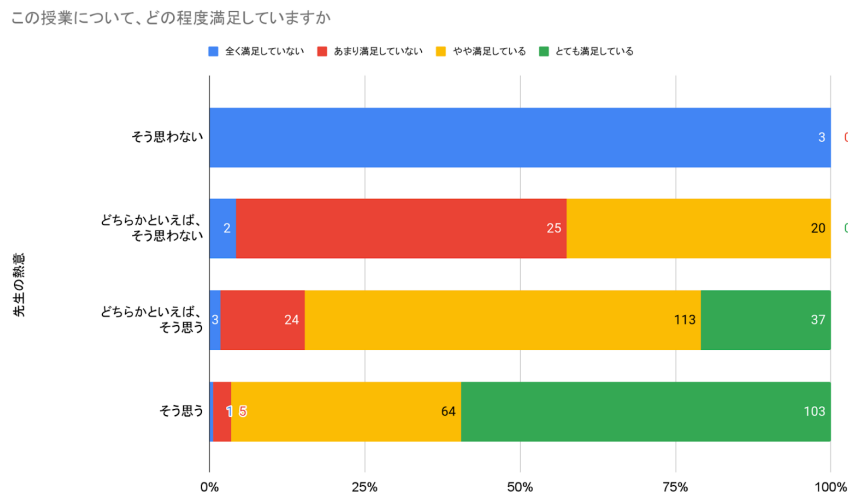
	全く満足していない	あまり満足していない	やや満足している	とても満足している	合計
そう思わない	55.56	22.22	22.22	0	100
どちらかといえば、 そう思わない	4.17	55.56	38.89	1.39	100
どちらかといえば、 そう思う	0.58	5.85	70.18	23.39	100
そう思う	0	1.35	31.76	66.89	100

図表6-7「この授業の先生は、生徒一人ひとりのことをよく理解しようとしていると思う」（生徒）×「授業の満足度」（生徒）



	全く満足していない	あまり満足していない	やや満足している	とても満足している	合計
そう思わない	30	30	40	0	100
どちらかといえば、 そう思わない	7.55	43.4	49.06	0	100
どちらかといえば、 そう思う	1.04	13.99	59.59	25.39	100
そう思う	0	0.69	36.11	63.19	100

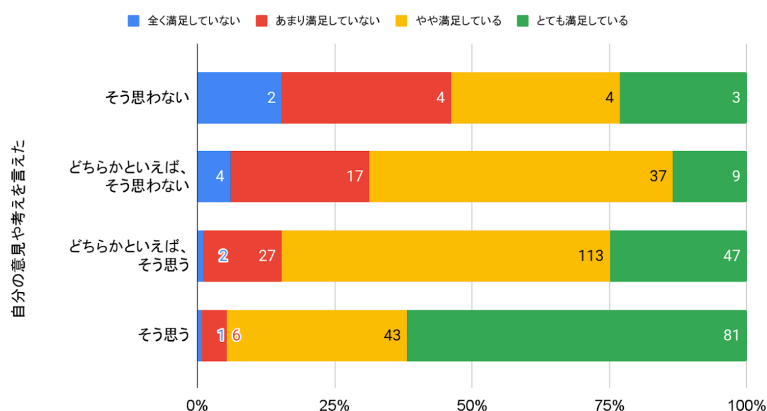
図表6-8「この授業の先生から、授業をよりよくしようとする熱意が伝わってくる」（生徒）×「授業の満足度」（生徒）



	全く満足していない	あまり満足していない	やや満足している	とても満足している	合計
そう思わない	100	0	0	0	100
どちらかといえば、 そう思わない	4.26	53.19	42.55	0	100
どちらかといえば、 そう思う	1.69	13.56	63.84	20.9	100
そう思う	0.58	2.89	36.99	59.54	100

図表6-9「この授業では、先生やクラスメイトに自分の意見や考えを言えたと思う」（生徒）×「授業の満足度」（生徒）

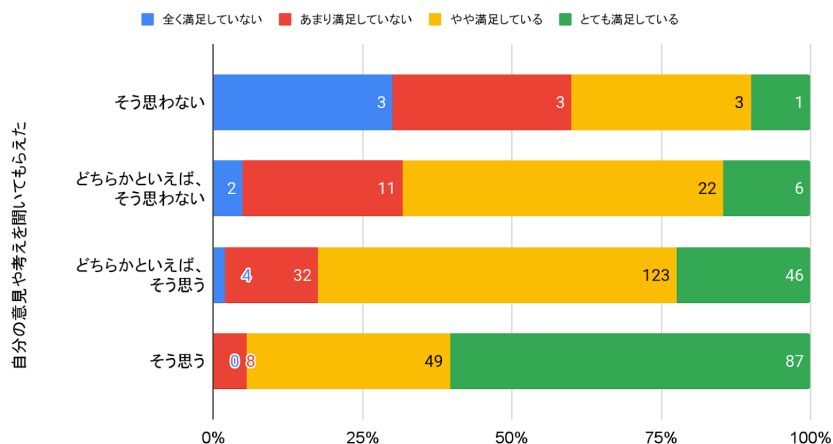
この授業について、どの程度満足していますか



	全く満足していない	あまり満足していない	やや満足している	とても満足している	合計
そう思わない	15.38	30.77	30.77	23.08	100
どちらかといえば、そう思わない	5.97	25.37	55.22	13.43	100
どちらかといえば、そう思う	1.06	14.29	59.79	24.87	100
そう思う	0.76	4.58	32.82	61.83	100

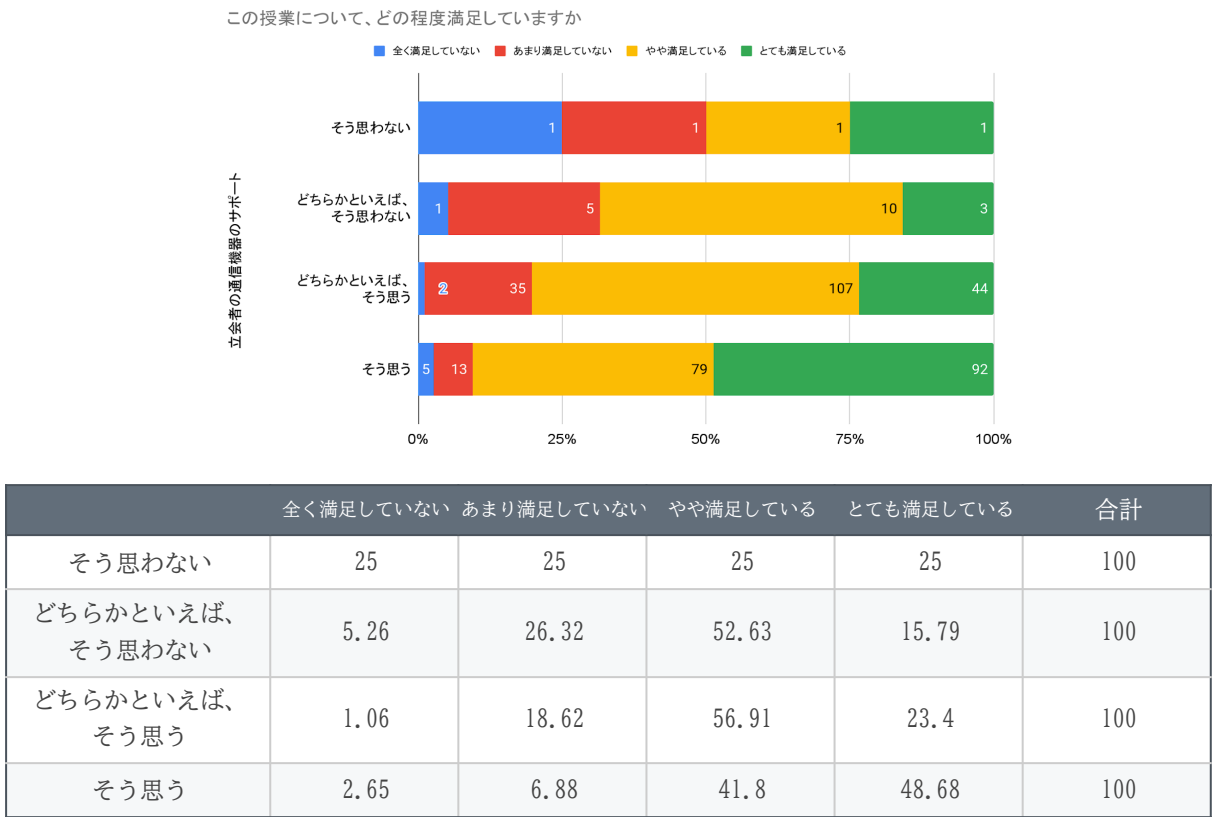
図表6-10「この授業では、先生やクラスメイトに自分の意見や考えを聞いてもらえたと思う」（生徒）×「授業の満足度」（生徒）

この授業について、どの程度満足していますか

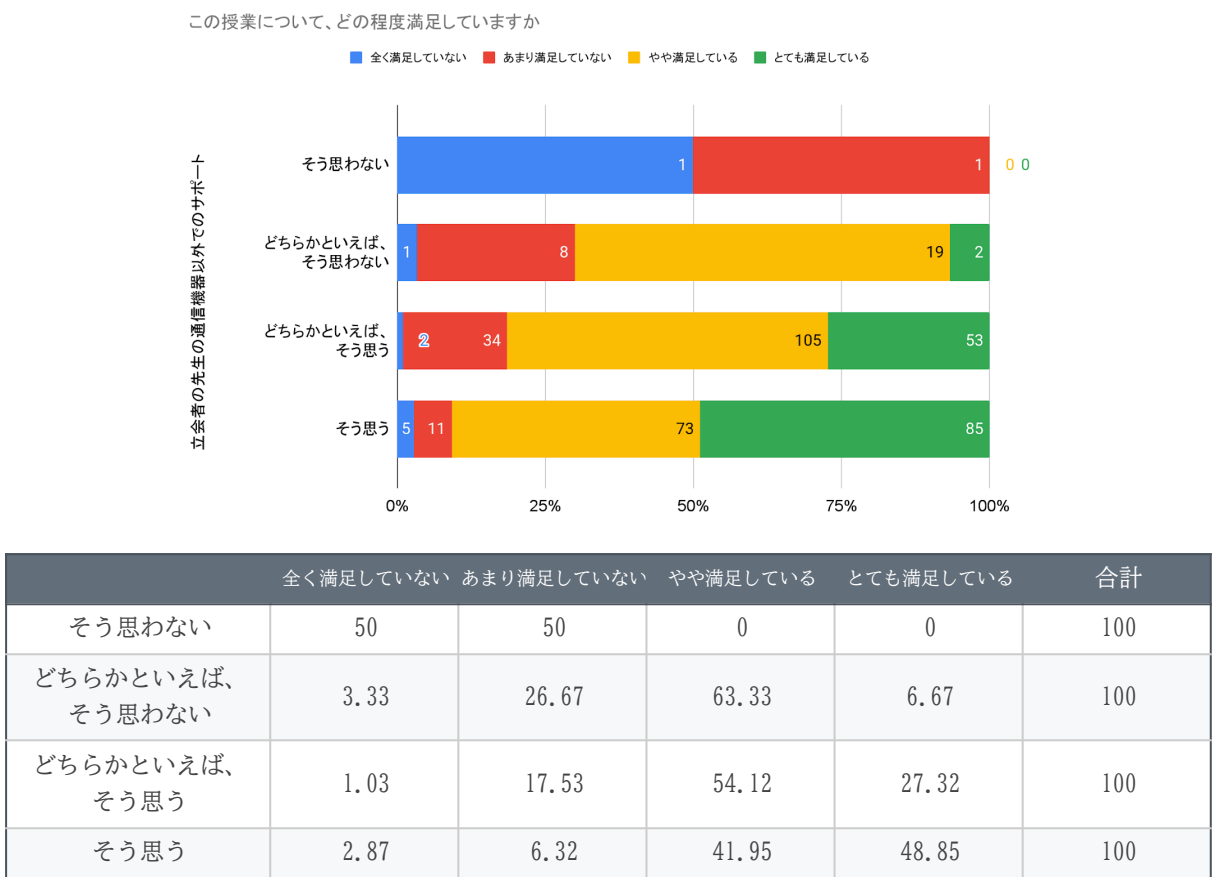


	全く満足していない	あまり満足していない	やや満足している	とても満足している	合計
そう思わない	30	30	30	10	100
どちらかといえば、そう思わない	4.88	26.83	53.66	14.63	100
どちらかといえば、そう思う	1.95	15.61	60	22.44	100
そう思う	0	5.56	34.03	60.42	100

図表6-11「この授業では、立会者の先生が通信機器に関してサポートしてくれたと思う」（生徒）×「授業の満足度」（生徒）



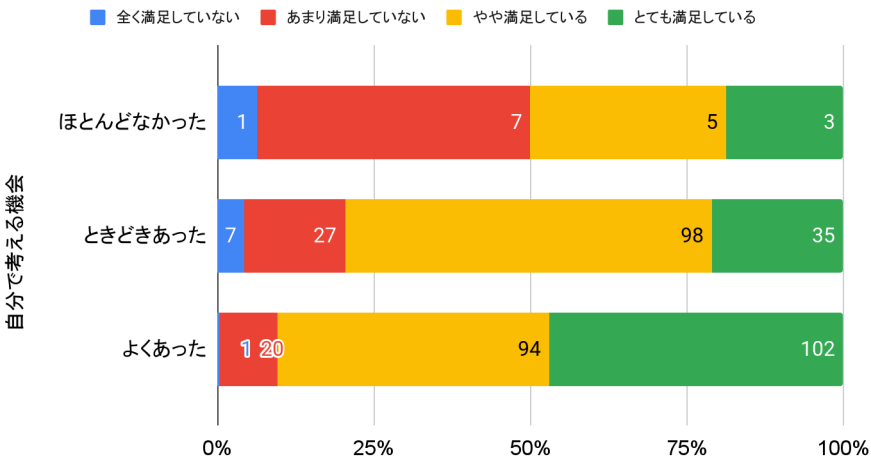
図表6-12「この授業では、立会者の先生が通信機器以外でサポートしてくれたと思う」（生徒）×「授業の満足度」（生徒）



授業における機会と授業満足度の関連

図表6-13「自分で考える機会」(生徒) × 「授業の満足度」(生徒)

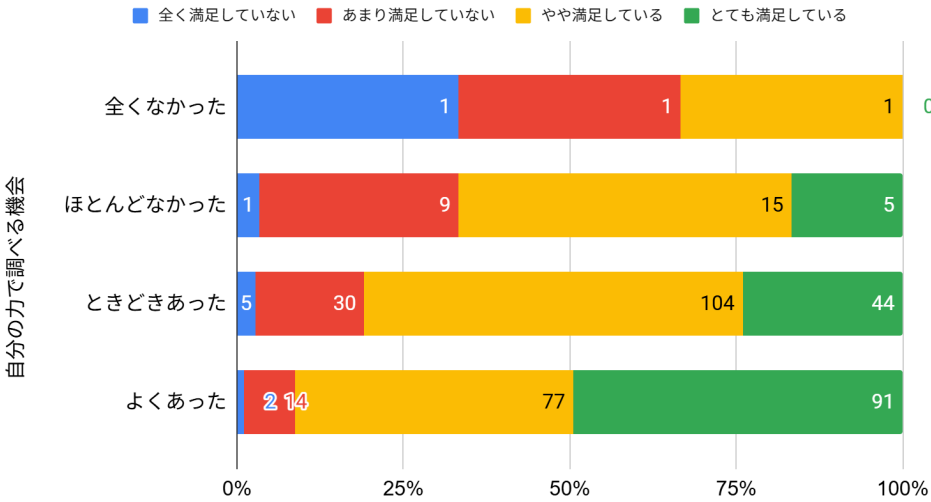
この授業について、どの程度満足していますか



	全く満足していない	あまり満足していない	やや満足している	とても満足している	合計
ほとんどなかった	6.25	43.75	31.25	18.75	100
ときどきあった	4.19	16.17	58.68	20.96	100
よくあった	0.46	9.22	43.32	47	100

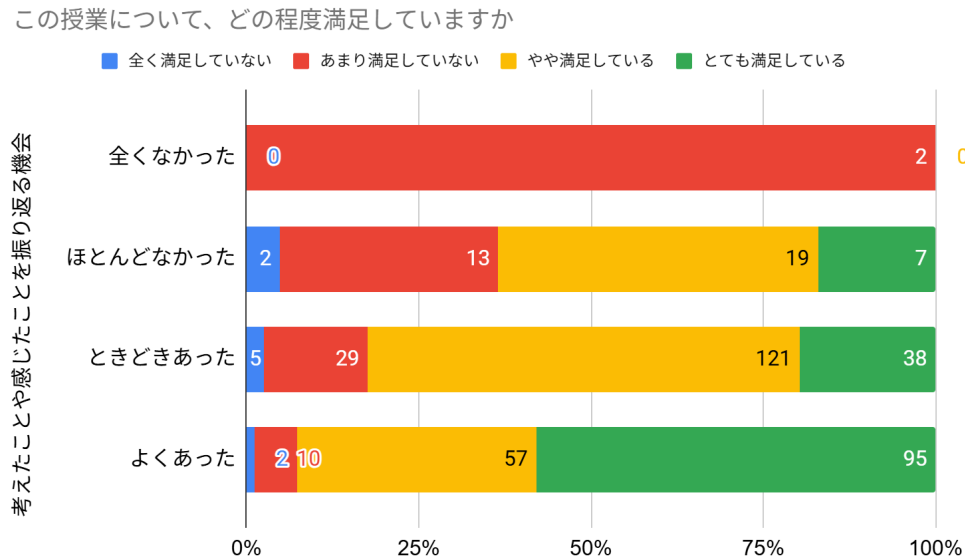
図表6-14「自分の力で調べる機会」(生徒) × 「授業の満足度」(生徒)

この授業について、どの程度満足していますか



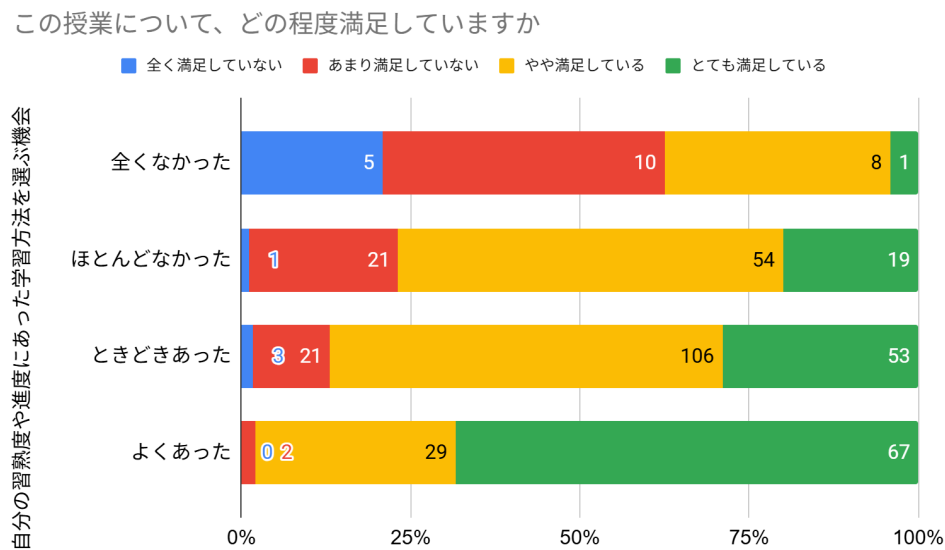
	全く満足していない	あまり満足していない	やや満足している	とても満足している	合計
全くなかった	33.33	33.33	33.33	0	100
ほとんどなかった	3.33	30	50	16.67	100
ときどきあった	2.73	16.39	56.83	24.04	100
よくあった	1.09	7.61	41.85	49.46	100

図表6-15 「考えたことや感じたことを振り返る機会」（生徒）×「授業の満足度」（生徒）



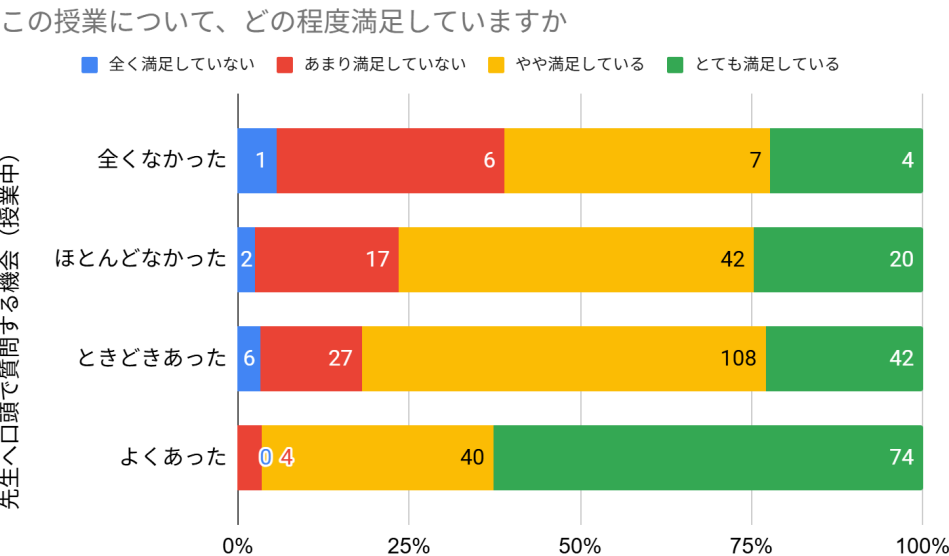
	全く満足していない	あまり満足していない	やや満足している	とても満足している	合計
全くなかった	0	100	0	0	100
ほとんどなかった	4.88	31.71	46.34	17.07	100
ときどきあった	2.59	15.03	62.69	19.69	100
よくあった	1.22	6.1	34.76	57.93	100

図表6-16 「自分の習熟度や進度にあった学習方法を選ぶ機会」（生徒）×「授業の満足度」（生徒）



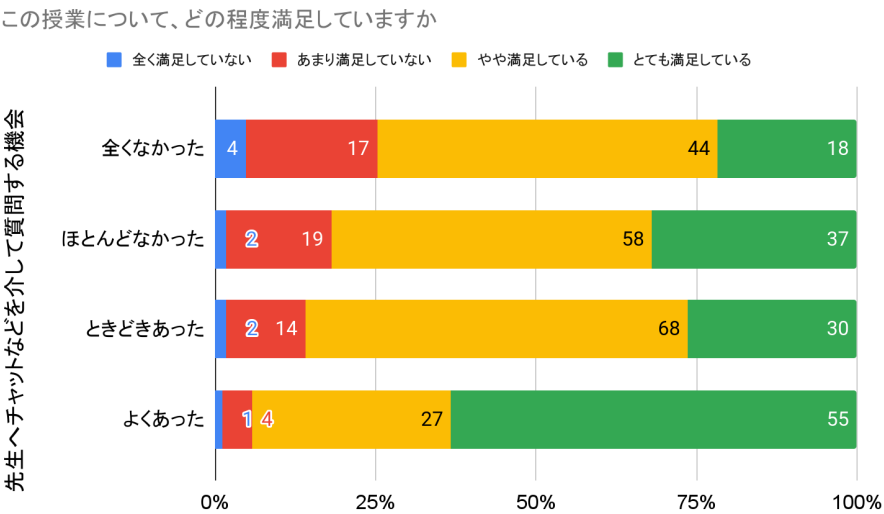
	全く満足していない	あまり満足していない	やや満足している	とても満足している	合計
全くなかった	20.83	41.67	33.33	4.17	100
ほとんどなかった	1.05	22.11	56.84	20	100
ときどきあった	1.64	11.48	57.92	28.96	100
よくあった	0	2.04	29.59	68.37	100

図表6-17「授業中、困ったり分からなかったりするときに、先生へ口頭で質問する機会」（生徒）×「授業の満足度」（生徒）



	全く満足していない	あまり満足していない	やや満足している	とても満足している	合計
全くなかった	5.56	33.33	38.89	22.22	100
ほとんどなかった	2.47	20.99	51.85	24.69	100
ときどきあった	3.28	14.75	59.02	22.95	100
よくあった	0	3.39	33.9	62.71	100

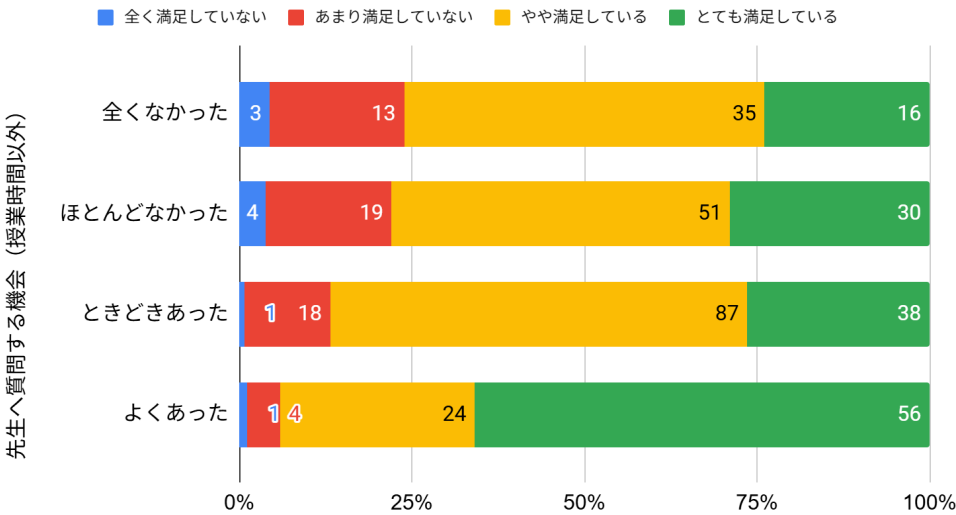
図表6-18「授業中、困ったり分からなかったりするときに、先生へチャットなどを介して質問する機会」（生徒）×「授業の満足度」（生徒）



	全く満足していない	あまり満足していない	やや満足している	とても満足している	合計
全くなかった	4.82	20.48	53.01	21.69	100
ほとんどなかった	1.72	16.38	50	31.9	100
ときどきあった	1.75	12.28	59.65	26.32	100
よくあった	1.15	4.6	31.03	63.22	100

図表6-19「授業時間以外で、困ったり分からなかったりするときに、先生へ質問する機会」（生徒）×「授業の満足度」（生徒）

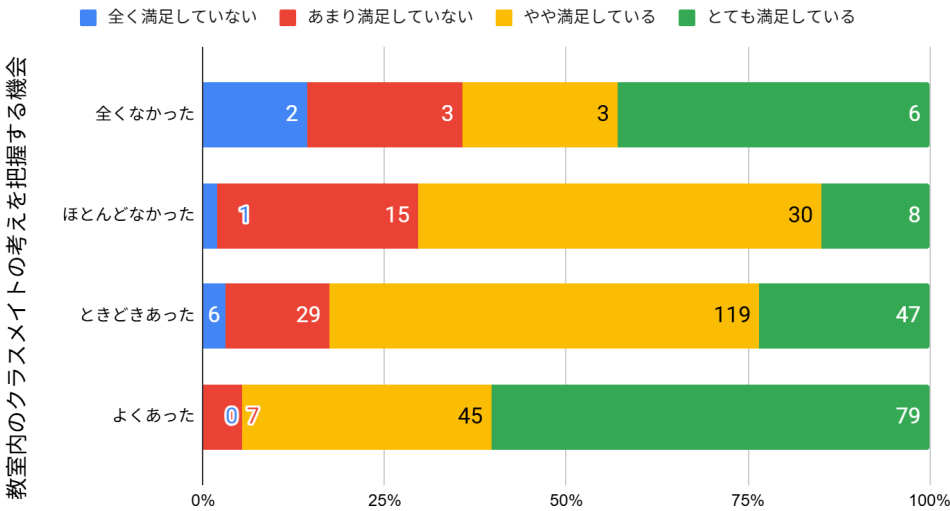
この授業を受けて、この教科・科目に興味関心が深まったと思う



	全く満足していない	あまり満足していない	やや満足している	とても満足している	合計
全くなかった	4.48	19.4	52.24	23.88	100
ほとんどなかった	3.85	18.27	49.04	28.85	100
ときどきあった	0.69	12.5	60.42	26.39	100
よくあった	1.18	4.71	28.24	65.88	100

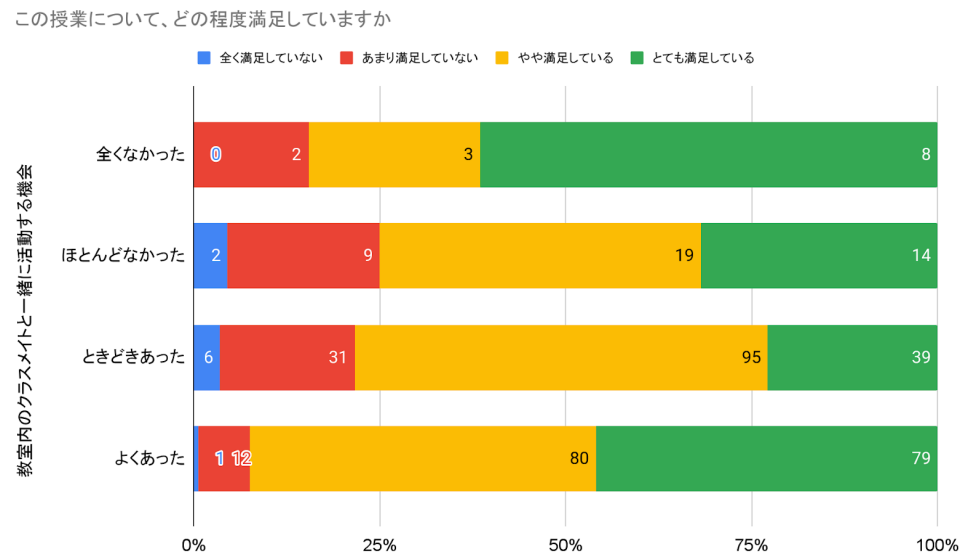
図表6-20「教室内のクラスメイトの考えを把握する機会」（生徒）×「授業の満足度」（生徒）

この授業について、どの程度満足していますか



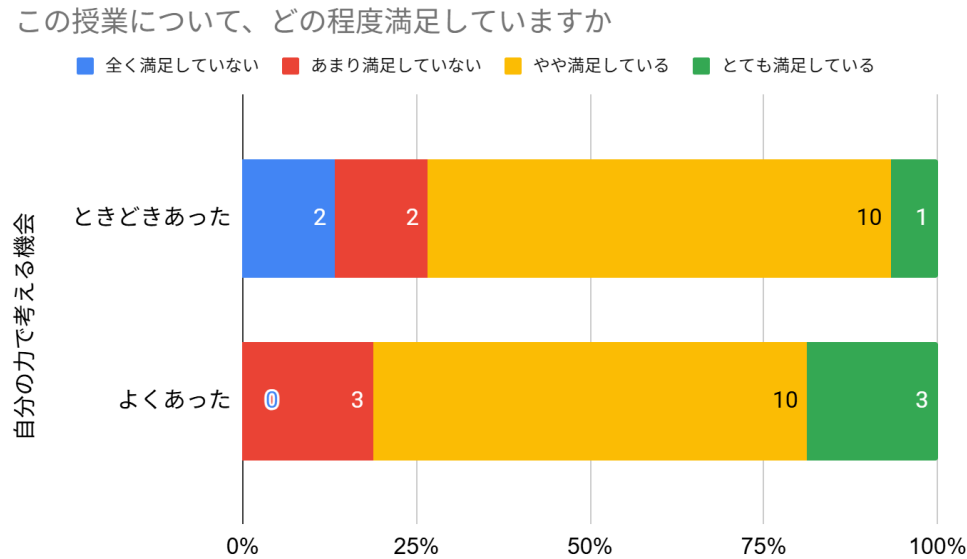
	全く満足していない	あまり満足していない	やや満足している	とても満足している	合計
全くなかった	14.29	21.43	21.43	42.86	100
ほとんどなかった	1.85	27.78	55.56	14.81	100
ときどきあった	2.99	14.43	59.2	23.38	100
よくあった	0	5.34	34.35	60.31	100

図表6-21 「教室内のクラスメイトと一緒に活動する（グループやペア）機会」（生徒） × 「授業の満足度」（生徒）



	全く満足していない	あまり満足していない	やや満足している	とても満足している	合計
全くなかった	0	15.38	23.08	61.54	100
ほとんどなかった	4.55	20.45	43.18	31.82	100
ときどきあった	3.51	18.13	55.56	22.81	100
よくあった	0.58	6.98	46.51	45.93	100

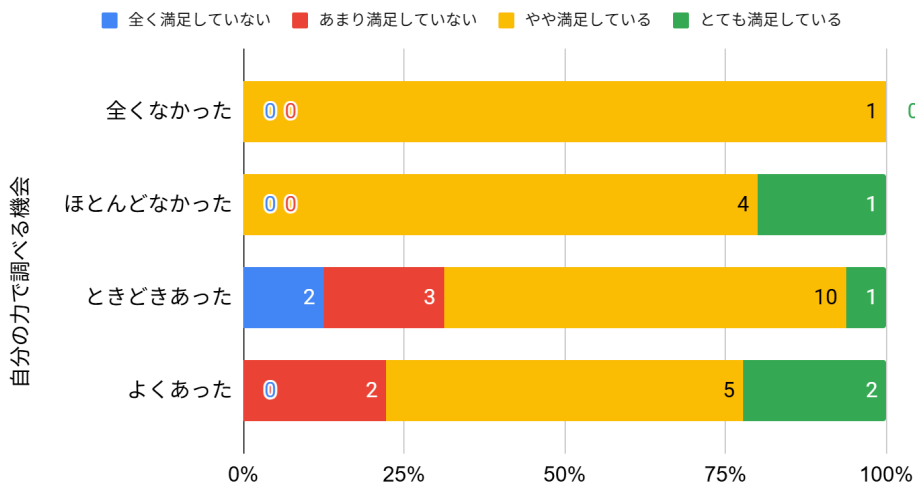
図表6-22 「自分の力で考える機会」（教員） × 「授業の満足度」（教員）



	全く満足していない	あまり満足していない	やや満足している	とても満足している	合計
ときどきあった	13.33	13.33	66.67	6.67	100
よくあった	0	18.75	62.5	18.75	100
合計	6.45	16.13	64.52	12.9	100

図表6-23 「自分の力で調べる機会」(教員) × 「授業の満足度」(教員)

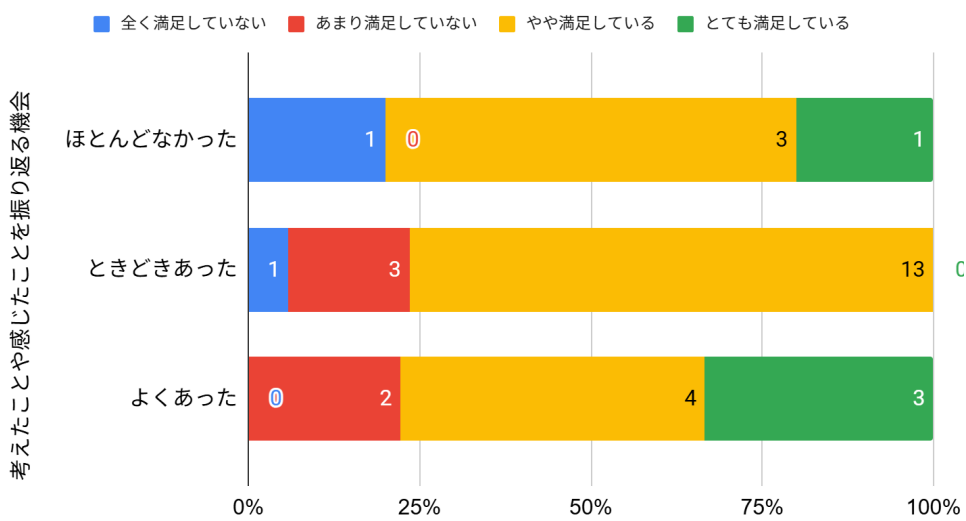
この授業について、どの程度満足していますか



	全く満足していない	あまり満足していない	やや満足している	とても満足している	合計
全くなかった	0	0	100	0	100
ほとんどなかった	0	0	80	20	100
ときどきあった	12.5	18.75	62.5	6.25	100
よくあった	0	22.22	55.56	22.22	100

図表6-24 「考えたことや感じたことを振り返る機会」(教員) × 「授業の満足度」(教員)

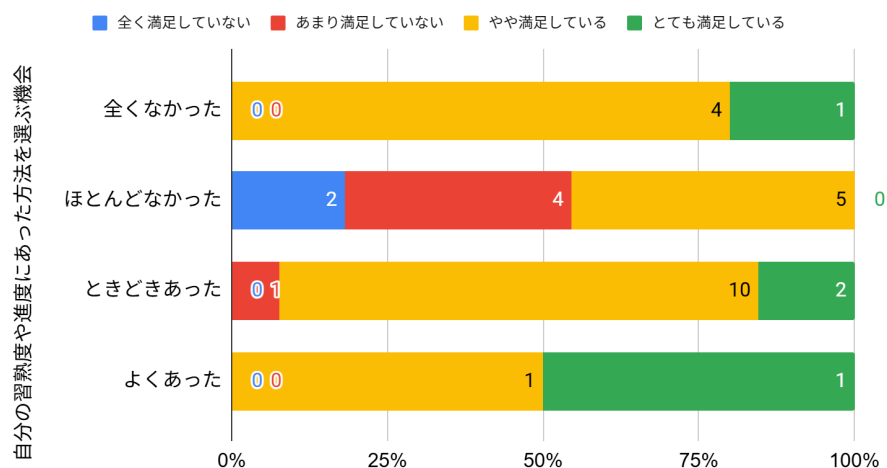
この授業について、どの程度満足していますか



	全く満足していない	あまり満足していない	やや満足している	とても満足している	合計
ほとんどなかった	20	0	60	20	100
ときどきあった	5.88	17.65	76.47	0	100
よくあった	0	22.22	44.44	33.33	100

図表6-25 「自分の習熟度や進度にあった方法を選ぶ機会」(教員) × 「授業の満足度」(教員)

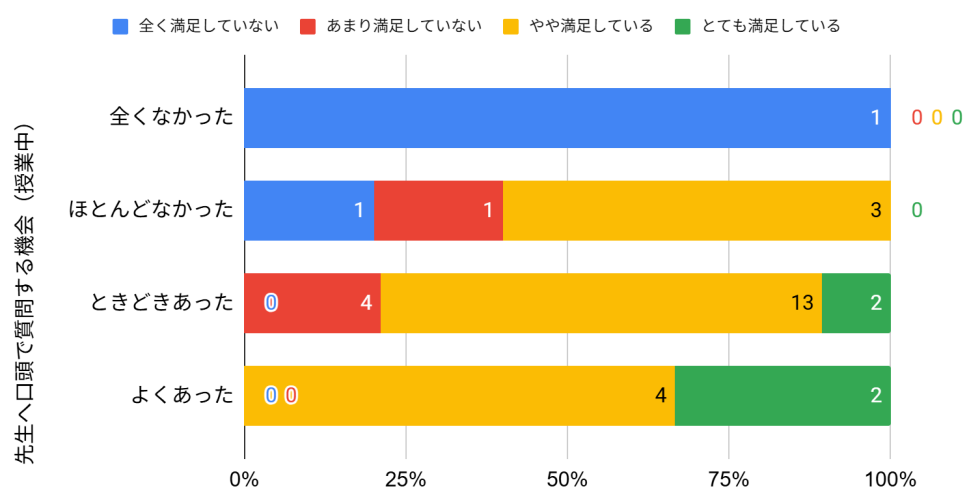
この授業について、どの程度満足していますか



	全く満足していない	あまり満足していない	やや満足している	とても満足している	合計
全くなかった	0	0	80	20	100
ほとんどなかった	18.18	36.36	45.45	0	100
ときどきあった	0	7.69	76.92	15.38	100
よくあった	0	0	50	50	100

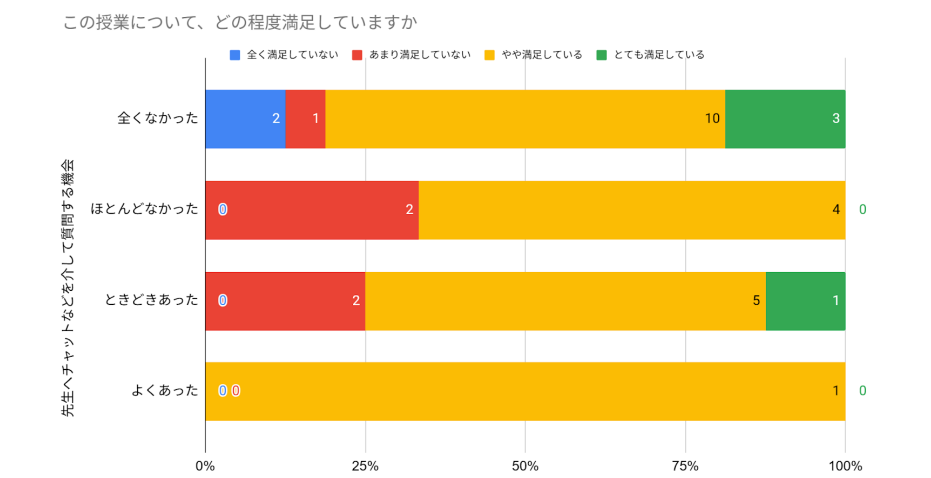
図表6-26 「授業中、困ったり分からなかったりするときに、先生へ口頭で質問する機会」(教員) × 「授業の満足度」(教員)

この授業について、どの程度満足していますか



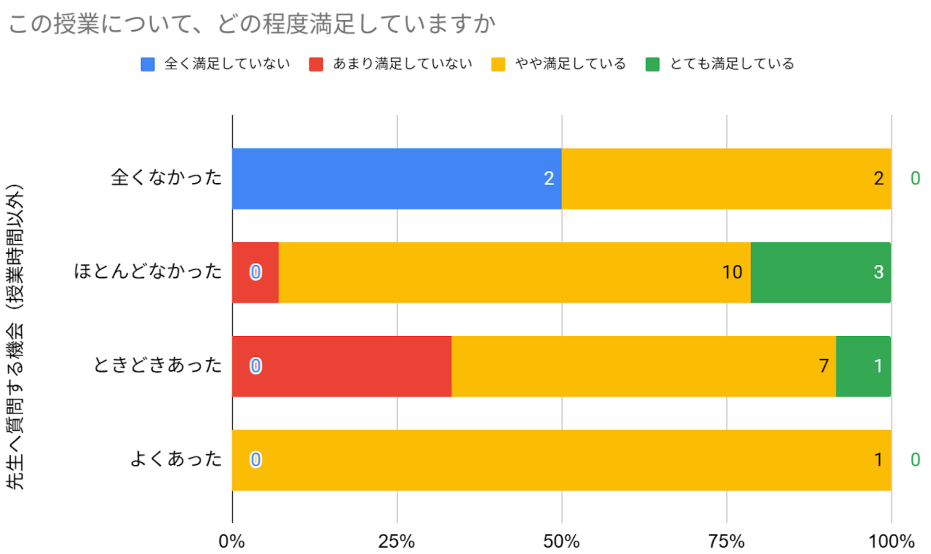
	全く満足していない	あまり満足していない	やや満足している	とても満足している	合計
全くなかった	100	0	0	0	100
ほとんどなかった	20	20	60	0	100
ときどきあった	0	21.05	68.42	10.53	100
よくあった	0	0	66.67	33.33	100

図表6-27 「授業中、困ったり分からなかったりするときに、先生へチャットなどを介して質問する機会」
（教員）×「授業の満足度」（教員）



	全く満足していない	あまり満足していない	やや満足している	とても満足している	合計
全くなかった	12.5	6.25	62.5	18.75	100
ほとんどなかった	0	33.33	66.67	0	100
ときどきあった	0	25	62.5	12.5	100
よくあった	0	0	100	0	100

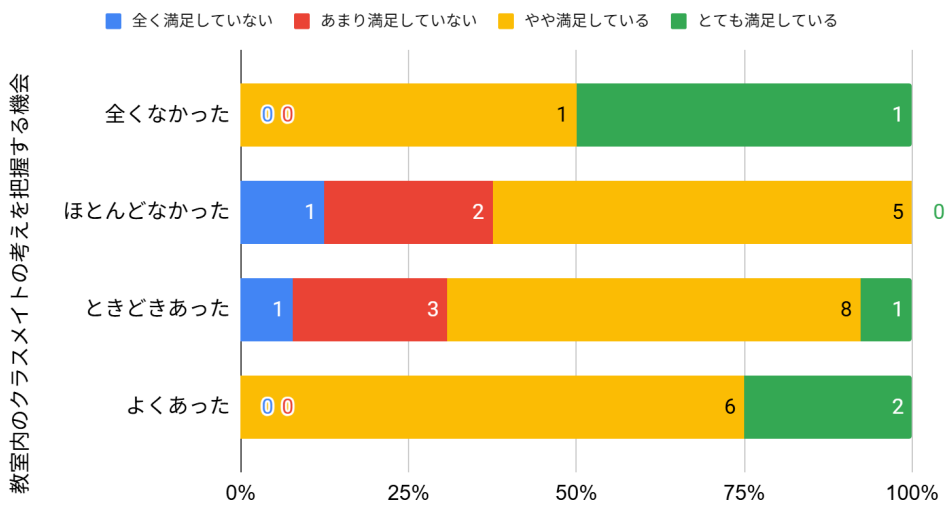
図表6-28 「授業時間以外で、困ったり分からなかったりするときに、先生へ質問する機会」
（教員）×「授業の満足度」（教員）



	全く満足していない	あまり満足していない	やや満足している	とても満足している	合計
全くなかった	50	0	50	0	100
ほとんどなかった	0	7.14	71.43	21.43	100
ときどきあった	0	33.33	58.33	8.33	100
よくあった	0	0	100	0	100

図表6-29 「教室内のクラスメイトの考えを把握する機会」(教員) × 「授業の満足度」(教員)

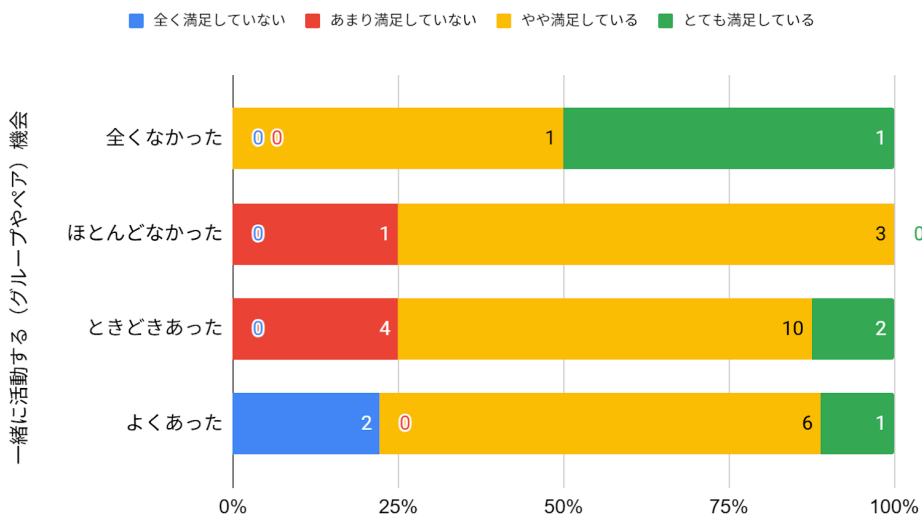
この授業について、どの程度満足していますか



	全く満足していない	あまり満足していない	やや満足している	とても満足している	合計
全くなかった	0	0	50	50	100
ほとんどなかった	12.5	25	62.5	0	100
ときどきあった	7.69	23.08	61.54	7.69	100
よくあった	0	0	75	25	100

図表6-30 「教室内のクラスメイトの考えを把握する機会」(教員) × 「授業の満足度」(教員)

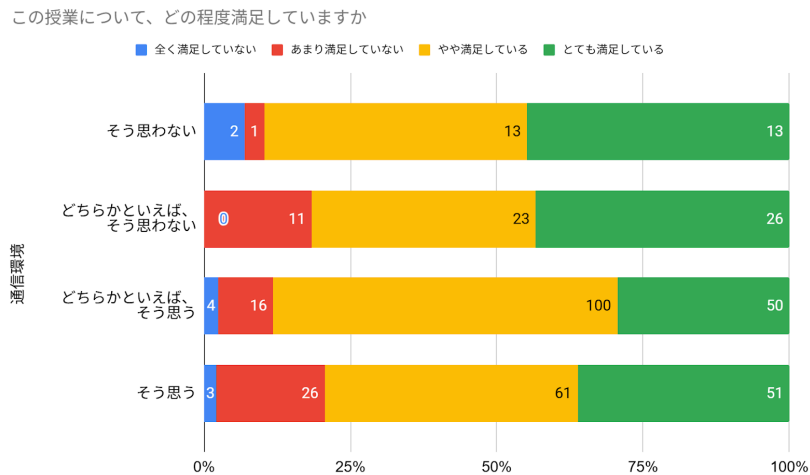
この授業について、どの程度満足していますか



	全く満足していない	あまり満足していない	やや満足している	とても満足している	合計
全くなかった	0	0	50	50	100
ほとんどなかった	0	25	75	0	100
ときどきあった	0	25	62.5	12.5	100
よくあった	22.22	0	66.67	11.11	100

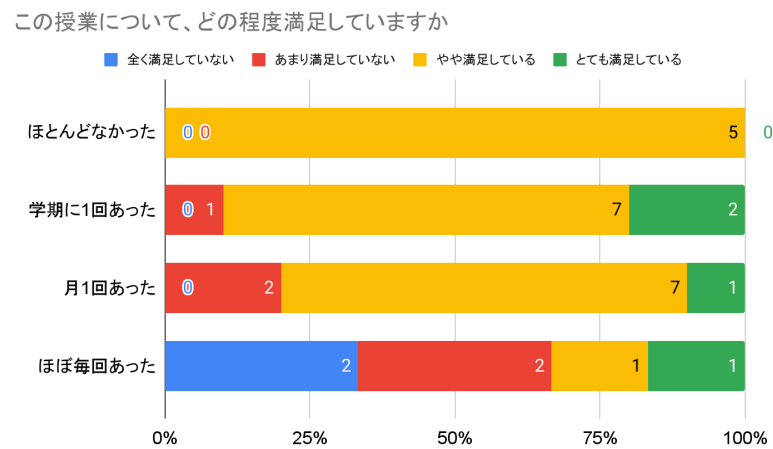
通信環境と授業満足度の関連

図表6-31 「通信環境」（生徒）×「授業の満足度」（生徒）



	全く満足していない	あまり満足していない	やや満足している	とても満足している	合計
そう思わない	6.9	3.45	44.83	44.83	100
どちらかといえば、そう思わない	0	18.33	38.33	43.33	100
どちらかといえば、そう思う	2.35	9.41	58.82	29.41	100
そう思う	2.13	18.44	43.26	36.17	100
合計	2.25	13.5	49.25	35	100

図表6-32 「通信環境が悪いことで授業へ支障が出る頻度」（教員）×「授業の満足度」（教員）

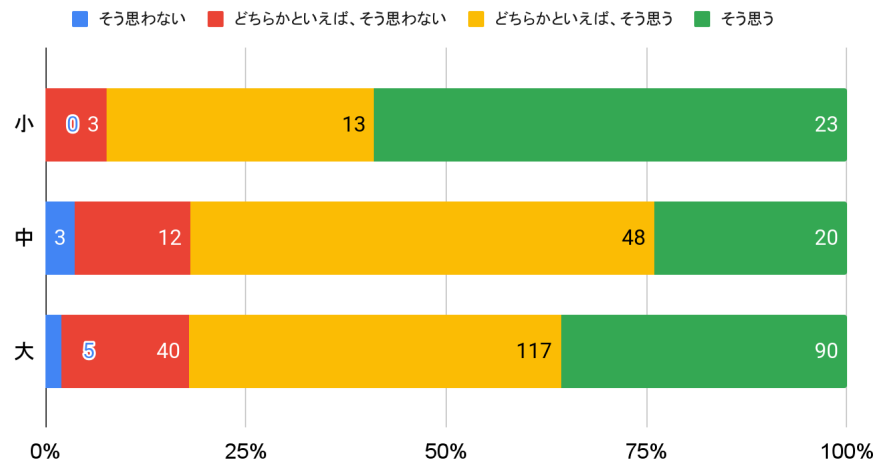


	全く満足していない	あまり満足していない	やや満足している	とても満足している	合計
ほとんどなかった	0	0	100	0	100
学期に1回あった	0	10	70	20	100
月1回あった	0	20	70	10	100
ほぼ毎回あった	33.33	33.33	16.67	16.67	100

クラス規模による傾向

図表6-33「私は、この授業に集中して取り組むことができたと思う」（生徒）×クラス規模

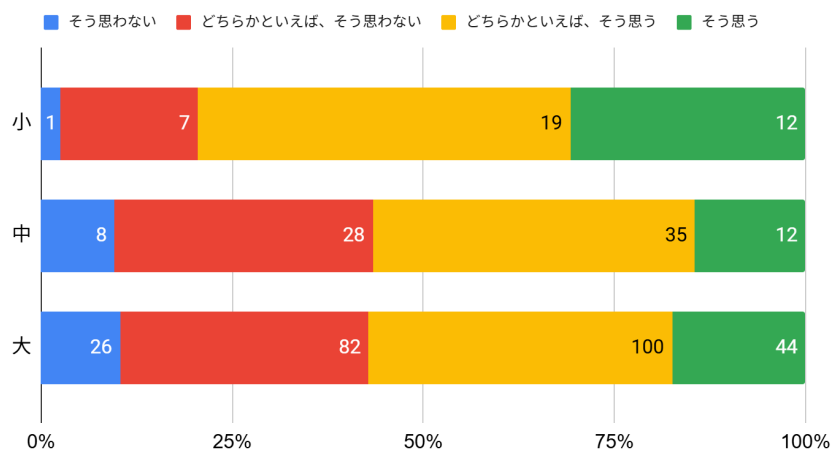
私は、この授業に集中して取り組むことができたと思う



	そう思わない	どちらかといえば、 そう思わない	どちらかといえば、 そう思う	そう思う	合計
小	0	7.69	33.33	58.97	100
中	3.61	14.46	57.83	24.1	100
大	1.98	15.87	46.43	35.71	100

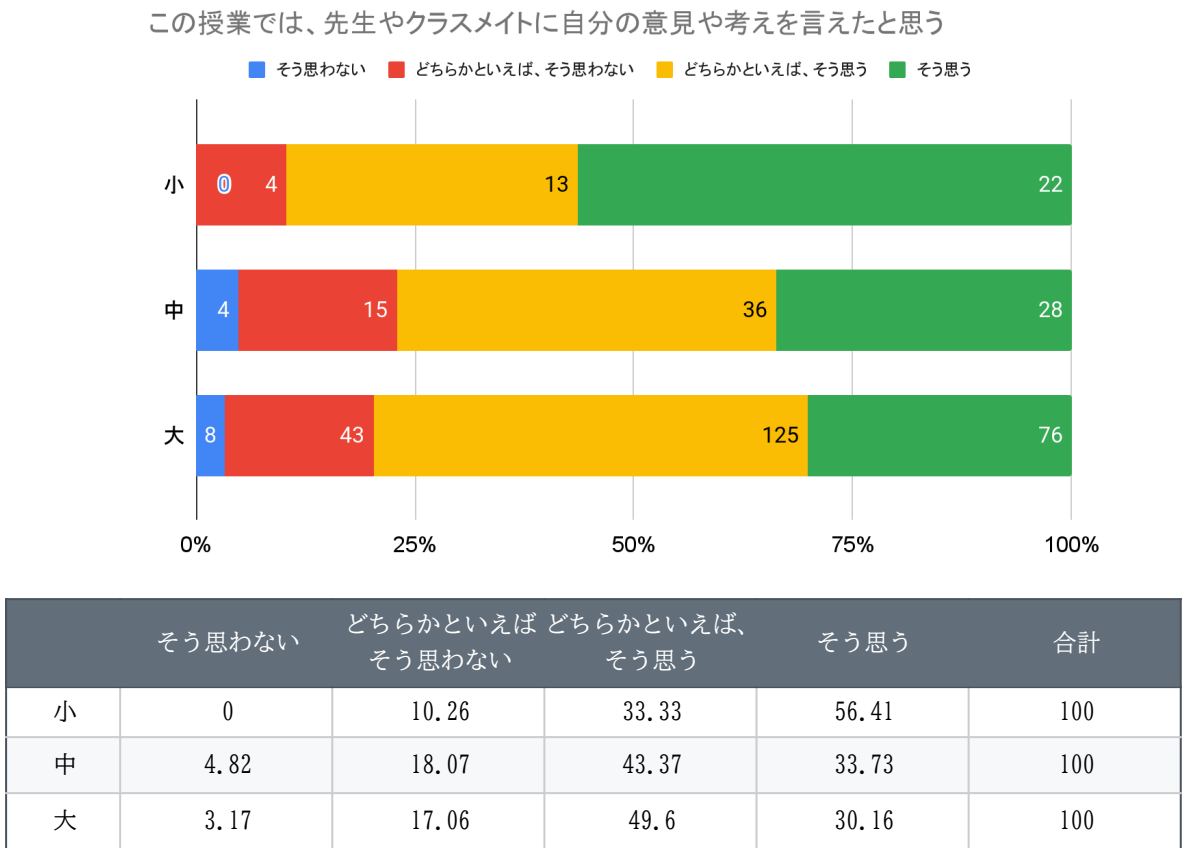
図表6-34「私は、この授業に引き込まれていたと思う」（生徒）×クラス規模

私は、この授業に引き込まれていたと思う

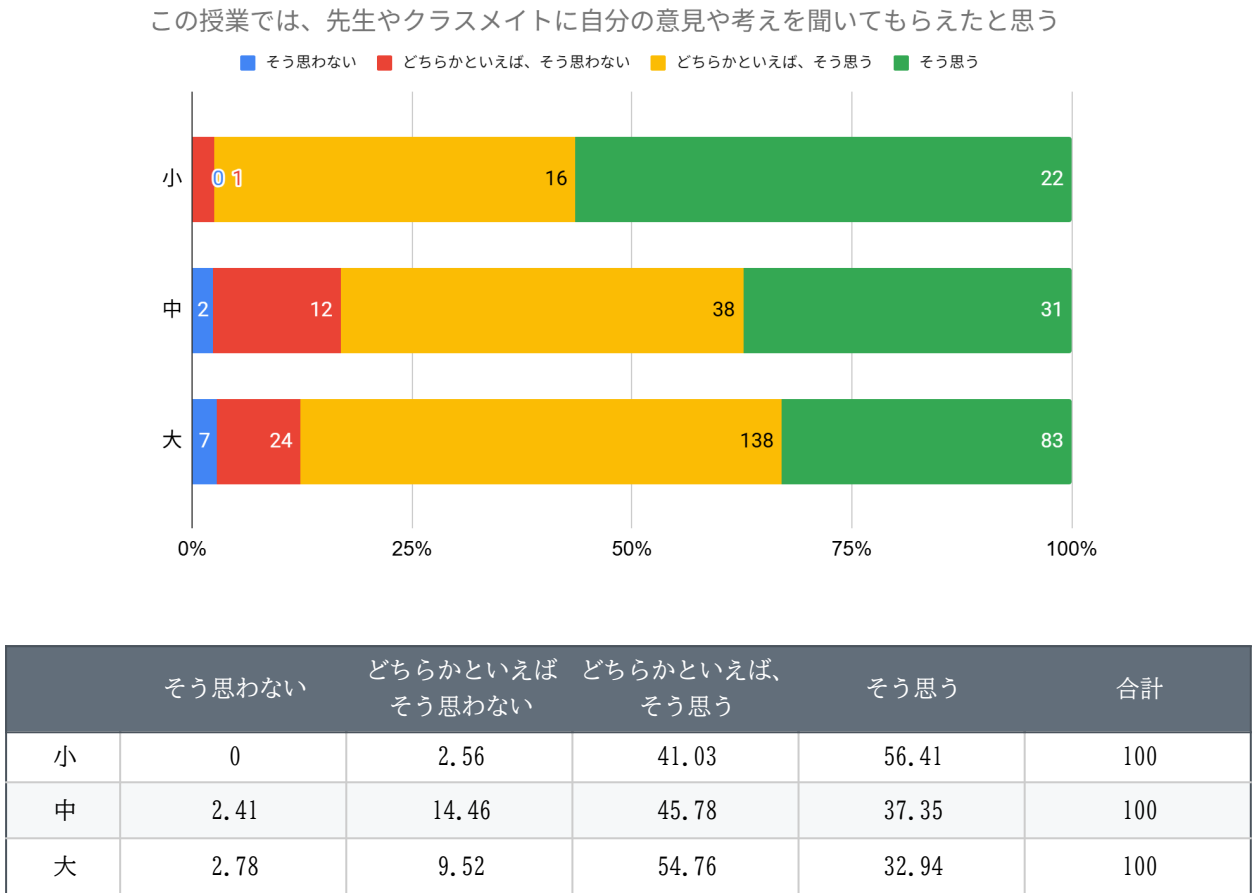


	そう思わない	どちらかといえば、 そう思わない	どちらかといえば、 そう思う	そう思う	合計
小	2.56	17.95	48.72	30.77	100
中	9.64	33.73	42.17	14.46	100
大	10.32	32.54	39.68	17.46	100

図表6-35 「この授業では、先生やクラスメイトに自分の意見や考えを言えたと思う」（生徒）×クラス規模

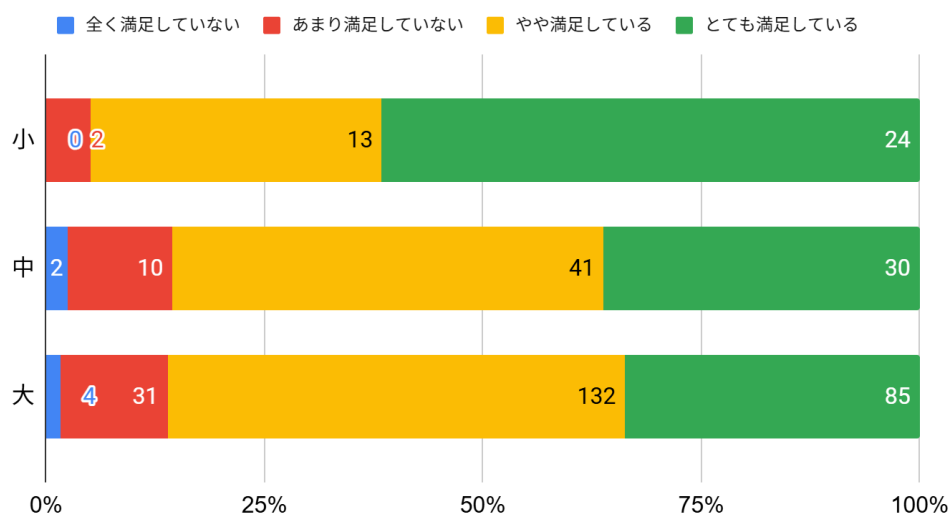


図表6-36 「この授業では、先生やクラスメイトに自分の意見や考えを聞いてもらえたと思う」（生徒）×クラス規模



図表6-37 「この授業について、どの程度満足していますか」（生徒）×クラス規模

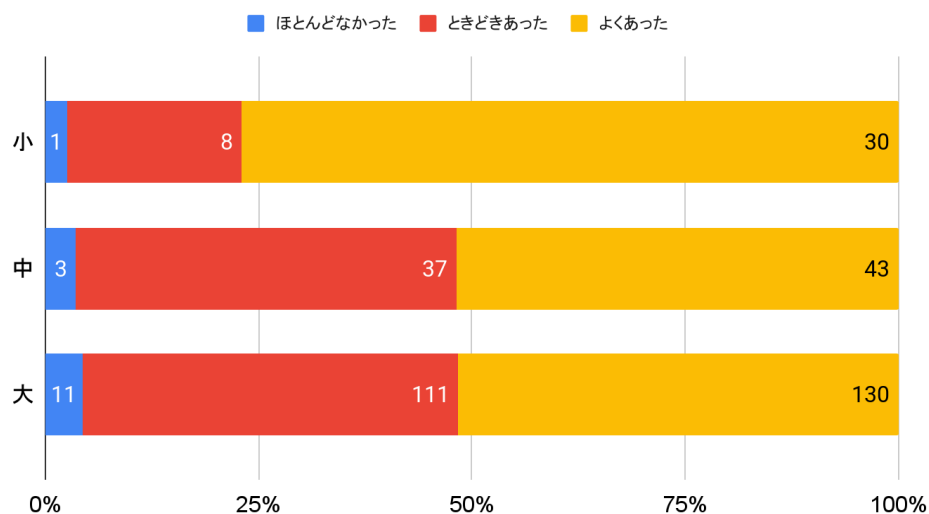
この授業について、どの程度満足していますか



	全く満足していない	あまり満足していない	やや満足している	とても満足している	合計
小	0	5.13	33.33	61.54	100
中	2.41	12.05	49.4	36.14	100
大	1.59	12.3	52.38	33.73	100

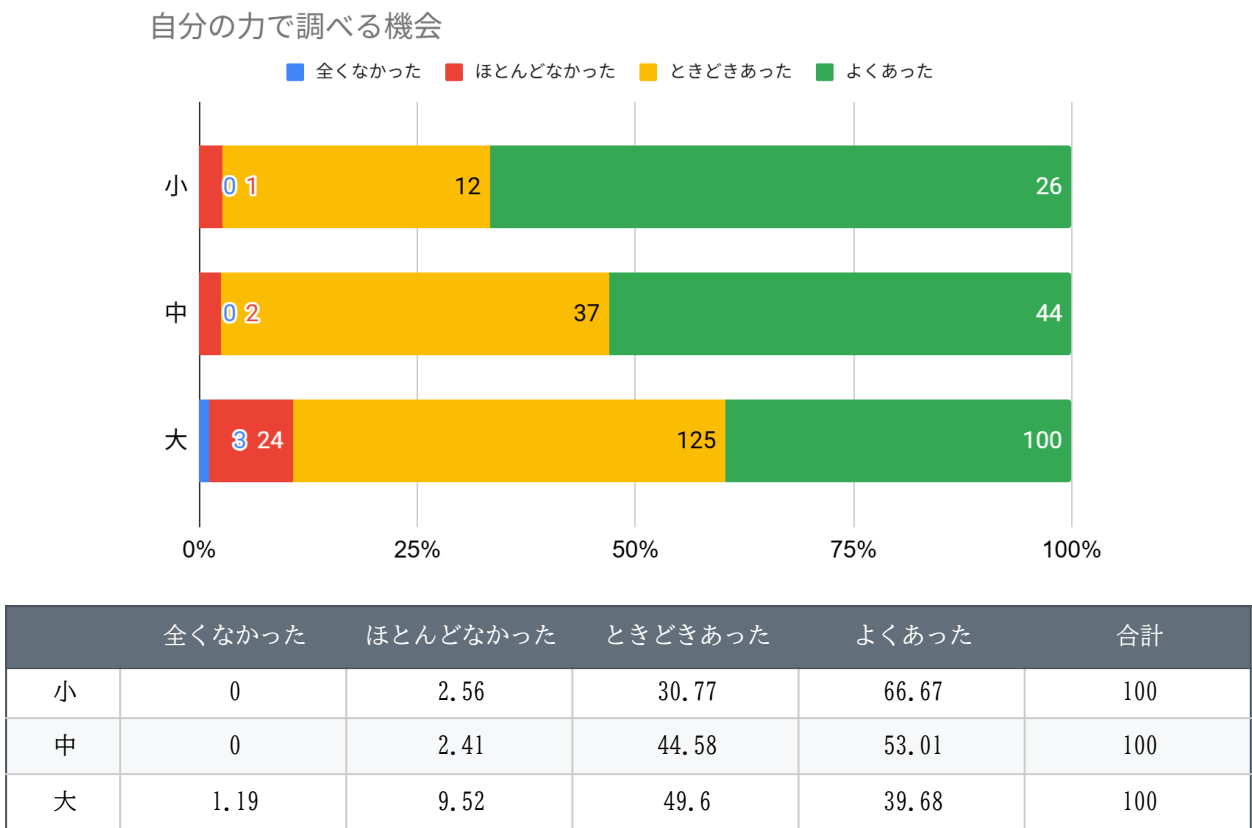
図表6-38 「自分で考える機会」（生徒）×クラス規模

自分の力で考える機会

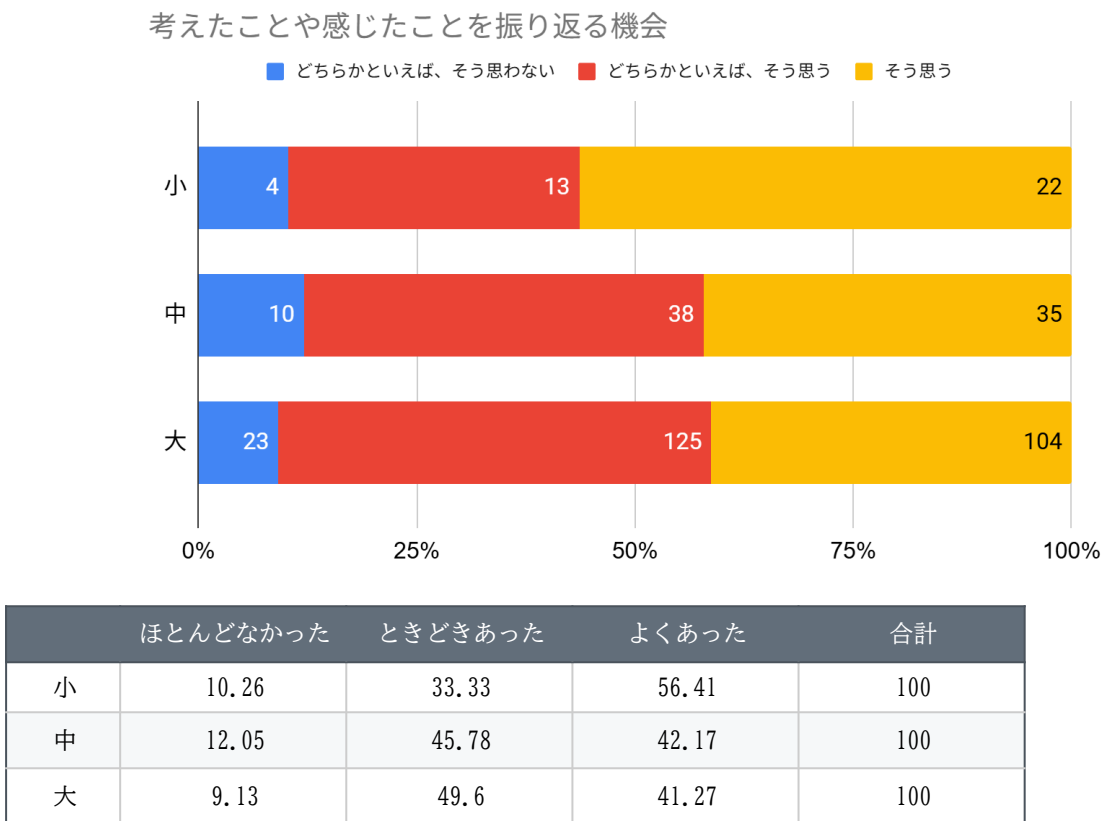


	ほとんどなかった	ときどきあった	よくあった	合計
小	2.56	20.51	76.92	100
中	3.61	44.58	51.81	100
大	4.37	44.05	51.59	100

図表6-39 「自分の力で調べる機会」（生徒）×クラス規模

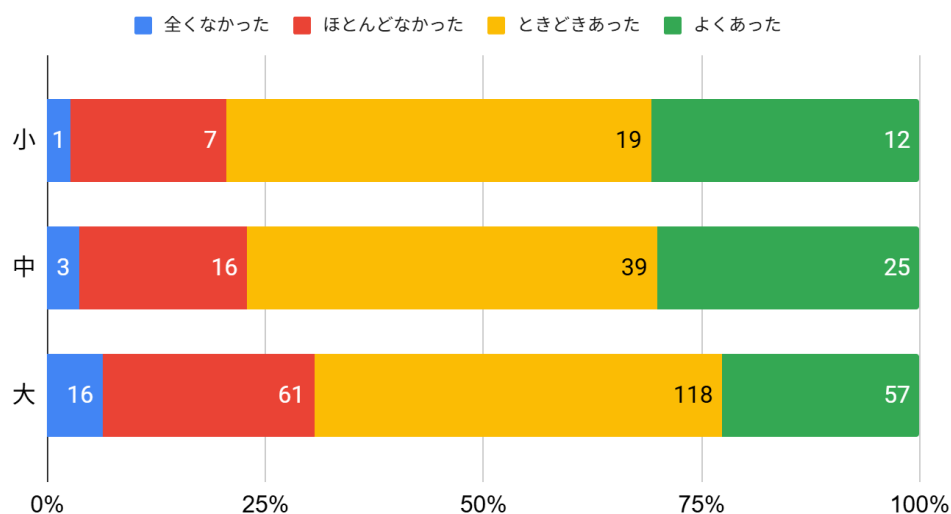


図表6-40 「考えたことや感じたことを振り返る機会」（生徒）×クラス規模



図表6-41「自分の習熟度や進度にあった学習方法を選ぶ機会」（生徒）×クラス規模

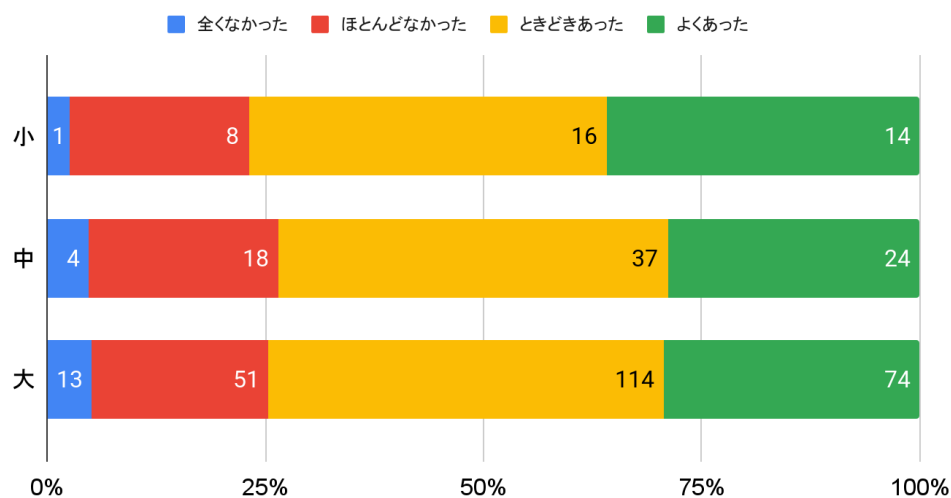
自分の習熟度や進度にあった学習方法を選ぶ機会



	全くなかった	ほとんどなかった	ときどきあった	よくあった	合計
小	2.56	17.95	48.72	30.77	100
中	3.61	19.28	46.99	30.12	100
大	6.35	24.21	46.83	22.62	100

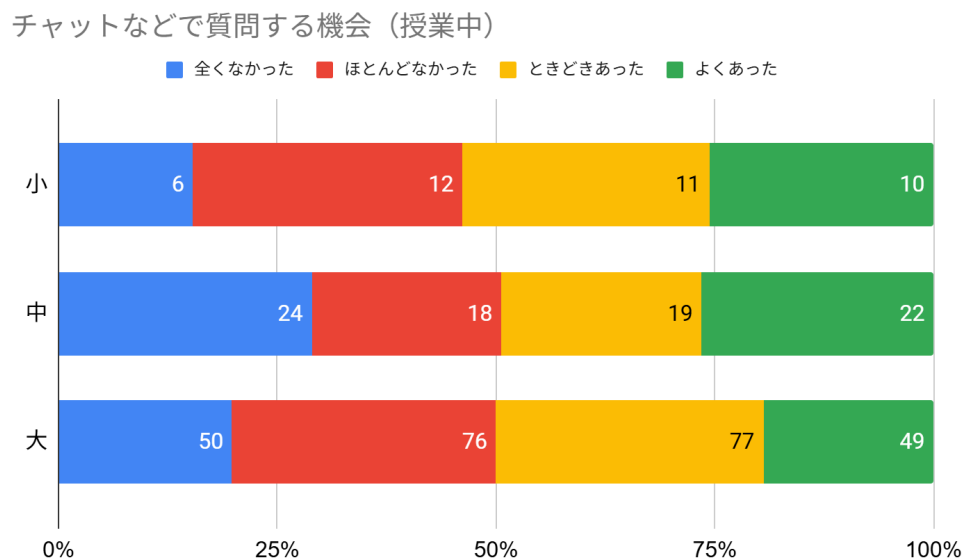
図表6-42「授業中、困ったり分からなかったりするときに、先生へ口頭で質問する機会」（生徒）×クラス規模

先生へ口頭で質問する機会（授業中）



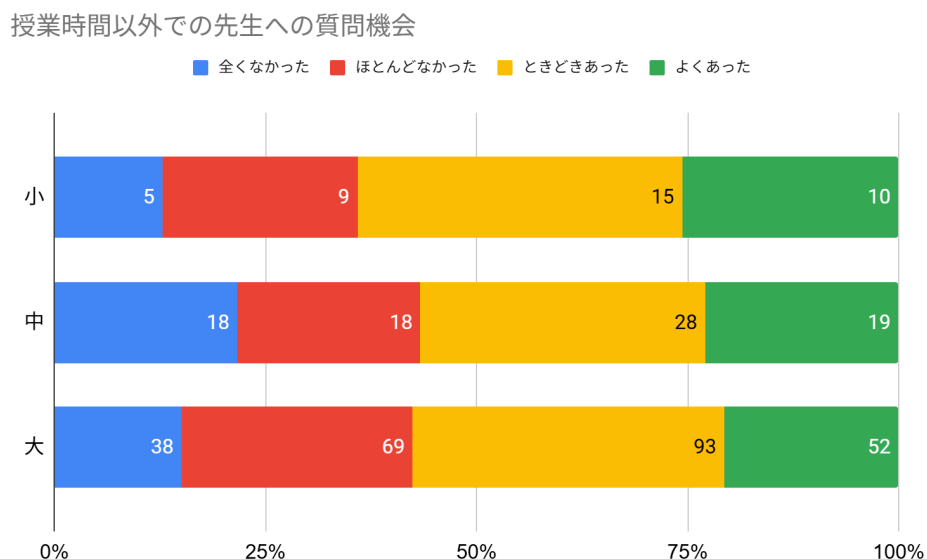
	全くなかった	ほとんどなかった	ときどきあった	よくあった	合計
小	2.56	20.51	41.03	35.9	100
中	4.82	21.69	44.58	28.92	100
大	5.16	20.24	45.24	29.37	100

図表6-43「授業中、困ったり分からなかったりするときに、先生へチャットなどを介して質問する機会」
（生徒）×クラス規模



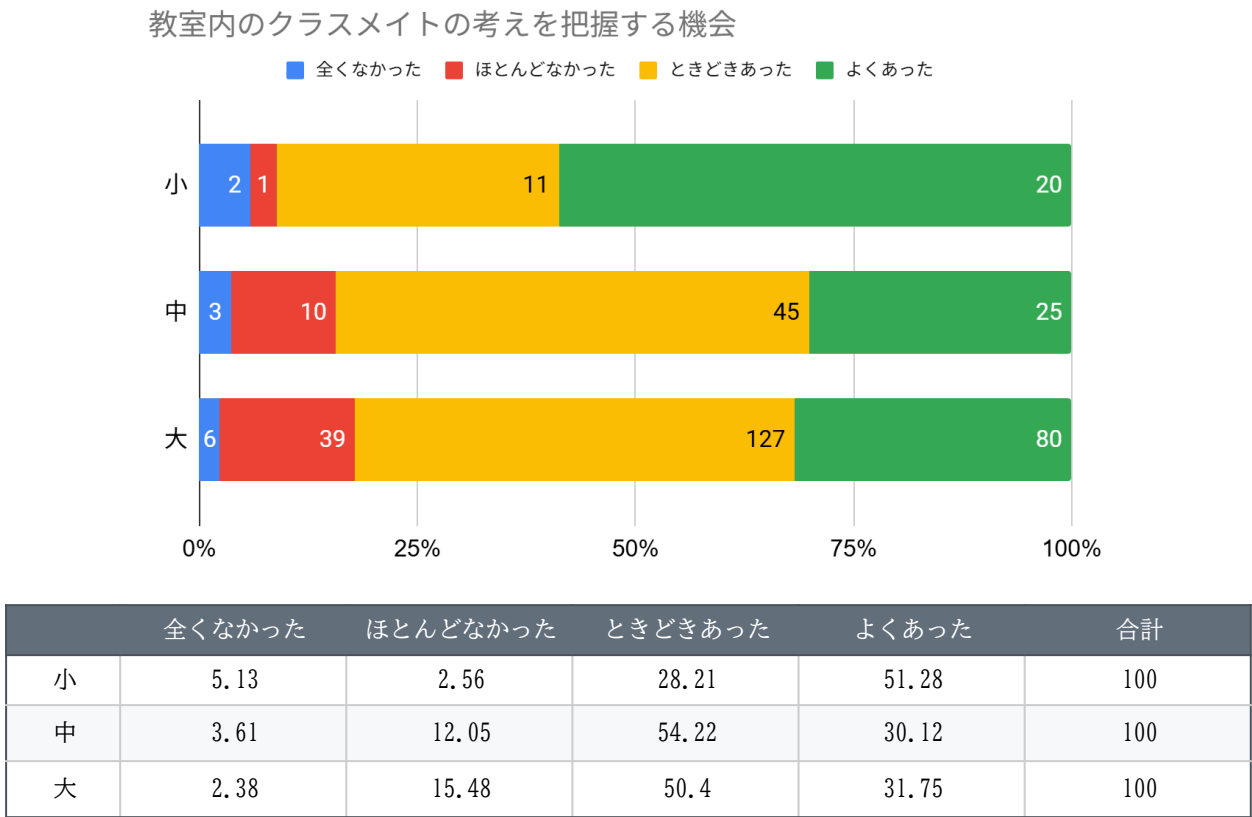
	全くなかった	ほとんどなかった	ときどきあった	よくあった	合計
小	15.38	30.77	28.21	25.64	100
中	28.92	21.69	22.89	26.51	100
大	19.84	30.16	30.56	19.44	100

図表6-44「授業時間以外で、困ったり分からなかったりするときに、先生へ質問する機会」
（生徒）×クラス規模



	全くなかった	ほとんどなかった	ときどきあった	よくあった	合計
小	12.82	23.08	38.46	25.64	100
中	21.69	21.69	33.73	22.89	100
大	15.08	27.38	36.9	20.63	100

図表6-45 「教室内のクラスメイトの考えを把握する機会」 （生徒）×クラス規模



図表6-46 「教室内のクラスメイトと一緒に活動する（グループやペア）機会」 （生徒）×クラス規模

